



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内 281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
所報 No.431  
発行責任者 所長 加藤 紀久朗  
発行日 平成20年 4月30日  
題字 増田 章 教育長

さくらのはなびらで、ケーキづくり



おおきいぐみさん、なにしてる？



撮影 駄知幼稚園 田中 芳佳先生

## 「毎日の当たり前や普通を積み重ねれば、特別になる」

56名の土岐市転入の先生方をお迎えして、新学期も始まり、間もなく一か月が過ぎようとしています。子どもたちも新しい学期に向けて、希望を持ったスタートが切れたことと思います。その証拠に、入学式・始業式の4月7日は一年間の中で一番出席率の高い日になっています。そんな子どもたちの気持ちを大切にしたいものです。

今年度も、今年こそはと少なからず意気込みを持ちながらスタートしたものの、一か月が経ち、メッキがはがれはじめている気がします。

私たち先生の仕事には、大発明や大発見はとも存在しません。この薬を飲めば、この機械を使えばすごいことになるということはありません。しかし、一年間のスパンは勿論ですが学期単位のスパンでみた場合でも、子どもの成長や変化には目を見張るものがあります。ところが、日々の一日だけを見ていると鈍感になってしまう面があります。

土岐市教育研究所長 加藤 紀久朗

新年度が始まり、各学校では校内人事に沿った校務分掌を踏まえ、夜遅くまでがんばっておられる先生方のお話を校長先生からよく聞きます。学級開きに始まり、学級通信から授業準備、参観日・PTA総会など本当に忙しい4月でした。暇な月など存在しないことも承知していますが、本当に頭が下がる思いです。

毎日の学校生活の中で、先生各個人が校内のどれだけの先生や職員の方々とお話をしておられるでしょうか。子どものことだけでなく、自分自身のことも含め、より多くの人たちと「放談」することはとても大切なことと思いますが、いかがでしょうか？

長い一年間がスタートしました。肩の力を入れすぎないで、子どもとも、先生方とも「放談」することが、子どもに軸足をのいた教育実践と自分を素直に語る職員のチームワークを高めるものと信じています。

# 改革の流れの中 信頼をつなぐ学校、そして先生に

教育長 増田 章

## 1 性根を据えて見極めるとき

企業も国や地方の行財政も、まさに生き残りをかけて必死に取り組んでいます。教育界も改革の流れは急で大きなうねりが今、学校を包もうとしています。こうした激動の時に、子どもの教育に直接携わる私たちは、実践者の目で次々と打ち出される内容の一つ一つを、しっかりと性根を据え見極めながら歩まねばなりません。教育の営みは本来、本質と現実の見極めに甘さのある思いつきの発想やスタンダプレ - でやれるものではありません。まさに、「地を這うような仕事」であることを再確認し、信頼される学校教育の確立に努めねばなりません。

## 2 新は大切、真はもっとも大切

政治や経済は時代と共に根底から大きく変わる事があっても、人が人を育てる教育の営みの根本や原理原則は変わるものではありません。土岐市の教育は、華やかさよりも底力のある確かな実践を大切に「人としていかに生きるべきか」を問い続け、語り続け、そして見届けながら学校の信頼をつなぐ努力をしてきました。これからも、どのように改革が叫ばれようと、「変わるものの中にあって変えてはならないもの（真）」にこだわり続けていくことが大切ではないでしょうか。

“常在童心の教育経営”にこだわる

いつまでも心を若くし、子どものような純真さを失わない先生に子どもは心を開きます。世はICTの時代。コンピューターを介した遠隔操作では、子どもの心に灯をともすことができません。真の教育は、ぬくもりや息づかいが感じられる「面授」の中で行われることを忘れてなりません。

“凡事徹底の教育経営”にこだわる

基本重視。「毎日の当たり前や普通を積み重ね

れば特別になる」(当たり前を高めること)という構えが大切です。週案簿を丹念に書き授業に専念にすること、教室を美しく整え学び舎として大切にすること等を積み上げることは、真の教育を進める土台となります。

“特色ある教育経営”にこだわる

学校の誇り、子どもの姿で誇れることは何か？このことはどこにも負けない、ぜひ見て欲しい、と自負できるものを創り出したいものです。それは、「凡事徹底の中から生まれるもの」であり、の教育を進めているという信頼を得る大きな要素となります。

## 3 今こそ、5つの努力を

これまで先輩が築いてきた信頼づくりの取り組みを、どの学校もどの先生も忘れてなりません。

まちがった野放しの自主性は、学校・子どもを貧困にします。今を楽しむことに溺れず、

理性的で自覚的な子どもを育てよう

教育は、ビジョンが確かであれば深まりません。いつまでに、どのように変えるのか、

子どもの姿でイメージプランを持つよう

活発に発表し合うことはすばらしい。静かに考え行動する、心の目と耳と言葉も大切に、

動と静のリズムを創ろう

未成熟でも、学ぼうとする姿勢が美しい教育を創ります。小さくても課題を明確にして、

求める姿勢を大切にしよう

自分が見る自分と人から見られている自分、この二人の自分を鏡に映しながら、

自分の立場を自覚しよう

新しい時代を見つめ、信頼される学校づくりに向け、結束して頑張りましょう。

# 信頼される学校・職員をめざす

土岐市小中学校学校長会長

厚見 正紀（泉小学校）

平成20年度という切りのよい新学期がスタートしました。「新」という文字には「夢」「希望」「期待」など心を浮き立たせる側面もありますが、反面新しい一歩を踏み出す「不安」「心配」など心を暗くするような一面もあるような気がします。先生方には、明るく元気よく希望をもって子どもたちと出会われたことと思います。

私は、毎年新年度に次の6点を先生方をお願いしています。

## 笑顔があふれる子どもをめざす職員集団

私たち教師の喜びは、子ども達が頑張る姿や一つのことをやり切って自信にあふれる姿、認められ喜ぶ姿を見るときに生まれます。そのために意図的、計画的に活動の場を仕組んで教育に取り組まなければなりません。そして、職員の心が一つになることが第一です。

## 校長・教頭を核とした職員の連携

職員間の報告・連絡・相談の徹底する。ハイソリッヒ法則を重視し、小事にも気を配り事故、事件を未然に防ぐ。

「職員会」「教務会」「打ち合せ会」から共通理解、共通行動がとれるようにする。

## 職員一人一人の意見の反映

行事、活動ごとに担当者がメモを取る。また、アンケートをとったり、声を聞いたりして成果と課題の記録を残し、次年度や次の行事、活動に生かす。

## 地域への貢献 地域に信頼される学校

多くの方のご支援ご協力のおかげで学校教育が成り立っています。本校では、5年生の名人学習（総合学習）において、地域の会社、商店、企業の協力で職場見学をさせていただき、仕事の大切さ、苦勞を学んでいます。また、月に一度「読み聞かせサークル」の方々が読み聞かせ活動をし

が児童の登下校を見守ってくださいます。

私たちは、地域の方々に甘えているばかりではいけません。私たち教師もサークル活動、地域行事や伝統文化行事などに積極的に参加し、それぞれが持っている力を発揮してほしいと願っています。そうすることで、先生方の視野も広がると信じています。

## 職員全体の「わ」の拡大 わ=和 輪 我 話

和 - 協力 調和 協調 なごやかに

輪 - 丸いもの 手を取り合って 力を合わせて

我 - われ 自分自身 個性

自分がもっているよさを発揮する

話 - 先ず職員間の「朝夕のあいさつ」から

世間話 話し合い 対話 相互理解を

## 新しい試みへの挑戦

昨年より前進する学校、進歩する自分を目標に学校の挑戦

・学校がもつ課題の追求 研究指定

・全校研究の取り組み

・安心安全な学校づくり

個人の挑戦

(教師として)

・年代に応じた生き方 ライフ設計をもつ

・教師のプロとして研鑽を惜しまない

・教育実践、記録を残す

(個人として)

・自信に満ちた生き生きとした生活を送る

・潤いがあり心豊かな生活を送る

・学び続ける姿勢をもつ

・趣味や特技をもつ

(人として)

・子どもたちの手本となる生き方を示す

今年度、土岐市の教育が先生方の力でますます発展することを願っています。よろしくお願いします。

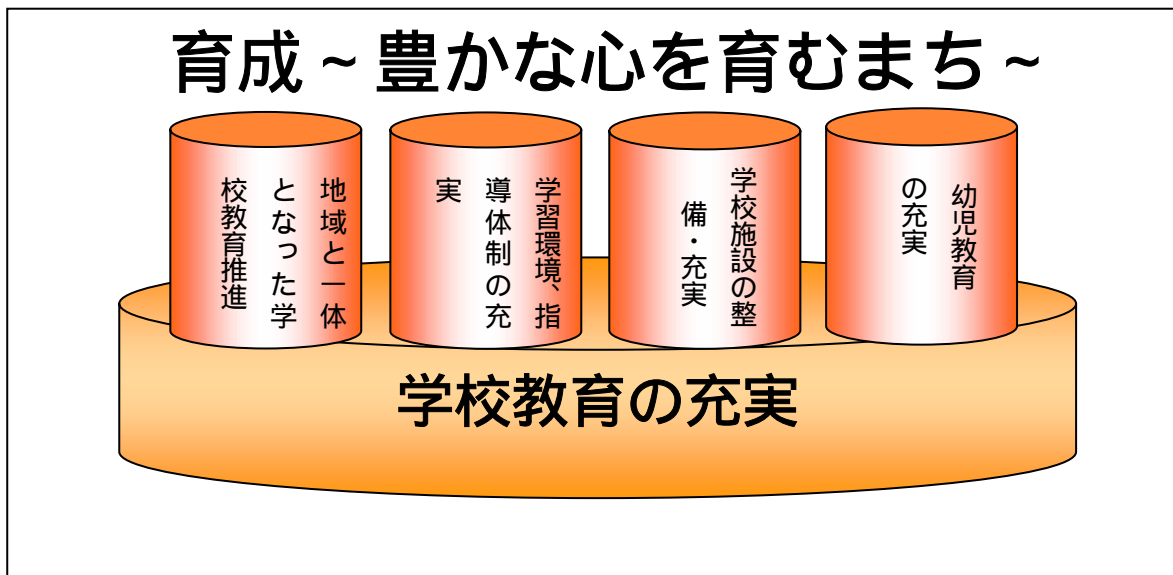
## 平成20年度 土岐市幼稚園、小・中学校教育の方針と重点と解説

昨年度までの本市の方針と重点を継承しつつ、今年度特に力を入れていきたいことを盛り込みました。

### 揺るがず推進し続けること

#### 1 第五次土岐市総合計画の推進

土岐市立の園、小・中学校として、子どもの育成を通して市が取り組む第五次土岐市総合計画（平成18年～）推進の一翼を担っていきます。



#### 2 子どもに軸足をおく教育の推進

教育をめぐるさまざまな動きがある今日、ややもするとその動きに翻弄され立脚点が揺らいでしまいます。土岐市の園、学校はこれまで「子どもに軸足を置いた教育」に徹し、教育の主人公たる子どもを大切にしてきました。今後もこの点をゆるがせにすることなく時代や社会の変化に対応していきます。

**幼稚園教育**

教育方針：子どもと保育を大切に、「生きる力」の基礎をはぐくむ  
教育課題：夢中になって遊ぶ保育

**小・中学校教育**

教育方針：子どもと授業を大切に、「生きる力」をはぐくむ  
教育課題：学ぶ楽しさのある授業

# 平成20年度の重点＜主な改訂点

昨年度の具現状況と教育界の動向を踏まえ、「重点」を部分的に改訂（主に付加）しました。主な改訂点（付加した点）は次のとおりです。

## 自己評価・学校関係者評価（経営）

家庭や地域社会に積極的に情報提供し連携しながら学校経営をするとともに、自己評価と学校関係者評価（外部評価）を学校経営の改善に生かすようにします。

## 経営・分掌を推進する力（研修）

学習指導の力、生徒指導の力とともに、経営・分掌を推進する力を高めるようにし、組織体としての園、学校の力を高めるようにします。

## 知識・技能、思考・判断力・表現力（指導：教科）

基礎的な知識・技能の定着なしに確かな学力は望めません。基礎的な知識・技能の定着を重視し、思考力・判断力・表現力を高め、自ら学ぶ意欲や態度を育てるようにします。

## 社会性や集団の一員（指導：特別活動）

他者と関わる力や社会性は自己実現に不可欠な力であり、社会や集団の一員としての自覚を深めさせるようにします。

## いじめ問題等（指導：生徒指導）

いじめはいつでもどこでも起こりうるという認識のもとに、その温床となるような状況を生み出さないようにするとともに、発生した場合は解決するまで徹底して指導します。

## 一人一人の教育的ニーズ（指導：特別支援教育）

特別支援教育においては、一人一人に寄り添ったよりきめの細かい支援が求められます。「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用による実践の充実を図ります。

## 人間尊重の気風（指導：人権同和教育）

人間尊重の気風がみなぎっている園や学校でこそ、温かい人間関係が築かれ豊かな人間性が育まれます。人権同和教育の根幹でもあり、この気風のみなげる園、学校にします。

# 土岐市放課後教室

～地域・学校・家庭が一体となった子どもの居場所づくりを目指して～

土岐市教育委員会 生涯学習課

## 1 はじめに

本市では、現在の社会情勢や本市の実態から、地域・学校・家庭が一体となった子どもの居場所づくりを主目的とした『土岐市放課後教室』を平成17年度から順次開校し、現在4小学校で展開しています。今後は本年度に2小学校で開校し、平成21年度までに全小学校区で展開する予定です。

## 2 事業概要

### (1) 目的

近年、子どもたちを対象にした凶悪犯罪が多発しており、本市においても事件にまでは発展していないものの、必ずしも安心・安全な地域社会であるとは言えない状況となっています。また、子どもの数の減少、一人で遊べるゲームの普及などの環境の変化により、学年の異なる子どもたちが一緒に遊ぶ機会が少なくなり、同様に地域の人々と接する機会も少なくなっています。その結果、自分の考えを正しく相手に伝えたり、集団の中でうまく人間関係をつくっていくことが苦手になったりすることが懸念されています。

こうした社会情勢の中、子どもたちに安心・安全な居場所を提供し、学年の異なる子ども同士の交流、地域の大人との交流、様々な体験活動などを通して、人づきあいについて学んだり、自然に社会のルールを身につけたりします。その中で自分の考えをしっかりと伝える力を育む等、心豊かでたくましく、自信と意欲を持って生きることができる子どもたちを育てたいと考えています。

### (2) 対象者

開校している小学校に在籍する中で希望する児童

### (3) 活動日及び活動時間

授業日 午後2時(授業終了後)から午後6時  
夏休み等 午前9時から午後6時

### (4) 活動内容

自由遊び(トランプ、百人一首、オセロ、将棋、外遊びなど) 自主的な学習(絵画、読書、宿題他) 体験活動(工作、自然観察、歴史探訪他)

### (5) 運営指導体制

教職経験等が豊かな室長(1名)が企画・運営の

中心となり、指導員(2~4名)とともに子どもたちの活動を支援する地域支援員も参加し、子どもたちとの交流を図っています。

### (6) 保護者負担

参加費は1ヶ月3,000円です。また、別に傷害保険に加入してもらいます。

### (7) 参加方法等

授業のある日は、授業終了後下校しないでそのまま放課後教室に参加します。平日は昼食、おやつ、お茶等は出していません。但し、夏休み等の実施日には、弁当・お茶が必要となります。

### (8) 警報発令時等の中止

学校の措置に準じて対応しています。

## 3 参加実績(平成19年度)

教室名(登録数)	登録児童数	平日平均数	夏休み平均数
泉西放課後教室	120人	39人	62人
泉放課後教室	239人	73人	98人
駄知放課後教室	100人	19人	38人
妻木放課後教室	139人	29人	51人

## 4 今後の予定

今年度は、さらに地域・学校・家庭が一体となった放課後教室になるよう次のことを実施する予定です。

### (1) 親子ふれあいデー

年間4回、親子のふれあいを深めるために、4教室で「親子軽スポーツ教室」「親子料理教室」「親子リトミック教室」「親子サイエンス教室」を計画しています。

### (2) 保護者ボランティア

子どもたちの安全安心を確保すると共に保護者の方々により理解していただくために、日にちや場所を問わずにボランティア参加をお願いしています。

## 5 おわりに

学校の子どもの放課後教室の子どもも同じ地域の子どものことを念頭に置き、今後もさらに地域・学校・家庭が一体となった放課後教室になるよう進めていきたいと考えています。



# 本年度の助成・訪問・研修事業について

土岐市教育委員会

## 助成事業等

### 市指定 「土岐市教育課題研究推進指定園、指定校」

泉小学校附属幼稚園<中間報告>  
駄知小学校<11月14日発表> 曾木小学校<中間報告>  
西陵中学校<10月31日発表> 肥田中学校<中間報告>

### 東濃地区教育推進協議会 「研究発表会・実践交流会」

泉中学校<11月28日発表>

### 文部科学省指定「道徳教育実践研究事業」

泉西小学校 命を大切にすることをくむ教育の推進に関する研究<H19/20年度>

### 文部科学省指定「学力向上実践研究推進事業」

泉中学校 <H20~H22年度>

### 講師派遣・配置

ALT派遣 2名のALTを幼稚園、小・中学校に派遣  
小学校国際理解教育講師派遣 小学校の英語活動等を支援する人材の派遣  
はつらつ人材バンク 特色ある教育活動展開のための地域人材の派遣  
出前講座 教育研究所職員の現職研修等への派遣  
小学校教育相談員 土岐津小・下石小・妻木小・駄知小・肥田小・泉小・泉西小  
中学校教育相談員 全中学校 学校内適応指導教室相談員 西陵中・駄知中・泉中  
スクールカウンセラー等配置 泉西小・全中学校  
きめ細かな学校支援事業 20人 「市支援員」として配置  
外国人児童生徒学校適応支援事業 外国人児童生徒支援のために派遣

### 教育振興・補助等

キャリア教育推進事業補助金  
特色ある学校づくり補助金  
科学作品・発明くふう展  
小学校芸術鑑賞教室 年に3校  
小・中音楽会  
市美術展幼少年部 市民文化祭音楽会  
小学校陸上記録会  
中体連競技大会  
スクーリング・サポート・ネットワーク整備事業  
生徒指導トライアングル活動推進事業 全中学校区

### 教育表彰

教育文化賞  
教育実践論文

## 訪問・研修事業等

### 学校訪問

教育長訪問 各幼・小・中 年1回 教育事務所の学校管理指導訪問と兼ねる。  
研修訪問 各小・中 年1回 校内主題研に研究所が訪問  
管理訪問 随時 庶務課が訪問

### 研修会

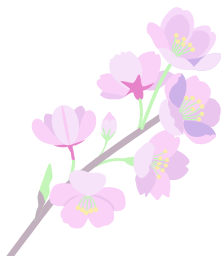
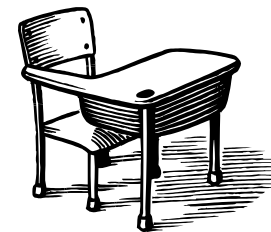
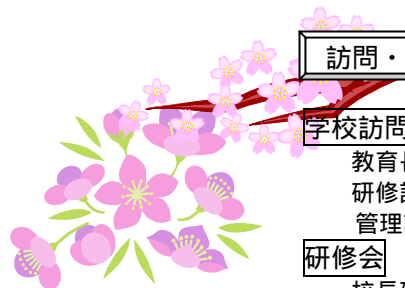
校長研修会 月2回程度  
教頭研修会 月1回程度  
教務主任研修会 月1回程度  
生徒指導主事研修会 月1回程度  
情報教育主任研修会 月別行事予定に記載  
保健主事研修会 月別行事予定に記載  
人権同和教育主任研修会 月別行事予定に記載  
給食主任研修会 月別行事予定に記載 給食センターが中心となり実施  
養護教諭研修会 月1回程度  
事務職員研修会 月1回程度  
教育相談研修(講演)会 年2回 各校相談員、教職員対象  
園長研修会 月1回程度  
副園長研修会 月1回程度  
幼稚園教務主任研修会 月1回程度  
その他必要に応じた研修会

### 研修事業

マイプラン研修 幼3名、小・中6名 研究発表会への参加等に係る費用の補助  
初任研 県及び市教育委員会、各学校の計画に従って実施  
2年目研修 2年目教員が授業実践を通して研修  
専任講師派遣 小・中 3校程度 大学教授等専門的な知見を有する指導者の招聘に係る費用の補助  
サマーセミナー 本年度は7/22, 23, 29, 30, 8/1日を予定  
教職員特別研修 小2名・中2名 教育委員会より先進校視察に派遣

### 研究委員会

嘱託研修委員会 月3回程度 4名の研修員による市の教育課題解決のための研究・研修の実施  
学校所委員会 年8回 各校の校内研究推進に資する研修  
学力対策委員会 年4回 学力調査等の分析、改善点等の提案



浅野教室を拠点として

「心にひびく言葉」

## 「一生懸命は、素晴らしい」

曾木小学校 永田 真

私が子どもたちに一番教えたことの一つに「一生懸命は素晴らしい」があります。

かつて、ブラジルのいくつかの小中学校を訪問する機会に恵まれた私は、そこで新鮮な言葉を耳にしました。「一生懸命勉強して医者になり、家族に楽をさせたい。」「一生懸命練習して、サッカー選手になり、両親に家をプレゼントしたい。」

ポルトガル語がわからないので、あくまでも通訳を通じての会話でしたが、多くの子どもが目を輝かせながら「一生懸命に頑張る」ことを誇らしげに語ってくれたのです。衝撃的でした。

今の日本の子どもたちの中には「一生懸命に頑張ることはバカらしい」とか、「一生懸命に頑張る姿を示すことは照れくさい」と捉える姿が、少なからず存在するように思えます。

ところが、今勤務している曾木小学校の子どもたちから、実にたくさんの「一生懸命」を感じています。小さい学校だから、一人一人が頑張らないと学校行事も進んでいきません。1年生といえどもトイレ掃除もやらなくてはなりません。高学年に必死についていく低学年の子たちを見て、「それでいいんだよ。一生懸命は素晴らしいことなんだよ。」と、心の中で叫んでいる自分がいます。

世の中には、「どれだけ頑張ってもできないこと」も多々あります。しかし、最初から「バカらしい」「どうせやっても」と逃げ出す子どもに育てほしくはありません。一生懸命頑張ることの値打ちや素晴らしさを、どの子どもたちにも教えていきたいと思っています。

### 掲 示 板

#### 本年度もよろしくおねがいします

##### 【教育研究所】

(前列左より)

主 任 樋田 東洋  
(養正小学校より)  
所 長 加藤 紀久朗  
指導主事 小栗 祥吾

(後列左より)

研 修 員 小嶋 啓子  
A L T コーリー・カナダ・マサキ  
事 務 酒井 美智子  
A L T メリッサ・ゴールドバーグ



お世話になりました

主 任 橋本 勇治  
(養正小学校へ)  
研 修 員 熊崎 克朗  
(いわ桜小学校)



##### 【浅野教室】

(左より)  
室 長 尾石 忠正  
相談員 加藤 弘子











土岐市	教育研究所
TEL	0572-54-1111 (内281)
FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No.433
発行責任者	所長 加藤 紀久朗
発行日	平成20年 6月30日
題字	増田 章 教育長

## 農業体験学習(長野県飯田市)



撮影 駄知中学校 田中一実 先生



## 「もうひとつの安全・安心」

一時の寒さが残った春から三ヶ月が過ぎ、間もなく一学期が終わる時期となりました。この時間の中で、先生方と4月に会った子どもたちとの間には、確かに新しい関係ができつつあると思います。学校訪問等で会おう子どものなかには、最初から自分を表現できる子どもから、少し不器用でうまく自分を出せない子どもまでいます。しかし、その表情や言動をみていると、確実に子ども同士や先生との距離は近いものになっています。これも、日々の中での先生方の指導が生きているからではないでしょうか。

今年度は、80名近い先生方の異動が行われましたが、各学校においては、新しい人間関係の中で自分の思いが語れているのでしょうか。意外とこんなことを聞いたら、言ったら恥ずかしいと考えておられる先生がいらっしゃることも事実かと思えます。このことは、若い先生だけでなく経験のある先生でも同じです。しかし、こんなことと思えることでも言

土岐市教育研究所長 加藤 紀久朗  
える、聞ける職員関係ができていれば安心感・所属感を覚えます。安心感・所属感は意欲を生みます。先生の意欲は子どもたちに活力を与えます。

子どもたちは正直なもので、安心感があれば自分を語ります。不安な時は無口になるか、攻撃的になります。中でも表現が不器用な子どもほどまわりの仲間関係を気にします。自分を伝える力は授業や諸活動など、いわゆる学習や経験・体験が生きてはたります。しかし、その習得には時間がかかる子どもいます。ですがいつまでも安心感がもてずにいると、無口な子が時には攻撃的にもなります。自分を出せないもどかしさは、想像もつかない変化を生み出ます。

まずは三ヶ月が過ぎました。少なくとも、安心までいなくても、やっていけそうと思える学級、職場であることが確かなステップアップではないでしょうか。

# 「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修委員会

今年度嘱託研修委員会では、学級経営・教科経営的要素を大切にしながら、授業の質を高めることが『学ぶ楽しさのある授業』につながるということを共通理解し、1単位時間の授業に焦点を当てて研究を進めることとした。

これまでの各自の実践をもとに、「学ぶ楽しさのある授業」を作り出すための「導入」「課題の設定」「追究活動」「授業の終末」の指導のあり方や、それぞれの過程での児童生徒の発する言葉や行動について討議した。具体的などころについては校種、教科によって違いがあるため、実践を通して児童生徒の姿から明らかにしていくことにした。

## 【「学ぶ楽しさのある授業」のイメージ図について】

### \* 「学び合う学習集団」について

授業の中で仲間のよさを認め合い、互いに鍛え合うことでより質の高い学習集団をつくっていく。そのことを、授業全体を覆う形で円柱の外の部分に位置付けた。

### \* 「主体的な学習意欲を引き出すために、つきたい力を明確にし、単元・題材を見通した指導計画の工夫」について

意欲を引き出すためには、児童生徒の実態をしっかりと把握し、単元や題材を工夫することが不可欠である。単元や題材は、授業を行うにあたってベースとなるものであるととらえた。

### \* 「学ぶ楽しさを感じる児童生徒の意識」について

授業の各過程における意識をそのとき発する言葉で表し、「学ぶ楽しさのある授業」をしている児童生徒の姿を具体的にイメージした。

### \* 「教師の指導・援助」について

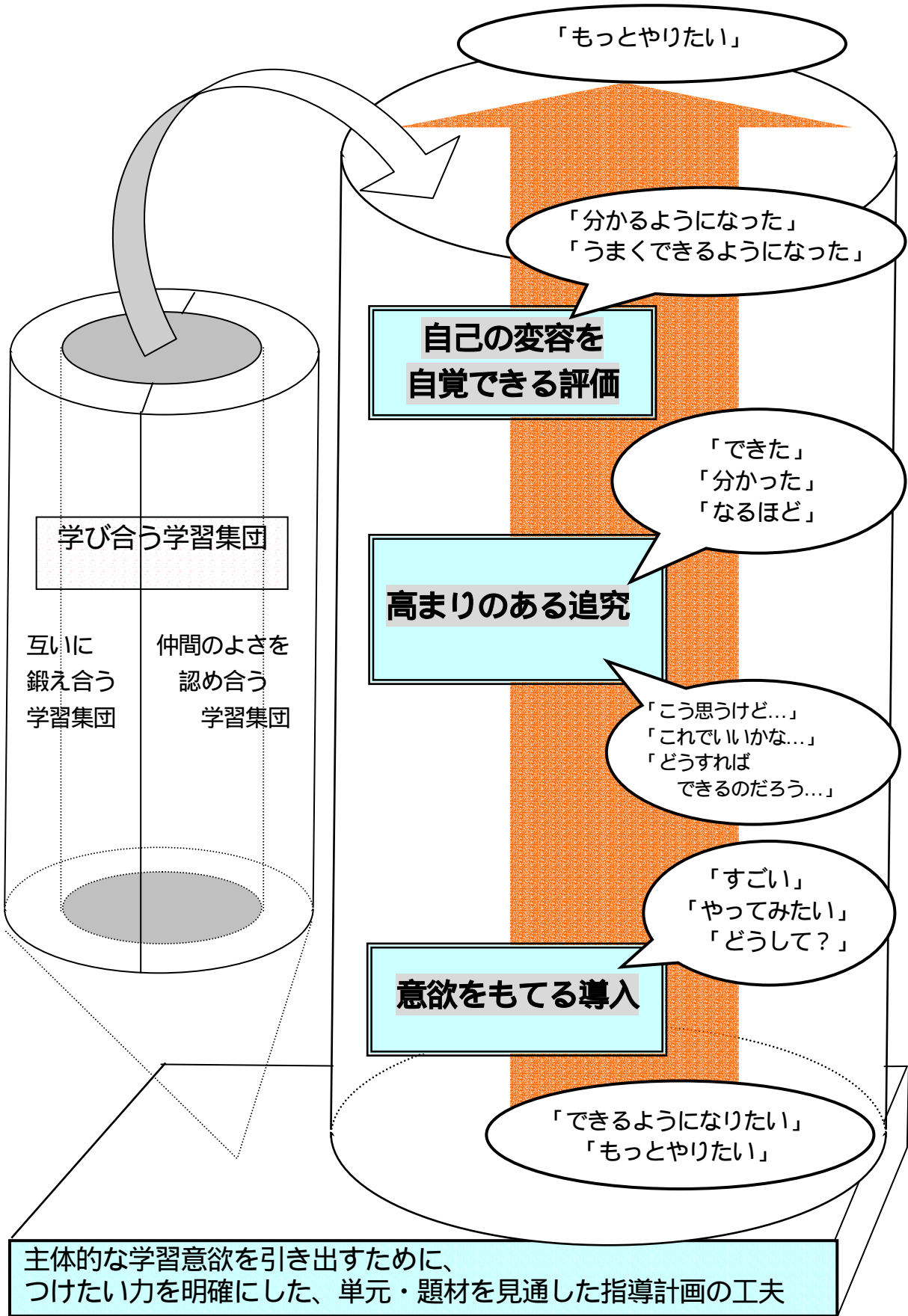
授業(単元・題材)の導入では、子どもたちと教材の出会いを大切にしなければならない。まず魅力ある導入を行い、自ら解決すべき課題を見つけ、課題を解決しようとする意欲がもてるようにする。課題を追究する過程においては、児童生徒の発言を組織化したり、違う見方や考え方に合わせたり、一人一人へ問いかけを行い深く考えさせることを行う。授業の終末では、一人一人に自己の変容を自覚できるような工夫を行う。

上記のことを大切にして「学ぶ楽しさのある授業」を目指す。

### <今年度の実践計画>

7月	泉西小学校	土本 晴美 教諭	『体育』
10月	土岐津中学校	長瀬 久美子教諭	『英語』
11月	泉中学校	西尾 新 教諭	『特活』
12月	駄知小学校	保母 征之 教諭	『社会』

学ぶ楽しさのある授業イメージ図



# 我が校(駄知小学校)の研究

## 市の教育方針と課題

- ・子どもと授業を大切に、
- 「生きる力」をはぐくむ
- ・学ぶ楽しさのある授業

## 学校の教育目標

心みがく子

## めざす子どもの姿研

目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて豊かに表現できる子

## 研究主題

書く能力を高める指導の工夫

## 研究仮説

児童の興味・関心・意欲を大切にしながら、基礎的な技能を継続的・系統的に指導するとともに、自分の思いや考えを自分の言葉で表現する指導の工夫をすれば、一人一人の児童の書く能力は高まるであろう。

## 研究内容

### 1 指導と評価の工夫

- (1) 児童に興味・関心・意欲をもたせる「単元指導計画」の工夫
- (2) 一単位時間の授業の工夫
  - 課題化(導入) 個に応じた指導・援助
  - 自己評価・相互評価

### 2 基礎・基本の定着を図るための取組

- (1) 意図的指導のある「書く」場の設定
- (2) 作文スキル等の補充的学習

## 学習を支える基盤づくり

- 1 学習姿勢(話す・聞く)
- 2 鉛筆の持ち方
- 3 発言形式

## 児童の実態

「読む人にわかってもらおう」という気持ちで書く子が増えてきた。  
知っている漢字を使って文を書く子が増えてきた。  
高学年になればなる程、文章を書くことに抵抗を感じている子が多い。  
段落相互の関係を意識して書くことが苦手な子が多い。

# 実践

## 1 指導と評価の工夫

(1) 児童に興味・関心・意欲をもたせる単元指導計画の工夫

2年生「お話 大すき」

### 5つの言語意識

相手意識	1年生の子に
目的意識	自分で考えたお話を紙芝居にして聞かせてあげるために
場面状況意識	1年生への発表会で
方法意識	絵を見て考えたお話を紙芝居にする
評価意識	1年生の子に感想を聞く

「1年生の子に、紙芝居を見せてあげる」



5つの言語意識を具現化した題材開発を行う。相手、目的、場面、状況・方法、評価意識がはっきりしていると、意欲的に学習することができると考える。

駄知小学校では、11月14日(金)に土岐市教育課題研究推進指定校としての発表会が行われます。

導入では、表現方法の違いに着目させ課題化する。

書く活動では、子どもたちのつまづきに応じた適切な指導・援助を行う。

終末では、本時の課題に合った書き方ができたかを相互評価する。

## (2) 1時間の授業の工夫

(課題化、個に応じた指導・援助、自己評価・相互評価)

導入での課題化



表現方法に着目!

個に応じた指導、援助



相互評価



こうやって書けば、うまく書けるんだな



## 2 基礎・基本の定着を図る取組

(1) 意図的指導のある「書く場」の設定

3年生の例

月	4月	6月	9月	10月	1月	3月
題材名	どんな3年生になりたい?	陶史の森	夏休みの思い出	運動会	冬休み	1年間を振り返って
指導事項	目標を文章に	主語・述語に気をつけて	接続詞に気をつけて	会話文から始まる文で	出来事の順番を考えて	まとまりを考えて

(2) 作文スキル等の補充的学習

スキルの時間

毎週水曜日

8:20

~ 8:35



# 情報モラルに関する指導の徹底と教育用コンテンツの活用

土岐市教育研究所 情報教育担当

土岐市では、情報モラルの指導を充実したり、情報機器や教育用コンテンツを授業に積極的に活用したりする研修を充実させることを重視しています。いざ授業を行おうとすると、何をどのように指導すればよいのか、どのような情報を探したらよいのか迷います。

ここでは、授業づくりに使えるような Web ページを紹介します。



## 情報モラル(文部科学省)

インターネット活用のための情報モラル指導事例集

<http://www.cec.or.jp/books/H12/pdf/b01.pdf>

情報モラルに関することや授業の指導案、授業で使った URL などが掲載されており、先生方が情報モラルの指導に使いやすくてつってあります。

“情報モラル” 授業サポートセンター

<http://sweb.nctd.go.jp/support/index.html>

小・中・高の実践事例から授業内容を探すことができます。どれも動画が入っているので授業がイメージしやすくなっています。

「情報モラル等指導サポート事業」 [http://sweb.nctd.go.jp/g\\_support/index.html](http://sweb.nctd.go.jp/g_support/index.html)

小学校 8 校、中学校 3 校、高校 3 校の実践協力校の指導案、ワークシート、授業の動画がそろい、授業の様子が大変分かりやすくなっています。

## 情報モラル(警察庁)

サイバー犯罪対策 - 情報セキュリティ対策ビデオ <http://www.npa.go.jp/cyber/video/index.html>

Windows Media 形式で、犯罪対策映像を見ることができます。

5 分くらいのもから 30 分をこえるものまであります。よくできた作品が多く、子どもたちでも最後まで、集中してビデオを見ることができます。

キッズ・パトロール <http://www.cyberpolice.go.jp/index.html>

情報モラルやセキュリティについて、ゲーム感覚で PC を操作しながら学べます。小学生には効果的です。

e-ライブラリの学校での有効活用と家庭学習サービスの活用のよびかけをお願いします。

- ・岐阜県まるごと学園
  - ・岐阜県 e-チャンネル
  - ・岐阜県総合教育センターの情報教育関連の資料
- \* 使える情報がたくさんあります。

アクセスしてみよう。



## 特に理科や社会科の先生へ

平成 18 年度より授業での ICT 利用を促す「オアシスプロジェクト」が進められ、NHK の教育用映像が 3 年間無料で配信されています。理科や社会科の授業に使えるすばらしい映像がたくさんあります。

ID、パスワードについては、18 年度の情報教育主任研修会にて、各学校へ知らせてあります。利用マニュアルと番組表は、研究所の e-ファクトリの掲示板(先生用掲示板 土岐市教育ネットワーク関係)にあります。活用してください。



P . 7 は別紙を参照ください。

「心にひびく言葉」

## 教師不在時こそ本物

駄知小学校 有賀 秀雄

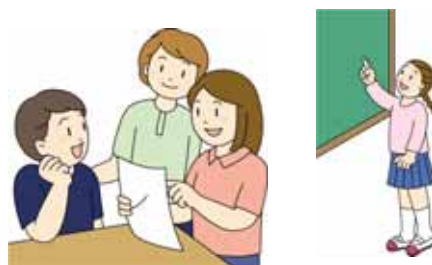
初めて僻地へ勤務し、複式学級の先生方の大変さを実感として捉えることができたように思います。また、少人数指導・複式指導の中に、教育の原点（主体な学び）があると考えるようになりました。

人数が少ないために、個別指導の時間が多く取れます。また、子どもの実態把握ができやすくなります。観点を明確にすることが必要ではありますが.....。

複式学級では、同一時間に2学年以上を指導するため、教師が個人追究、共同追究の場につけない学年が必ずあります。それでも学習を成立させるため

には、子ども達自身に学び方を習得させる必要があります。つまり、1時間の学習過程において、活動毎での役割と進行方法の定着が必要です。一言で言えば「学び方の習得」をさせなければなりません。

「出張の時、子ども達で学習が進められたら本物だ」と先輩からの励ましと指導を受けたことを思い出します。



## 掲 示 板

中体連土岐市大会が7月5日(土)～12日(土)に開催されます。

種 目	日にち	時間	会 場
軟式野球	7月5日(土)～6日(日)	開会式	大徳原球場
ソフトボール	7月5日(土)	8:30	土岐津中グラウンド
サッカー	7月5日(土)	競技開始	土岐市総合公園多目的広場
バスケットボール	7月5日(土)～6日(日)	9:00	泉中学校体育館
バレーボール	男:5日(土) 女:6日(日)		男子:土岐津中 女子:肥田中
ソフトテニス	7月5日(土)	セラトピア	土岐市総合公園テニスコート
卓 球	7月5日(土)	(卓球)	セラトピア土岐
剣 道	7月6日(日)	開会式	西陵中学校体育館
陸 上	7月12日(土)	9:00	土岐市陸上競技場

中学生が頑張ります。応援をお願いします。(雨天で予定が変更になる場合があります)



打ちばやし練習



土岐市	教育研究所
TEL	0572-54-1111 (内281)
FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No.434
発行責任者	所長 加藤 紀久朗
発行日	平成20年 7月31日
題字	増田 章 教育長

作物作り



撮影 曾木小学校 永田 真 教頭先生

## 「おごらず、力まず！」

新しい出会いは多くの摩擦や行き違いを生むことも確かです。そんな4月・5月が過ぎ、梅雨の季節とともに「雨降って地固まる」のことは通り、新しい関係が、子ども同士・先生と子ども・保護者と学校のなかに来始めてきました。子どもも大人も同じで、自分の殻を大切にする余り、他人については固定的・断片的な見方をしまいがちです。そんな見方も共に生活をしてるなかで、少しずつ広がりや深まりができ、「学級・学校」という存在の値打ちができつつあることをこの一学期の学校訪問等で強く感じました。

私たち先生は、自分の生き方や経験を肯定する中で子どもたちの指導にあたっています。その考えは当然ですし、それがなくては指導ができません。しかし、自己の経験や指導方法が今の子どもや目の前の児童生徒にあってはいるかはわかりません。

教師として私自身が最初の壁を感じたのが、教員経験が5年過ぎた頃で、初任から2校目でした。自分の指導がなかなか子どもたちに伝わらなく、今ま

土岐市教育研究所長 加藤 紀久朗

でと同じことをやっても逆にますますうまくいきませんでした。自分自身が自信過剰になっていたこともあり、子どもたちは一教師の指導だけで育っていくわけなど無く、学校全体や職員全体の動きのなかで成長しているという実に初歩的なことさえ分かっていなかったのです。

二度目の壁は、四十も半ば過ぎでいわゆるベテランといわれる年代になった頃です。この年代は、目の前の子どもの姿より、自分のイメージや目指す姿が優先し、もっと自然に子どもたちと大きな声で笑いこける時間も必要だったと感じています。

子どもの成長を促す時、自分の経験を生かしその子どもにあった方法を見つけることは大事なことですし、先生方もやってみえます。しかし、結果を求めるばかりに、目の前の子どもの姿から視点がずれてしまうこともあります。力を入れすぎないで、バランスとコントロールを重視できる自分に高めていきたいものです。

## 研究テーマ

### 学ぶことが楽しい!

基礎的な学力が身に付いている  
柔軟で多様な思考ができる  
真理を探究することを楽しむ  
友と練り合い深め合うことを楽しむ  
できるようになる、分かるようになることを楽しむ

## 学校の教育目標

### 自立自尊

#### 生徒の実態



#### 生徒の願い



#### 求める授業像



#### < 研究仮説 >

生徒の分かりたい・出来るようになりたいという願いを満たす工夫を行えば、生徒は学ぶことが楽しい!と感じるようになるだろう

#### < 研究内容 >

- ・生徒の願いと実態の把握
- ・アンケートによる把握
- ・観察による把握

- 生徒の探究意欲を喚起する工夫
- ・自己選択の場ができる授業展開の工夫
- ・探究心を刺激する題材開発と課題設定の工夫

- 練り合う場の工夫
- ・静の練り合い・・・個の追究
- ・動の練り合い・・・仲間や作品等との関わり

- 活動を支える支援
- ・本時を支える基礎的知識・技能の定着
- ・生徒の活動を支える学習環境の整備

\* 現在各教科で全校生徒にアンケートをとり、「生徒の願い」を集約中である。集約したものと教師がみた「生徒の実態」とを織り合わせ、今後「求める授業像」を具体化していく。

## < 1 学期の取り組み >

西陵中学校では、10月31日(金)に土岐市教育課題研究推進指定校としての発表会が行われます。

### 稲垣全研(社会)より

5月の稲垣全研では、私たちがこれから目指していく研究の方向を学ぶことが大きな視点であった。生徒主体の授業を実際に見ることができ、今後の方向がぐっと具体的になった。研究会では、今年度から学年会形式の小グループで行った。その結果、昨年度までよりも多くの意見がでた。その様子をまとめてみる。

生徒が主体的に動かざるを得ない場の設定があった。

- ・授業の展開をパターン化している
- ・どんな授業をすれば力が付くのか、教師がはっきりとイメージを持っている

与えられる、教えられるだけでは生徒は受身のまま。生徒は“自分達でつくれる授業”を欲している。先生はわからないときに教えてくれればよいと考えている。本時はそんな授業であった。どの教科でもそれを目指していくべきである。そのためには、出口でどんな生徒の姿があれば良いのかを教師がはっきり持つことが重要である。

価値づけ、位置づけ、方向づけがたくさんあった授業であった。

### 田島全研(技術・家庭)より

生徒主体の授業にするためには、授業の展開で次のような工夫をすれば良いことが分かった。

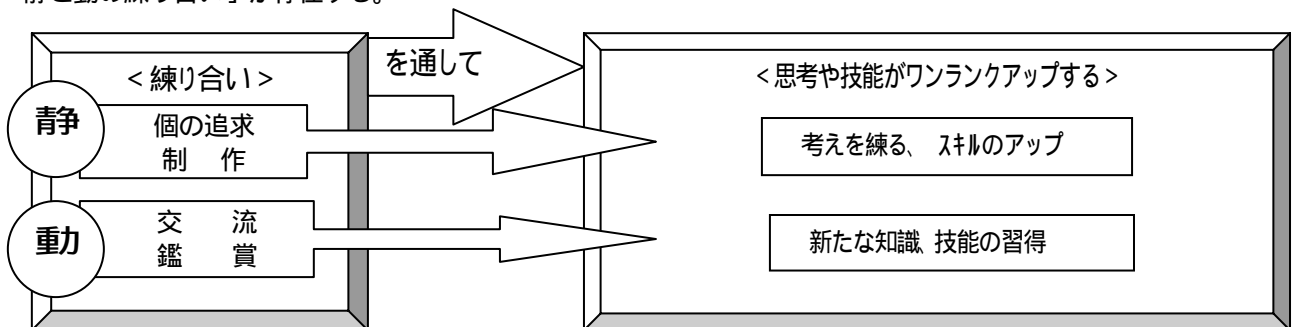
生徒主体の授業にするために

自己選択  
生徒に 自己決定 させる場面を作る  
自己責任

評価をする(位置づけ、価値づけ、方向づけ)

これまで先生主導の授業が多かったが、それでは私たちが求める生徒の姿は目指せない。とは言え、生徒主体の授業にするにはどうすれば良いのか迷っていたが、田島全研から生徒主体の授業を展開する方法を学ぶことができた。

また私たちがこれまで研究の柱にしてきた「練り合い」の定義がはっきりしてきた。技術科のように他と関わる時間が少ない教科であっても、作品と黙々と向き合うことが練り合いになることを学んだ。つまり、学習活動には「静と動の練り合い」が存在する。



こう考えると、どの教科にも当てはまるのではと考えた。

## < 成 果 >

- ・各教科で目指す練り合いの姿(=私たちが見せたい子どもの姿のイメージ)を考えることができた。
- ・どの教科でも、生徒主体型の授業展開になるよう工夫がなされてきた。

西陵中の研究は、生徒が伸び伸び楽しく学ぶ姿を大切にしたいという願いのもと、今年度再スタートした。10月31日に向けて、研究の方向もかなり具体的になってきた。今後も授業改善を図っていきたい。

# 「学ぶ楽しさのある授業」

研究主題 一人一人が楽しく運動をして、運動技能を身に付ける授業

## 1 研究主題について

体育の授業では「生涯にわたって運動に親しんでいく態度と能力」を養うことをめざしている。そのためには、授業の中で、運動そのものの楽しさや仲間と活動する中で上達する喜びを味わうことができるようにする必要がある。

体育の授業における学ぶ楽しさを次のように捉える。

運動の側面では、「できなかったことができるようになること」、また「勝敗や記録だけではなく自分の願う姿に近づけた、上達した動きができるようになること」である。

集団の側面では「応援や励ましの声をかけ合うこと」さらには、「運動のやり方や作戦を教え合うこと」である。

一人一人に「学ぶ楽しさ」を味わわせるために、児童の発達段階をふまえた上で、実態をとらえ、課題となる姿の要因を分析し、身に付けなければならない力と指導内容を明確にしたい。

また、児童の相互援助活動において、それぞれの課題にあった視点で互いの動きを見合い、教え合いができる指導をしたい。

## 2 授業実践について

### (1) 単元について

単元名 基本の運動(器械・器具を使つての運動)「マット遊び」

マット遊び、マット運動は、日常生活ではほとんど経験しない不安定な体の使い方を取り入れた運動である。非日常的な運動であるため、経験の差で技の習熟に大きく個人差が出るという特性と、自分の技能の向上を大きな喜びと感ずることができるという特性もある。また、自分の動きを客観的に捉えることが難しいため、仲間との相互援助活動が大きな意味をもつ。仲間からのアドバイスによって「できるようになった」「うまくなった」と実感でき、「仲間と共に活動する楽しさを味わう」ことができるよう指導する。

今回は、マット遊びの実践を通して主題に迫ることとした。

3年生で扱う、基本の運動(器械・器具を使つての運動 マットを使っているいろいろなころがる動きなどをする)は、4年生の『マット運動』につながっていく。

基本の運動は、子ども自ら楽しんで行う運動遊びである。3年生の子どもは、どの子も体を動かしたい、活動をしたいという欲求をもっている。そこで、子どもの活動欲求を大切にすることで運動好きな子どもにし、3年生で身に付けた動きを、4年生の『マット運動』につなげる。

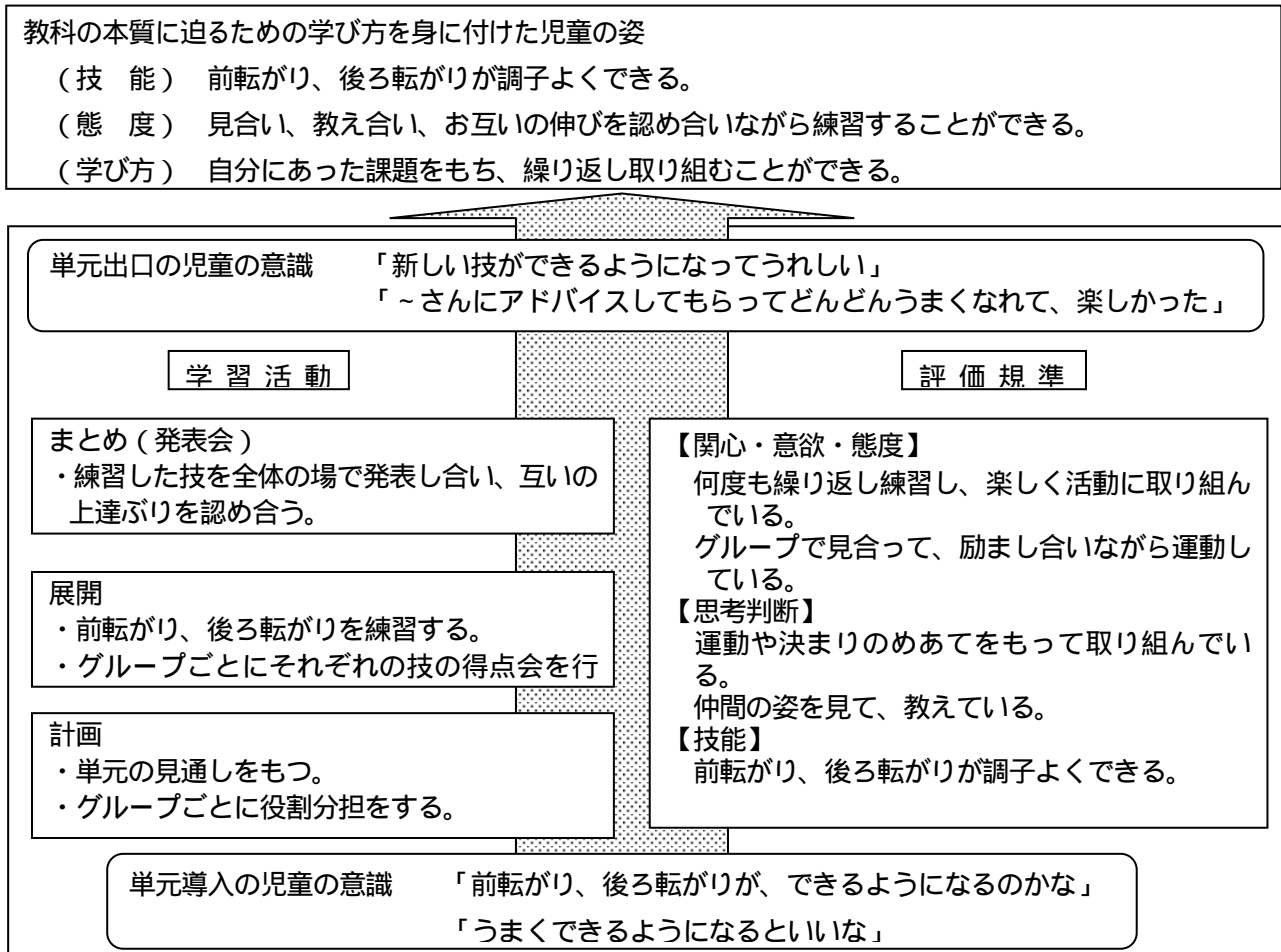
よって、器械・器具を使つての運動の上達過程を以下のように捉えた。

こわがらずに平気ができる    一杯、続けてできる    一定のパターンをもつ運動ができる

3年生では、どの子も、一杯、続けてできるところまで上達することを願い指導する。



## 単元構想図



## (2) 本時について

### 指導計画の工夫

どの子も確実に技能を身に付け学習を進めるために、単元の前半で「前転がり」、後半で「後ろ転がり」を扱う。

### 意欲をもてる導入

実態を踏まえた上で、児童の代表による示範を見せ、児童が、「すごい」「自分もやってみたい」「どうしたらできるのだろう」と、自分でもできそうな気になり、やる気をもつことができるような導入を工夫する。

そのために、教師は飛びぬけて上手な子ではなく、前時に技能上達のために努力していた子、仲間からのアドバイスを聞き上達した子に示範させる。

### 高まりのある追究

全ての子の運動欲求やうまくなりたいたいという運動欲求を満たすために、テンポよく繰り返し練習ができるようにしたい。また、仲間と一緒に活動をしたい気持ちを満たすために、見ている子には、互いの動きを見合い、教え合いができるように視点を設定し、練習をしている子がめざす姿になるよう、声をかけさせたり援助したりするよう指導する。その結果、仲間と一緒に運動をする楽しさを味わわせ、運動技能を身に付けさせる。

### 自己の変容を自覚させる評価

自己評価、相互評価、教師の評価を位置付け、自己の変容を自覚させる。自ら課題を知るため、1時間の上達ができるように、1時間の始めと終わりにグループ内でテスト会を行わせる。そして、自己評価、相互評価をしやすくするために、運動のでき具合を段階別に得点化したり、さらにそのための技術ポイントを細かくチェックしたりできるようにする。

「応援します」

## 授業の満足度は

中京短期大学教授 伊東 信彦

土岐市を離れてずいぶん長い年月がたちますが、いつも先生方の活躍されている様子を垣間見て懐かしく思っています。現在、私は短期大学で保育士や幼稚園教員を目指す学生を教えて3年目になります。実際に教壇に立って教えたり、担任をもったりするのは20数年ぶりのことです。短期大学というのは、学生にとって実に忙しいところです。4年制大学で習得する単位数の4分の3近くを2年間で取らなければなりません。したがって、前期の試験が終わり、補講の後夏休みに入るのは毎年8月10日前後になります。休みは9月いっぱいありますが、この間、2年生は保育実習と教育実習があり、夏休みはほんの少しです。私の大学生の頃は講義が休講だと喜んだものですが、今は休んだ分は必ず補講をして時間数を確保しなければなりません。文部科学省と厚生労働省の所管ですが、特に厚生労働省の監査が厳しいようです。

こんな中で、私は授業に苦闘しています。最初の頃は90分という時間の感覚がつかめず、予定の内容を終わってもまだ30分残っているという具合でした。この頃ようやくそれがなくなり、少しは慣れてきたかなという思いです。

今、短大の現場でも授業内容の見直し、互いに授業を見合うことで授業力を高めるといことの大切さが言われるようになりました。大学の先生方は学術研究においては深いものがありますが、日常の授業については今まであまり関心を払ってこなかったきらいがあります。しかし、今の学生の質は変わってきています。一方的な講義についてくる学生はほんの一部で、興味がなければ睡眠の時間になっています。

私は、この4月から保育科の学科長という立場になりましたので、先生方に簡単な指導案（幼稚園や小中学校の略案）をA4、1枚に書いてもらって、公開授業をしてもらおうよう提案しました。大学の先生で指導案を書くなど経験がありませんから抵抗のある先生もありましたが、とにかく1

年のうちに全員公開授業をすることを決め、前期に4人程行うことができました。ただ残念なことは、その時間に自分の授業のある先生は参観できないことと、授業研究会をもてないことです。とりあえず本年度は他の先生の授業から学んだことをコメントして記録に残すということにしました。幼稚園や小中学校の先生方からいえばいつも行っている授業公開も短大としては初めての試みです。とにかく学生が満足する授業をしようという気持ちだけは持ち合わせることができたと思います。

学生の満足度は、学生による教師の授業評価に表れます。前期と後期の終わりに「学生の授業満足度」調査が実施されます。これは、ある意味教師にとって厳しいものです。「先生の講義は分かりやすかったか。」「資料やプロジェクターの使用など授業に工夫があったか。」「板書は見やすかったか。」「等いくつかの項目と自由に書き込む欄があり、学生は無記名で記入します。これが後で点数化されて戻ってきますが、案外これが自分の授業の改善に役立ちます。」「先生は、少し早く進みすぎます。もっとゆっくりと話してもらわないと理解できません。」と書いてあればなるほどと思います。逆に「幼稚園の現場の話をしてもらえるので具体的によく分かります。」とあれば、現場の話をする事で興味・関心をもたせることができると受け取れます。この学生の評価は、他の先生方のものも自由に閲覧できることになっています。

短期大学は、厳しい現状にあります。18歳人口の減少により志望する学生が減ってきているため、常に新しいことに挑戦し、その短大独自の特色を出していかななくては学生が集まりません。現在、カリキュラムの改訂を含め、内部の改革を進めているところですが、やはり行き着くところは教師一人一人の授業のあり様です。私の授業の原点は小中学校の授業研究で学んだことにあり、ある時期必死に取り組んだことが役に立っていると思っています。



# メリッサ先生 ありがとう

平成19年8月～平成20年7月までの1年間、土岐市のALTとして、市内の幼稚園、小・中学校を訪問して英語を中心に指導されました。

メリッサ先生に、帰国前に土岐市での思い出を語っていただきました。



日本や土岐市の印象はどうか？

土岐市は本当にいい町です。先生の経験がはじめてで、ALTの仕事ができるかどうか不安でしたが、土岐市のみなさんはとてもやさしくて、子どもたちは明るく、毎日が楽しかったです。

土岐市にいる間に京都、大阪、東京、愛知などに出かけました。新幹線から見た富士山はとても美しかったです。

日本で学んだことは何ですか？

3つあります。一つ目は、日本語です。大学で4年間日本語の勉強をしていましたが、ひらがな、カタカナ、漢字を使って文章を書いたり、日本語で話したりすることが上達しました。2つ目は、教師の仕事です。どのように授業を行うとよいのか、やり方がわかってきました。3つ目は、土岐市の地場産業である陶器について知ったことです。陶器の作り方も教えてもらいました。

土岐市の学校についてどう思いましたか？

学校の先生たちは、毎日一生懸命子どもたちを教えています。教えるだけでなくいろいろな仕事があり、責任をもって取り組んでいました。子どもたちも一生懸命勉強をしていました。英語の勉強に関心をもつ子が多かったことがうれしかったです。

給食の時間には、学校のことや自分のことをたくさん話をしてくれました。英語オンリーで会話した時のことがとても印象に残っています。

将来はどんな仕事をしたいと思っていますか？

翻訳家です。日本語を英語に、英語を日本語に訳し、両国を紹介していくような仕事をしたいと思っています。

最後に一言

一緒に勉強した子どもたち、私を温かく見守ってくださった先生方、本当にありがとうございました。ALTとして経験したことを私は忘れません。大変お世話になりました。



市長さんへ退任の挨拶



## 「心にひびく言葉」

「教頭先生、いいこといっぱい見つけるんだね」 泉西小学校校 山田 弘子

泉西小学校の校訓は「美しい心」である。今回指定を受けている道徳教育においても、常に我々が求め続けていることに他ならない。

校訓とは、精神のよりどころとなるものである。だから、子どもたちには、具体的に意識させ、行動にまで結びつけさせ、価値づけなければならない。しかし、実践するとなるとこの言葉は漠然としており、難しい言葉である。

研究推進委員会で、とにかく動き出してみなくてはと、私がお昼の放送を使って週に一回、先生方が見つけた「美しい心」を全校の子どもたちに紹介することになった。学校内で見つけ出した子どもの光る姿を紹介するのである。素晴らしい記録を作ったとか、どこかで表彰されたといったものではない。「朝、廊下ですれ違う子どもの挨拶の音が大きくて気持ちがいいよ。」「何年生のトイレのスリッパがいつも揃っていて気持ちがいいよ。」といったごく当たり前に見られる姿である。

この放送を続けてよかったと思うことが2つある。一つ目は、まねることから、意識して行う姿が生まれた。当たり前のことを誉めてもらった子どもたちは、もっと続けようとする。そして、「そんなことなら簡単にできる。」とか「私たちもやっているよ。」と一生懸命になってくれる子どもも多い。

二つ目は、人と人との関わりを自然に生み出すことができ、担任とあるいは子ども同士がよい関係を築けること。「教頭先生、いいこといっぱい見つけるんだね。すごいね。」と私を誉めてくれる。とっても得した気分だ。当たり前のことを紹介し、ちょっと誉めることでとってもいい関係がつくれ、いい思い出ができる。子どもとの関係は「こうしたことが大切なんだ」と改めて思う。

当たり前のことではあるが、「地道に」「繰り返し」「積み重ねる」ことの大切さをひしひしと感じている。校訓とは、求め続けるものである。

## 掲 示 板

土岐市中学校総合体育大会（団体）結果

種 目		優 勝	準優勝	第 3 位
軟式野球		土岐津	西陵	
ソフトボール		西陵	肥田	土岐津
サッカー		泉	駄知	
バスケットボール	男	西陵	泉	土岐津
	女	泉	駄知	
バレーボール	男	濃南	土岐津	泉
	女	泉	土岐津	西陵・駄知
ソフトテニス	男	駄知	肥田	西陵
	女	西陵	泉	土岐津
卓 球	男	土岐津	西陵	
	女	西陵	駄知	
剣 道	男	泉	西陵	肥田
	女	西陵	肥田	泉
陸 上	給	泉	土岐津	西陵
	男	泉	土岐津	西陵・濃南
	女	泉	土岐津	西陵

今年度も各会場で熱戦が繰り広げられました。東濃大会以降の結果については、次号に載せる予定です。



プール遊びだーいすき！！



土岐市	教育研究所
T E L	0572-54-1111 (内281)
F A X	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所 報	No.435
発行責任者	所 長 加藤 紀久朗
発行日	平成20年 8月31日
題 字	増 田 章 教育長

みんなで作ったスイカあまーい！！



撮影 泉西幼稚園 山田 ひとみ先生



## 「一歩後退・二歩前進」の動きをつくる

今年の夏休みもオリンピックの終了とともに終わった気がしますが、印象的なこととして、日本人の中で前回の金メダリストが再び金メダリストになったことです。インタビューや話の中で共通して話題になったこととして、前回、金メダルをとったあと1～2年は気持ちも目標も定まらず、一口に言えばスランプを経験し、その後、気持ちも体調も整え北京という目標に向かって挑戦をしてきたということでした。

新学期が始まり、真っ黒に日に焼けた子ども、何か大きくなったと思う子どもとの活動がスタートします。子どもというのは、柳のごとく右や左にゆれながらも月単位・学期単位・学年単位のスパンで見ると成長と変化をしていきますが、その成長は決して右肩上がりのものではないことも確かなようです。

自分自身、この歳になってくると安易に結果だけを求めようとしてしまいます。だから、学期どころか年間のスパンで自分をみても成長もスランプもありません。さぼっているわけでもありませんが、緊

土岐市教育研究所長 加藤 紀久朗

張感を高めたり、自分を追い込んだりすることが苦手になってしまっています。実に情けないものです。

40数日の夏休みが終わりますが、子どもたちは普段学校では体験できないことを経験し、確実に成長と変化をしてきています。但し、良くも悪くも含んだ変化という成長です。

尺取り虫は、一度身を縮めてから前に進みます。中には進む前の段階の子どももいると思いますが、前進のための準備と考えています。ですが、前進ばかりではありません。時には準備のために後退する姿もあると思います。子どもによっては準備の時間が長くなる子もいると思いますが、少なくとも、わたしよりは、エネルギーを持ち合わせていることは確かです。

二期が始まります。夏休みから抜け出せなかったり、ひきずっていたりする子どももいますが、持っているエネルギーを導き出してやるのが私たちの仕事であることは確かなようです。

# 生き生きと伝え合う子の育成

～一人一人の伝え合う力を伸ばす指導法の工夫（国語科を中心として）～

土岐市立曾木小学校 伊藤 立子

## 1 はじめに

本校では、生き生きと伝え合う姿を「自分の考えをもち、相手を意識して分かりやすく話せる。相手の伝えたいことを正しく聞き取る。場に応じた話し合いの仕方が分かり進んで話し合える。仲間の考えを取り入れて、自分の考えを深めたり広げたりできる。」と捉えている。相手や場面に応じた具体的な「話し方・聞き方」を身につけるために、単元の特徴に応じた効果的な学習活動を工夫し、少人数学級のよさを生かし一人一人の実態に合わせた指導・援助を大切に実践を進めている。

## 2 研究内容

<研究内容1> 「伝え合う」力を伸ばす指導計画の工夫

- ・ つけたい力を明確にした単元配列表の作成
- ・ 5つの言語意識を位置づけた必然性のある学習活動と評価の工夫
- ・ 具体的な「話し方・聞き方」が分かり、効果的な「話す・聞く」場を設定した学習活動の工夫

<研究内容2> 少人数学級のよさを生かした指導・援助

- ・ 一人一人の学びの過程を明らかにした机列表カルテの作成
- ・ 子どもに確かな学びを成立させるための具体的な指導の手立て

## 3 授業実践

第5学年 国語科 「人と『もの』との付き合い方」  
「ごみ問題発表会」の意見交流の実践

<研究内容1>

- ・ 具体的な「話し方・聞き方」が分かり、効果的な「話す・聞く」場を設定した学習活動の工夫

本単元は、複合単元であり、「読む」「話す・聞く」「書く」の学習活動を行う。ここでは、「読む」学習をきっかけとし、「ごみ問題」について自分の課題をもち、それについて調べたことと感想・考えを発表する場を仕組んだ。発表に必要な資料・発表メモを作成した上で、効果的に発表するために、話の組み立てや相手を引き付ける話し方を工夫し、「組み立てを工夫して話す力」をつけたいと考えた。

本時では、「ごみ問題発表会」を行い、友達の発表を、自分の調べたことや考えと比べ、メモを取りながら聞き、共通点や相違点・質問・深まった考えなどを交流する学習活動を仕組んだ。発表者の考えだけでなく、意見交流中の友達の考えにも関わらせ

ながら話すことも行った。また、「話し合う」ための話型（後述）の指導も行った。この学習活動を行うことで「自分の考えとの違いや共通点を明確にして聞く力」をつけたいと考えた。その後、発表 意見交流 教師による評価・指導を繰り返すことで、どの子も意見交流の仕方を理解した。また、各自の意見も深まっていった。そこには、「意見交流は楽しい」と意欲的に参加し、自分の考えとの相違点や共通点



を明確にして聞いたり、自分の考えを進んで話したりする姿があった。

<研究内容2>

- ・ 子どもに確かな

学びを成立させるための具体的な指導の手立て  
自分の課題について調査したこと、感想や意見、友達の考えから学んだことをまとめて意見文を書くことを単元の出口とした。そこで、ワークシートを「読む」「話す・聞く」「書く」のそれぞれの学習活動に合わせ、考えを構成しやすいように工夫した。その結果、1単位時間の学習活動がはっきりし、どの子も意欲的に学習に取り組み、自分の考えをもち、まとめることができた。

また、話し合い活動のための机列の工夫・話型の指導を行うことで、「話し合う」力が伸びた。

### 友達の意見に関わって話すための話型

- ・ さんにつなげて言います。～
- ・ さんの考えに似ていて～
- ・ さんの考えと少し違って～
- ・ さんの意見を聞いていて考えたけど～
- ・ 聞きたいこと（質問）ですが～

## 4 成果と課題

「話す・聞く」場の設定が有効であった。発表者は聞き手を意識して話し、全員が挙手発言できる場であった。少人数のメリットを生かした授業展開ができた。

単元のねらいを明確にした授業で、ワークシートの工夫・自己評価の観点などねらいを達成するために有効であった。

話し手の「意図をつかみながら聞く」力をつけていく。メモの取り方を繰り返し訓練していく。

さらに関わり合った発言にしていけるために、話型の指導と共に、話す内容を鍛えていく。

## 1 校内研究テーマ

学び合いの中で基礎・基本を身に付ける生徒の育成

～協同学習を取り入れた授業を通して～

## 2 研究内容

教科の特性を生かした学習過程の工夫

指導計画の工夫

- ・基礎・基本や評価規準を明確にした指導計画の工夫

見通しを持って課題追究できる学習過程の工夫

教科の特性を生かした「協同学習」の工夫

必然性のある「協同学習」の設定

- ・仲間と共に学習したい、せざるをえないと思わせる意図的な状況づくり

学び合いの内容や方法を明確にした「協同学習」の設定の工夫

## 3 授業実践

公開授業

数学 2 学年 一次関数（数量関係）  
～変化の割合～

テーマ具現に向けて

課題追究に向けて意欲的に取り組む問題・素材の工夫を行う。

課題設定や個人追究の場において、より自己の考えが確かなものとしてもてるような教師の切り返しの工夫を行う。

課題追究や集団追究の場において、より考えが深められ「高め合い」ができるようように、少人数指導と協同学習を混合した必然性のある場の設定の工夫を行う。「高め合い」により、自らの考えの深まりが自覚できるようなノートまとめの

工夫を行う。

「～君の考えから、～ということがわかりました。」「～さんと一緒に考えて、～というように考えが変わりました。」など、生徒一人一人が高め合えたと実感できるような授業のまとめ方の工夫を行う。

生徒の姿から

- ・問題提示では、既習事項である変化の割合について思い出せずに戸惑った。そのため、昨年の素材の比例関係にある式から考えさせたのはよかった。
- ・既習事項を確認しながら、素材を基に課題化ができた。
- ・課題に対して自分の考えを深められない生徒（教師主導）と自分で見通しをもって追究できる生徒（協同学習）に分けたことで、各自の考えをより深めることができた。
- ・協同学習の途中から、課題に対するまとめを行い、全体のまとめも生徒によってまとめることができた。

## 4 成果と課題

< 成果 >

- ・少人数学習と協同学習に分かれることによって、自分の考えをもって話し合いに参加できた。
- ・理解に時間がかかる生徒にとっても、教師の補助的な問い返しや適切な指導・援助によって、説明に対する理解を深めていくことができた。

< 課題 >

- ・一部の協同学習をするグループでしか相互の高め合いができない。
- ・少人数で分かれるために、空き教室と専門の数学の教員の確保がないと実施できないという物理的な問題がある。

# 「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会 泉西小学校 土本 晴美

(前号より)

## 3 実際の授業より 第3学年 体育

単元名	基本の運動(器械・器具を使つての運動遊び)「マット遊び」
本時の目標	(技能) 頭越しに後ろ転がりをして足の裏で着地できる。
	(態度) 互いに練習を見合いながら、励ます声、お互いの伸びを認め合う声を掛け合い練習することができる。
	(学び方) 自分にあつた課題をもち、何度も繰り返し取り組むことができる。

	ねらい	学習活動	教師の指導・援助
つ か む	自分の姿を知り、本時の課題に対する個人のめあてをもつことができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>準備・準備運動をする。</li> <li>全体会で今日のめあてをもつ。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     ①頭越しに後ろ転がりをして足の裏で着地できるようにしよう。                      ②互いの練習を見合いながら、励ます声、お互いの伸びを認め合う声を掛け合ったり、教え合ったりして練習し、みんなが2点をとろう。                 </div> </li> <li>グループでチェック会をする。</li> <li>グループ練習をする。  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin: 5px 0;">                     今、手はこうなっていたよ。                       手の付き方を、こうするといい                 </div> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の示範から、本時のめあてを実際の姿で確認する。   </li> </ul>
深 め る	個人の課題に応じて、教え合いながら繰り返し練習することができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>前半練習で上手な児童を見て自分の後半練習の課題をもつ。</li> <li>グループでチェック会をする。</li> <li>グループで今日の授業の振り返りをする。</li> <li>リーダーを中心にめあてについての振り返りをし、次時の課題やめあてにつなげる。  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin: 5px 0;">                     初めにくらべて、点数があがったよ！                 </div> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習の中で、演技を行う前には、必ず「行くよ。」、見ている者は「いいよ。」の声を掛けさせ、練習する心構え、見る心構えをもたせる。そして、見ている者は必ず演技に対して声を掛けさせる。</li> </ul>
ま と め る	グループの練習や全体会の様子から、本時の成果と次時の課題を明らかにすることができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>全体会でグループや個人の成果を交流する。後片づけをする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に学習した手のつき方、示範で見た足の裏のつき方、マットの中央に貼った赤いテープに沿ってまっすぐに回ることを意識した練習をさせる。</li> <li>段階表を活用して得点をつけているかどうかを確認しながらグループを見て回る。</li> <li>全体会で、課題に向かって粘り強く練習に取り組んだ児童や仲間への教え合い活動で頑張った児童を、お互いに認め合わせたり、教師も認めたりすることで、次時への意欲化を図る。</li> </ul>

#### 4 授業後の考察

##### 指導計画の工夫

単元の前半で「前転がり」後半で「後ろ転がり」を扱ったことにより、どの子も恐怖心を感じることなく確実に技能を身に付けることができた。

##### 意欲のもてる導入

導入時に、本時めざす姿の示範演技を飛びぬけて上手な子ではなく、前時に技能上達のために努力していた子、仲間からのアドバイスを聞き上達した子に行わせた。それにより、自分でもできそうな気になり、やる気をもつことができた。また、相互援助活動に対しても意欲的に取り組むことができたと考える。



##### 高まりのある追究

相互援助活動の時間と場の確保をしたことにより、仲間から励ましを受けたり、自分の姿を教えてもらったりして仲間と楽しみながら運動ができた。

見る位置、見る視点をはっきりさせ、順番に練習をさせたことでテンポよく繰り返し練習することができた。

前時に学習した手のつき方についてまだ不安がある児童には、前時に使った補助具を使用するよう呼びかけたため本時のねらいに迫りやすくなった。

本時めざす姿になるための目安として、マットの中央に赤いテープを貼ったことで、互いの動きを見合せて教え合いができ、練習をしている子がめざす姿になるよう、声を掛け援助することができた。また、運動のできばえを段階別に細かくチェックできる表を活用したことで、見る視点、教え合う言葉掛けの手がかりとなり、練習している児童や見ている児童の指導・援助となった。

今後は、更に掲示物を生かして、上達のポイントや教え合うポイントを常に意識できるようにする必要があると考える。

##### 自己の変容を自覚させる評価

運動のできばえを段階別に得点化したり、更にそのための技術ポイントを細かくチェックしたりしたことで、自分の演技を客観的に評価できた。授業始めのチェック会を行ったことで、現在の自分の姿に照らした課題をもつことができ、個人の取り組みの意識を高めることができた。また、仲間の課題を知ることで相互援助活動をする姿も見られた。授業の最後にもグループごとにチェック会を行い、始めと終わりの姿を比較し、個人もグループの仲間も上達を実感することができた。



##### できばえを段階別に得点化したチェック表

	姿		
1点	起き上がれない	手がうまくつけない。かたでまわる。	ロリズム
		手はうまくつくことができる。とちゅうでとまる。	
		手はうまくつくことができる。ひざをついて着地をする。	クルン
		いきおいをつけて、手はうまくつくことができる。ひざをついて着地をする。	クルン
2点	起き上がる。曲がる。足、ひざが開く。	いきおいをつけて、手はうまくつき、マットを強くおすことができる。	クルン
		足のうらで着地をする。曲がる。足、ひざが開く。	クルン
		いきおいをつけて、手はうまくつき、マットを強くおすことができる。	クルン
		足のうらで着地をする。着地の後、ふらつく。	クルン
3点	起き上がる。まっすぐなめらか。とちゅうにひざを伸ばす。		クルーン

##### 学習後の児童の感想

・S君が「転がる前にいったん体を前に出して勢いをつけてかえら転がるといいよ。」と言って、マットの横でやって見せてくれたのでコツがわかったうれしかったです。

#### 5 成果と課題

仲間の示範を見て「自分にもできそう、やってみたい。」と思ったことで、学習意欲の向上につながった。相互援助活動を位置付けたことにより、仲間と関わることに喜びを感じ、積極的に仲間と関わろうとする児童が増え、楽しみながら技能を身に付けることができた。

「できない」「できる」「うまくできる」を得点化することにより自己評価、相互評価がしやすくなり、上達を自覚できた。

教師の巡視の意図や視点を明らかにして児童の学習意欲につなげる必要がある。

今後は、「基本の運動」という意味からも、もっと幅の広い捉えの運動の中で、次学年につながる技能を身に付けさせることができるように単元を仕組む必要がある。

# 新しいALTを紹介します



9月から土岐市内の幼稚園、小・中学校でALTとして英語の指導をしていただくウィロビー・ジェニファーさん（22歳）です。7月末で退任されたメリッサさんの後任として着任されました。

<担当する学校（本年度後期分）>

- ・ 駄知中学校、肥田中学校、泉中学校
- ・ 下石小学校、鶴里小学校、駄知小学校、泉小学校
- ・ 下石幼稚園、肥田幼稚園、泉幼稚園、泉西幼稚園
- ・ 浅野教室

出身地はどこですか？

アメリカのワシントン州（ロングビュー市）です。ワシントン州には、シアトルマリナーズのイチロー選手やマイクロソフト社のビルゲイツ氏などが住んでいます。ロングビュー市は、毎日雨が降るか曇るか晴れの日はありません。緑が多い所は土岐市によく似ていて、木材を使った製紙工業が盛んです。1980年に火山爆発したセントヘレンズ山が近くににあります。

大学で何を専攻していましたか？

ユタ州立大学で主に歴史学と英語を専攻していました。日本語やアジア文化についても学んでいましたし、高校でラテン語も履修しました。

趣味は何ですか？

読書、映画鑑賞、伝記を書くこと、サッカーをすること、自転車に乗ることなどです。

土岐市の第一印象を教えてください。

とてもやさしい方ばかりだと感じました。

日本についてどんなことに興味がありますか？

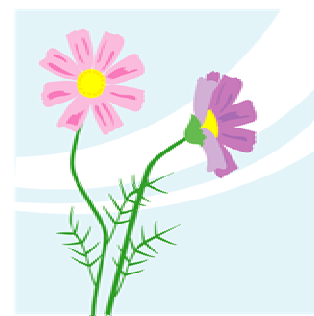
書道や日本の歴史に興味があります。

日本ではどんなことを学びたいですか？

日本語や英語の授業の教え方を学びたいです。

最後に一言をお願いします。

日本で働くことができとてもうれしいです。子どもが好きなので、英語を教えることが楽しみです。毎時間、楽しい授業にしたいと思っています。一生懸命がんばりますのでよろしくお願いします。





# 中体連(東濃大会・県大会・東海大会・全国大会)での活躍

今年度も各会場で熱戦が繰り広げられました。その結果を紹介します。

## 中体連東濃大会での活躍

団体

種目		成績	学校名
軟式野球		3位	土岐津中
バレーボール	女子	優勝	泉中
ソフトテニス	女子	2位	泉中
		3位	西陵中
女子卓球	女子	2位	西陵中
水泳(400mフリーリレー)	男子	3位	泉中



## 中体連県大会での活躍 ( ...東海大会出場)

団体

<b>柔道</b>	女子	3位	泉中	(岡田、三船、中村、西川)
<b>体操</b>	女子	2位	泉中	(丸山、志村、渡邊)
<b>陸上</b>	女子	4×100mリレー	5位	泉中 54秒66 (土田、中村、志水、鈴木)
<b>水泳</b>	男子	400mフリーリレー	5位	泉中 4分18秒84 (中村、佐藤、市岡、桐原)

個人

<b>柔道</b>	女子	63kg級	2位	中村 梨菜 (泉中)
<b>体操</b>	男子	個人総合	2位	鵜飼 桂史 (泉中)
<b>剣道</b>	男子	1年	3位	高井 秀将 (泉中)
	女子	2年	優勝	鳥山 佳菜美 (泉中)
<b>ソフトテニス</b>			3位	山口 真奈・市岡 さやか (泉中)
			ベスト8位	打田 美里・安藤 有里 (西陵中)
<b>陸上</b>	男子	共通 800m	優勝	1分58秒86 井野 拓哉 (土岐津中)
	男子	1年 100m	3位	12秒50 山口 翔太 (駄知中)
	男子	棒高跳び	2位	3m80cm 川口 正雄 (泉中)
	女子	1年 100m	6位	13秒90 中村 奈菜 (泉中)
<b>水泳</b>	女子	走高跳び	2位	1m54cm 林 叶恵 (泉中)
	男子	100mバタフライ	3位	1分01秒83 桐原 勇樹 (泉中)
	男子	400m個人メドレー	2位	5分03秒30 桐原 勇樹 (泉中)
	男子	400m個人メドレー	6位	5分42秒02 市岡 航大 (泉中)
	女子	100m背泳ぎ	7位	1分15秒 中垣 文江 (駄知中)

## 中体連東海大会での活躍

<b>陸上</b>	男子	共通	800m	優勝	2分00秒08	井野 拓哉 (土岐津中)
						(予選タイム) 1分58秒58

## 中体連全国大会での活躍

<b>陸上</b>	男子	共通	800m	準決勝4着	1分59秒15	井野 拓哉 (土岐津中)
	男子	共通	1500m	13位	4分08秒22	井野 拓哉 (土岐津中)
						(予選タイム) 4分05秒64

## 「心にひびく言葉」

### 「ありがとう」と「すみません」

土岐津中学校 本多 直也

自分の担任している生徒が他の先生に注意を受けたことを知った時、二つの受けとめ方があります。一方は、「すみません、そんなことがありましたか・・・」もう一方は、「ありがとうございます、気がつかなかったことを教えていただいて・・・」

前者は、その後言い訳が続くだろうし、後者は「また教えてくださいね」と謙虚さが伝わってきます。

悪いことがあれば素直に「すみません」と謝ることは大切ですが、教えていただいて「ありがとう」の感謝の気持ちをもつことはもっと大切だと思います。「すみません」が繰り返される会話はとぎれがちになりますが、「ありがとうございます」の言葉から始まれば、次の生活を考え夢を語り合える会話になります。このことは生徒

指導の問題で保護者との懇談でよくあることです。

学校でも電話やメールで苦言が寄せられることがあります。「大変いいことを教えていただいてありがとうございます」と一言添えることで、相手の気持ちを和ませ、その後の対応が何度スムーズにいったかわかりません。以前勤めた職場で若い女性の職員がいました。苦情の難しい電話がかかってきた時でも常に「電話をありがとうございました。」と明るい声で答えていたことを思い出します。その対応がとてもさわやかで、周りもみんなで何とかしようとする空気が流れました。

「開かれた学校」は、お金も時間もかからない自分たちの「ありがとう」の心から始めることだと思います。

## 掲 示 板

### <サマーセミナーの振り返りより>

今年度のサマーセミナーは、5日間で16講座を実施しました。参加人数は延べ522人で、一人当たり約1.7講座の受講となりました。

アンケートでは、十分満足・満足と感じられた先生がほとんどで、来年度もぜひ続けて実施してほしいという講座が多数ありました。全体としては、実習・体験的な講座や専門性や実践力の向上を図る講座に人気が集まりました。寄せられたご意見は、来年度のサマーセミナーに生かしたいと思っております。

PC講座（ワードとエクセル入門）	20人	エアロビクス	33人
PC講座（エクセル活用）	14人	料理教室	24人
PC講座（宛名・差込印刷）	15人	実践論文講座	27人
PC講座（パワーポイント）	19人	陶芸教室	70人
PC講座（アプリケーションの活用）	6人	ヨーガ	75人
PC講座（エクセル活用）	17人	人権同和教育講座	24人
歴史体験講座	27人	楽しく歌おう	51人
各界から学ぶ	45人	特別支援教育講座	55人

講師の先生方、施設を提供して下さった学校などありがとうございました。

### <土岐市科学作品展・発明くふう展のお知らせ>

会期 9月13日（土）～14日（日） 9：00～17：00  
会場 セラトピア土岐大ホール



土岐市教育研究所  
 TEL 0572-54-1111 (内281)  
 FAX 0572-55-6310  
 メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
 所報 No.436  
 発行責任者 所長 加藤 紀久朗  
 発行日 平成20年 9月30日  
 題字 増田 章 教育長

## 妻木小運動会



【個人走】  
 「第8レース OOKU」 『ハイー』  
 「位置とりついで」 『お願いしますー!』  
 撮影…鈴木清人



## 「脱皮」のすすめ

土岐市教育研究所長 加藤 紀久朗

二学期を迎え、子ども同士、子どもと先生、保護者と先生を含め、多くの人間関係に理解と協調が深まってきました。中には誤解や行き違いもあったかもしれませんが、からまった糸がほぐれるようにひとつひとつ解決してきたことと思います。解決には先生方のご指導やご尽力があり、それがよりよい人間関係の構築につながりました。

さて、人間は初対面の15秒程度の時間で相手を判断するそうですが、その判断を変えていくには多くのかかわりと時間が必要です。相手に対する見方を変えるのは、自分自身が変わる必要があります。しかし、自分が変わることは実に不安ですし、ある意味自分を否定することにさえつながります。このことは、大人だけでなく子どもでも同じではないでしょうか。

10人の人間の中で全員が認める人間は1人いる

かないかです。多くの人間の評価はひとそれぞれです。有り難いことにそれぞれの良さに対する見方に違いがあったり、自分では評価してないことも他者からみれば良さとしてとらえられていることも多くあったりします。

20年度も半分が過ぎ、学級の子どもや職員間でも固定した見方がないかを振り返ってみる時期ではないでしょうか。

私自身を考えたとき、自分に無いものや欠けていることを相手に求めたり、自信を持っていることだけを頼みにして判断の基準にしたりしている気がします。

「とんぼ」や「せみ」も脱皮をします。私たちが自己中心的な考え方、見方からの「脱皮」を図りたいものです。

# 我が校（泉中学校）の研究

泉中学校では、11月28日（金）に東教推研究推進校として発表会が行われます。

本校は東教推の研修校として、今年度11月28日（金）に行われる研究発表会・実践交流会の会場校となっている。以下に示す研究構想をもとに、実践を進めてきている。

## 1 はじめに

本校の名を出すと「バズ学習の...」というフレーズが聞かれることもしばしばであり、その学習活動が歴史あるもので、本校の教育活動のさまざまな場面で位置付けられていることは事実である。しかし近年、研修を重ねる中で「協同学習」という考え方にシフトしてきている。

一昨年度は仲間と共に活動し、お互いを高め合えるような授業づくりを目指してきた。前回の研究発表会ではその成果を示すことができた。また、その取り組みの中からよりよい授業作りのためには、その研究を支える学習の基盤づくりが必要と考えた。昨年度から今年度にかけては、学校で行われるすべての教育活動で「仲間と共に高め合う」ことを念頭に置いて取り組んできている。具体的には、授業のみならず「仲間と共に高め合う生徒の育成」を研究主題として教師の三指導部（学級経営・学習・生活）の提案をもとに行う指導や活動を行っていくものである。

しかし研究の主体はあくまで授業であり、学習の基盤作りをしていく上で、教科学習での評価と指導の工夫を研究内容にすえ、研究主題に迫るように実践を進めてきている。



## 2 全体構想について（次ページ参照）

## 3 教育目標に照らした教科学習で願う生徒の姿

教科学習で願う生徒の姿を、学校の教育目標に照らし次のようにとらえた。

「創造」 より高い目標をめざし、目標達成への課題を生み出す姿

「自主」 主体的に教材・事象・課題に取り組む姿

「協同」 思考や技能を、仲間とともにより深めたり高めたりする姿

## 4 研究の重点

本年度は、教科学習におけるつきたい力とねらいの明確化を図ると共に、願う姿に迫るための指導方法の工夫と評価の在り方に重点を置いた研究実践を進めている。

別紙参照 ( P . 3 )

# 「学ぶ楽しさのある授業」

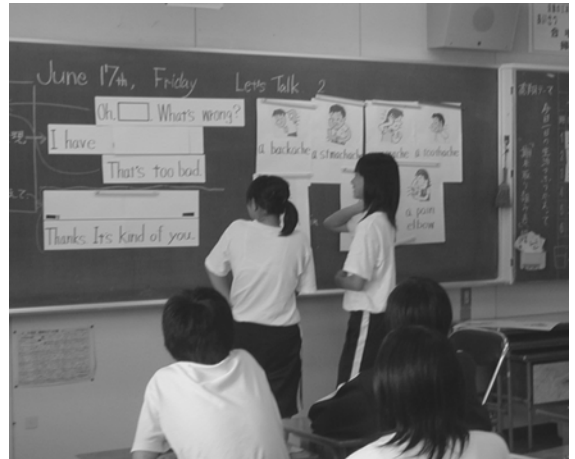
囑託研修員会 土岐津中学校 長瀬 久美子

研究主題 実践的コミュニケーション能力の基礎を養う指導の在り方  
～考えや気持ちを伝え合う活動を通して～

## 1 研究主題について

『実践的コミュニケーション能力』この言葉は、学習指導要領の中で何度も使われている言葉である。単に外国語の文法規則や語彙などについての知識をもっているというだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力のことである。実際、教科の目標の3番目の柱として「聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」と掲げられている。目標の最重要項目を最後に置くことによって、その点を強調しており、中学校段階では音声によるコミュニケーション能力を重視し、その基礎を養うことを目標としていると言える。

コミュニケーションを図る活動においては、指示に従って単語を入れ替えて英文を作り変えるなど、情報を伝達し合うトレーニング的な要素を含んだ活動にとどまってしまうことがある。しかし、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用するためには、身近な出来事やいろいろな話題について互いに考えをもち、その考えや気持ちを相手に正しく伝え合う活動を積み重ねていく必要がある。そこで、『学ぶ楽しさのある授業』を、「自分のことを伝えたい、相手のことが知りたい」という思いをもって考えや気持ちなどを述べ合い、互いを理解し合えたとき生徒自身が実感することができる授業であると考えた。



## 2 授業実践について

### (1) 単元について <単元名 Lesson5 Places to Go, Things to Do>

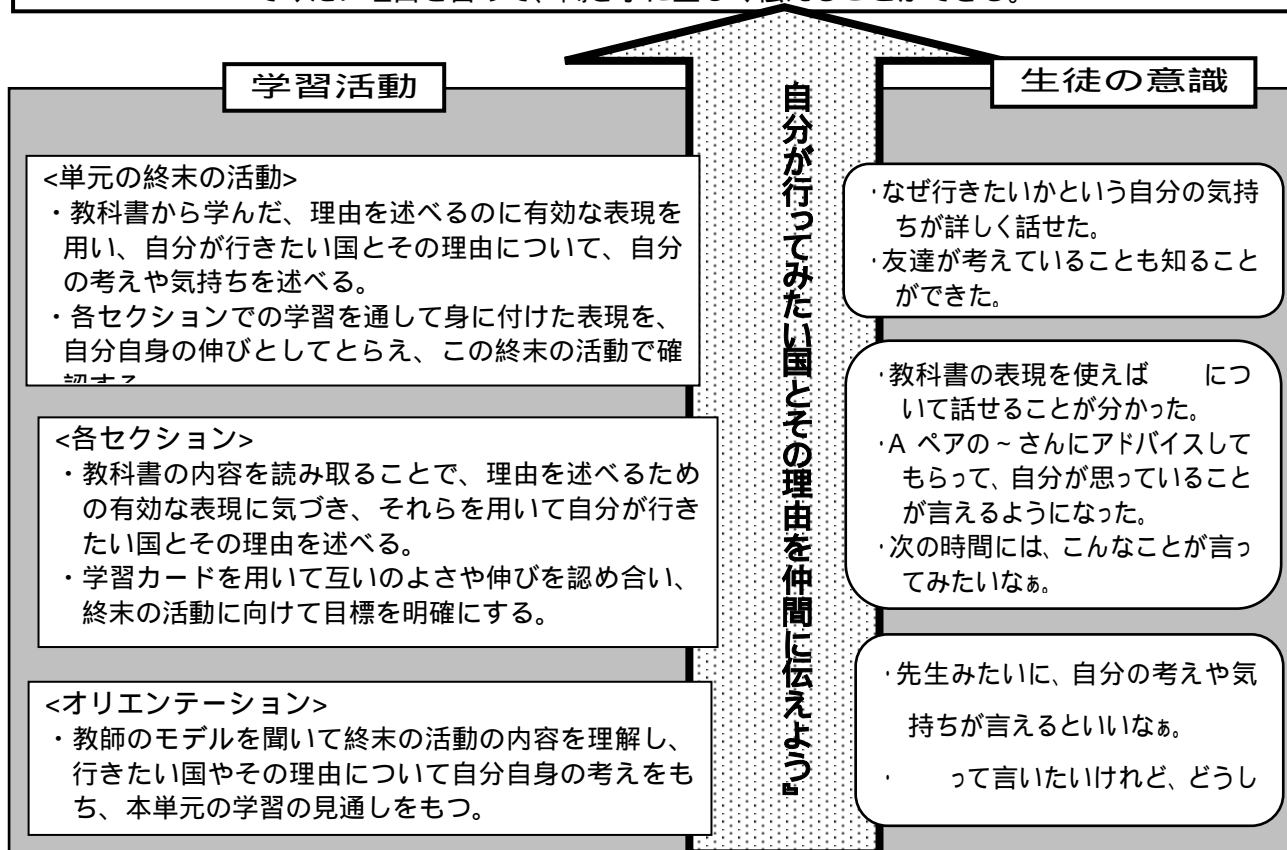
本単元では、登場人物の健、ラトナ、久美の3人が、それぞれ行ってみたい国や地域について発表する場面が題材として扱われていることから、単元の終末の活動を、自分が行きたい国とその理由を仲間と伝え合う活動とした。活動の中心が、国名と理由という情報のみの伝達にならないよう、特に理由について「興味があることやそこにあるもの、そこでできることやその様子、特にしてみたいことを具体的に挙げる」など、自分の考えや気持ちを仲間に伝えることを意識させたい。

そこで、単元の終末の活動に向け、各セクションの学習を通して、§1では興味を持っていること、§2ではそこでできること、§3では特にしてみたいこと、のように理由を述べるのに有効な表現を増やしていくことにした。また、「自分のことを伝えたい、相手のことが知りたい」という思いをもって活動ができるよう、各セクションの学習において、相手を変えたペア活動を4回位置付ける。話し手が述べた理由について、さらに詳しく知りたいことなどを聞き手に質問し、その質問に対して話し手が答えるというペア活動を設定することで、聞き手は「相手のことが知りたい」、話し手は「自分のことを伝えたい」という思いをもって活動させたい。



## Lesson5 単元構想図

単元の指導目標 自分が行ってみたい国について仲間に伝える活動を通して、その国の魅力や行ってみたい理由を含めて、聞き手に正しく伝えることができる。



### (2) 本時について

#### 指導計画の工夫

単元の終末の活動では、自分が行ってみたい国とその理由について自分の考えや気持ちを述べる。「何に興味があるのか、そこでできること、やってみたいこととその理由、また、その場所についてどう思っているのか」など、行ってみたい理由を述べるための有効な表現を各セクションの学習を通して定着させる。

#### 意欲をもてる導入

教科書のラトナの話の本時のモデルとして示す。話の内容を読み取り、自分が行きたい国とその理由を仲間に伝えるための有効な表現をラトナの話の中から見つけ出すことで、それを使って自分の考えや気持ちをラトナのように話してみたいという意欲につなげる。

#### 高まりのある追究

相手を変えたペア活動を計4回位置付ける。まず、Aペアとの対話活動で「行きたい国」を明らかにし、その理由として「そこでできること」を話す。次のBペアとの対話活動では、さらに説明してほしいことや詳しく知りたいことを「アドバイス」として互いのペアに質問する。さらに、Cペアとの対話活動では「行きたい国とそこでできること」に加え、ペアに質問されたことを話す。それぞれのペアに質問されたことについて自分の考えや気持ちを聞き手に伝えたいという意欲をもって対話をするのが、互いを高め合う活動となる。そして、最後にもう一度Aペアとの活動を行うことで、1回目の活動からの伸びを互いに認め合うことができる。このようなペア活動を通して自分の考えや気持ちを伝え合うことの喜びを実感させたい。

#### 自己の変容を自覚させる評価

本時の学習プリントを活用し、ペア活動を通して1回目から4回目までの自分自身の伸びを確認させる。また、学習カードを活用し、単元の終末の活動に向けて今日の授業で何ができたのか(どこまでできたか、今自分はどのくらいの到達度か)、まだ何がたりないのか(何をしたら目標に近づくことができるのか)などを明確して、達成目標の実現に向けた自己評価をさせる。

## 1, はじめに

本校では、書く力を高める指導の工夫を通して、豊かに自己表現できる児童の育成をしていきたいと考えている。本年度は、ブロックごとに目指す児童の姿を具体的にし、特に一単位時間の授業の工夫を通してその姿になるように実践を進めている。

## 2, 研究内容

## &lt; 研究内容 1 &gt; 指導と評価の工夫

(1) 児童が興味・関心をもち、意欲的に追究できる単元構想の工夫

## (2) 一単位時間の授業の工夫

## 課題化

## 個に応じた指導・援助

## 自己評価・相互評価

< 研究内容 2 > 基礎・基本の定着を図るための取組

< 研究内容 3 > 「書くこと」を系統的に捉えた年間指導計画の作成

## 3, 実践

5年生 国語科「言葉の研究レポート」

## &lt; 研究内容 1 &gt; 指導と評価の工夫

(1) 児童が興味関心をもち、意欲的に追究できる単元構想の工夫

- ・「言葉広げ」と題して、朝の会などに一つの言葉からイメージできるものを全員が考え発表する活動を仕組み、「言葉」に関心がもてるようにした。
- ・熟字訓・ことわざ・早口言葉・魚偏のつく漢字などをもとに「10問クイズ」をつくらせて提示し、提示することで「言葉」に興味をもてるようにした。
- ・学習の終末に 研究レポート発表会 を行い、クラスみんなで「言葉」に詳しくなるうと意欲付け、学習をスタートさせた。

## (2) 一単位時間の授業の工夫

## 課題化

13時間目(全16時間)に、前時に書いたまとめの文章を推敲させた。初めに、考えに詳しい理由が入っている文章(「分かりやすいし、生活に根ざした感じがしてなるほどと思っ

た。)」と、そうでない文章(「分かりやすくてなるほどと思った。)」を比較をさせ、詳しく書くよさを実感させた。児童は、内容がよりよく伝わるまとめの文章には、考えをもつにいたった理由があると良いことをつかみ、自分のまとめの文章を推敲することができた。

## 個に応じた指導・援助

ワークシートでまとめの文章を把握し、一人一人の推敲するとよい部分に印を付け、立ち止まって考えられるようにした。

ヒントコーナー(各自が自由に活用できる)には、理由の文例を提示した。

レベルアップコーナー(本時の課題が自分なりにできたと感じた子が活用する)には、まとめの文章の最後に「今後の課題」や「感想」が書けるように例文を提示した。また、早くできた子が、隣 グループ 号車 全体の順でその子の書いている文章に理由をつけるにはどんな表現ができるのかを一緒に考えて、ヒントを出していくことにした。この活動によって児童は、教えることでレベルアップ、教えられることでレベルアップができた。

## 自己評価・相互評価

3段落の構成を意識させ、事柄1に対応させて1段落でまとめを書き、事柄2に対応させて2段落でまとめを書き、3段落では「今後の課題」や「感想」が書けているかを自己評価させた。

相互評価では、隣同士で課題に沿って詳しい理由が書けているかどうか、まとめの文章として伝わりやすくなったかを評価させ合った。

## 4, 成果と課題

レベルアップの取り組みを通して、学び合う学習集団としての意識が高まるとともに、より詳しい理由を加えたまとめの文章を書くことができた。

まとめの構成を共通理解させたことで、段落や内容を意識して文章を書くことができた。

相互評価を授業の途中で取り入れたり、ねらいに応じて相手を変えたりすることも考えていきたい。



「応援します」

## 「お客様、第一主義」

スポーツ振興課スポーツ主事 大脇 直仁

「いらっしゃいませ。レギュラーですか？ハイオクですか？」

企業研修で初めて発した言葉です。これまでなかなかお客様に声をかけられず、やっとこの言葉が口から出たのは、1週間以上も経ってからでした。それまで、お客様の車の窓を拭くことに専念していました。

最初に窓を拭く時、マネージャーから

「あなたは、この車(右ハンドル)の運転席側の窓を拭く時、右手と左手のどちらの手で拭きますか？」

と問われました。私は、

「右利きですから、力の入りやすい右手で拭きます。」

と答えました。皆さんはどちらの手で拭きますか？

正解は、左手だそうです。

皆さん、右手で運転席側(右ハンドル車)の窓を拭いているところを想像してみてください。右手で窓拭くと、どうしても運転席を覗き込んでいるような姿勢になってしまいます。お客様にとっては気分のよいものではありません。

私は、窓をきれいに拭くことだけを考え、右利きの自分の都合を優先していましたが、マネージャーから左手で拭く理由を聞き、お客様の立場を考えて行動することの大切さを知らされました。

さて、企業では集客率を上げるために「一軒一軒、お客様のお宅をまわって商品の説明をする」「お客様が飛びつくようなチラシを

配する」「安価な商品売る」など様々な企業努力をしています。

研修中にあるお客様が、

「私は、値段でこの店へ来ているわけではありません。この人(社員)がいるからこの店へ来しています。」

とおっしゃいました。この時点で私は、何を意味しているのか分かりませんでした。

いろいろな場面で社長さんは、「お客様、第一主義」という言葉を使われていました。商品を販売するだけでなく、「お客様に喜んでいただけること」「安心して利用していただくこと」などを大切にしておられました。企業研修を始める前「企業＝弱肉強食」というイメージを持っていた私にとって興味深い言葉でした。社員の方たちにその意味を聞いたところ、「お客様の利益に繋がることを一生懸命考えて行動した結果、お客様の収益があがれば、その分当社への信頼度が増し、やがては当社の利益にも繋がってくる。」と教えていただきました。「値段ではなく、人(社員)で店を選んでいる。」とおっしゃっていたお客様の意図が分かった気がしました。

企業研修を体験し、今までの自分の教育活動を振り返ってみた時、児童・生徒にとって魅力ある授業・学校であったのかと自問自答する自分がいました。

学校勤務に戻った時、「児童・生徒たちが『早く、学校へ行きたい』、『授業が楽しみ』と言ってくれるような取り組みができれば。」と思っています。

私には、30年来お付き合いをいただいている主治医がある。定期的に病院に通うのであるが、あるときに余りにも身体が疲れ、「先生、子どもといると疲れるんやわ。今日はひどくなってると思う。」とつい愚痴をこぼした。すると、いつもの温厚な声で「私は患者さんには、慈愛の心で接するようにしているんですよ...。」とポツリと言われた。

家への帰り道「慈愛の心」と反復してみた。

“いつくしみ愛すること”

私は子どもたちと接するとき、どれ程の心をもって子ども達と接してきたのか？

子どもを自分の思いどおりにしようとして、イライラし腹が立ち気分が優れなくなってしまっているのでは.....。

本当に子どもたちが『可愛い』、本当に子どもたちを『大切にする』『愛する』思いがあったのなら、こんな気持ちにならなかったのに.....。

私はこれ以降、気分がイライラすると「慈愛の心」を思い出すのだがなかなか難しく困難である。

しかし、難しく、困難なことであるからこそ「慈愛の心」を常にもち、子どもたちのみならず、どんな人とも接していきたいと願っている。

- |            |  |                 |
|------------|--|-----------------|
| 土岐市発明くふう展（ | 県展出品）《くふうの部》                                 | 《絵画の部》          |
| 土岐市長賞      | 筑摩 恒治（駄知小6年）                                 | 小椋 敬太（妻木小5年）    |
| 土岐市議会議長賞   | 鵜飼 純平（土岐津小6年）                                | 曾我 紀薫（泉西小4年）    |
| 発明協会土岐支会長賞 | 平野 雄也（駄知中3年）                                 | 木村 有希（泉小6年）     |
| 土岐市経済環境部長賞 | いちおか めぐみ（土岐津小1年）                             | なかしま あんな（駄知小1年） |
| 土岐市教育長賞    | 小栗 克人（泉小2年）                                  | 佐分利 眞由奈（鶴里小6年）  |
| 土岐中央RC会長賞  | 籠橋 映莉子（駄知小6年）                                | 美和 杏果（下石小3年）    |
| 奨励賞        | さい木 けんしん（肥田小2年）                              | やまもと あや（土岐津小1年） |
| 奨励賞        | 福岡 聖（下石小4）                                   | 曾根 由衣（泉西小1年）    |
| 奨励賞        | 市瀬 璃子（泉西小4年）                                 | 木股 知那（肥田小4年）    |
| 東濃地区科学作品展（ | 県展出品）  |                 |
| 優秀賞        | スズムシの鳴き声 ～どうして鳴くのかな～                         | 加藤 菜保美（妻木小3年）   |
| 優秀賞        | 空気ほう最強プロジェクト                                 | 加藤 誉晴（土岐津小4年）   |
| 優秀賞        | しょうゆさしのふしぎ                                   | 土田 花栄（泉西小4年）    |
| 優秀賞        | 夏を涼しく過ごすエコ生活                                 | 水野 里香（泉小6年）     |
| 優秀賞        | カナヘビの研究 ～ハンティング実験と観察パート～                     | 水野 朱梨（西陵中1年）    |
| 優秀賞        | ダンゴムシの研究                                     | 林 佑樹（西陵中2年）     |
| 優秀賞        | わき水を利用した浄水実験<br>～災害時に短時間で大量の「飲料水」を確保するための研究～ | 木村 健太（濃南中3年）    |
| 優良賞        | かみのけんきゅう                                     | みずの ゆりな（駄知小1年）  |
| 優良賞        | ぼくのドロゴンボール ～どろだんごのけんきゅう～                     | いび あきひろ（泉小1年）   |
| 優良賞        | ストローでみずをはこんでみよう                              | つちだ りえ（泉西小1年）   |
| 優良賞        | ものうきしずみ                                      | ひびの ゆき（駄知小2年）   |
| 優良賞        | カブトムシのひみつ                                    | いまい ひろひこ（泉小2年）  |
| 優良賞        | カブトムシのひみつ                                    | いまい としひこ（泉小2年）  |
| 優良賞        | 氷のふしぎ  | 桐山 朝妃（駄知小3年）    |
| 優良賞        | しゃぼん玉の研究                                     | いび 菜月（泉小3年）     |
| 優良賞        | 走れ！ダンゴムシ（ダンゴムシの観察）                           | 山崎 亜珠（妻木小4年）    |
| 優良賞        | カエデの種にせまる！！                                  |                 |
|            | まわれ！まわれ！紙コプターPARTIII                         | 日比野 裕太郎（駄知小5年）  |
| 優良賞        | 漬物の塩分は減らせるか？（1）（2）                           | 古田 知宏（泉小5年）     |
| 優良賞        | コロコロジャンピング                                   | 田中 万理（泉西小5年）    |
| 優良賞        | 蝋燭の不思議2                                      | 加藤 有美恵（妻木小6年）   |
| 優良賞        | コマがよく回るひみつ                                   | 今井 桃子（泉小6年）     |
| 優良賞        | カワニナの好む環境は？（カワニナの観察）                         | 山崎 香南（西陵中1年）    |
| 優良賞        | 古紙の再生  | 瀧澤 萌乃（肥田中3年）    |



土岐市 教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No.437  
所長 加藤 紀久朗  
発行責任者 平成20年10月31日  
発行日 増田 章 教育長  
題 字

## 体育大会 大縄跳び



撮影 泉中学校 佐藤 勝也先生

## 泉公民館 ロボット教室



撮影 泉中学校 加藤 明覚先生

# 節目の月？ 5・10・2ということ

20年度も折り返しからゴールに向かって進む時期となってきました。多くの学校で発表会や研究会が行われていますが、発表や研究授業に向けて、「地道に・繰り返し・積み重ね」を大切にやってみえた先生方の実践には頭が下がる思いです。しかも、児童生徒の姿にその成果が出てきているところに、積み上げの大切さと研究の日常化を感じています。

人生において「厄年」ということが言われます。その歳に大きな変化があったかは言い切れませんが、長い目でみるとその年齢の頃に何か節目の出来事が起こっていることも確かのようにです。

一年という期間も考えてみますと、厄年ではないですが、「厄月」と思われる節があります。4月は新年度・新学期が始まり、多くの問題が最初に生じるのが5月頃です。4月にはお互いの新しい出会いが始まり、自分を出すことより、まわりの状況を伺う月です。5月になると、自分を出すこと、自己主張を始めます。それは子ども同士、先生と子ども、保護者と先生の間においても同様です。主張することは大事な事ですが、摩擦やす

## 土岐市教育研究所長 加藤 紀久朗

れ違いも生みます。成長や発展の過程での自然な流れでもありますが、諸問題が発生する最初の節目の月ともいえます。

次の変化は10月頃です。9月は運動会や体育祭を核として大きなエネルギーを生み出します。そのエネルギーはお互いを更に高めたりしますが、形で結びあっていた関係から、今までの過程を踏まえての結果を求める関係に変わってきています。その中で、結果からお互いを判断したり、評価したりするようになります。また、こんなことは分かっているはずという錯覚や慣れからくる問題も多く起こり、小さなことでも、結果に基づいた責任が強く求められるようになります。

最後はあくまで予想ですが2月頃です。それまでの指導や活動の結果から、あの先生は・この学校はという信頼と不信感が明確に、子ども・保護者・地域そして職員間でも態度としてでてきます。

毎日、子どもを見届けることは無くてはならないことですが、一年間またはある程度の期間の中で、節目を考えてみることも無駄ではない気がしますが、どうでしょうか。

# 「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会 土岐津中学校 長瀬 久美子

(前号より)

## 3 実際の授業より 第3学年 英語

単元名 “Lesson5 Places to Go, Things to Do”

本時のねらい 自分が行ってみたい国について仲間に伝える活動を通して、行きたい国とその理由(そこでできること)を述べるために有効な表現を使って、話すことができる。

過程	学習活動	教師の指導・援助
導入 課題 確認	1. 帯活動 “What music do you like?”をペアでおこなう。 2. 本時の課題を確認する。 ラトナの話を参考にし、Useful Expressions を使って、自分の行きたい国とその理由について説明しよう。	・“Why?”“What song?”など、疑問詞を使って会話を続けることが本時の活動につながることを意識させ、活動させる。
展開	3. 教科書の本文内容(ラトナが行きたい国・そこでできること)を理解する。 4. 行きたい国やその理由について述べる時に有効な表現(Useful Expressions)を、ラトナの話から見つける。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・“I want to go to ~”を使って、行きたい国がどこかを言うといいね。</li> <li>・そこでできることについて話したい時は“<u>There I can ~</u>”が使えるね。</li> <li>・“There”じゃなくても“<u>In ~</u>”みたいに場所を具体的に話してもいいね。</li> </ul>	・“I want to go to ~ / There I can ~ / In ~, I can ~”が、行きたい国やその理由(そこでできること)について述べる場面で有効であるということを確認する。また、その表現を使って自分ならどのように話すかを数名の生徒に発言させ、Useful Expressions の使い方をイメージさせる。
	5. Useful Expressions を使って、自分が行きたい国とその理由(そこでできること)についてAペアで交流し、考えや気持ちがより詳しく伝わるためにアドバイスをし合う。  <p>Aペア: Where do you want to go? S男 : I want to go to the USA. Aペア: Oh, the USA.... Why? S男 : There I can see baseball games.</p> <p>・Aペアから質問されたことを加えて、Bペアとも交流し、アドバイスし合う。</p> <p>S男 : I want to go to the USA. There I can see baseball games. Bペア: Oh, baseball....What team ( do you like ) ? Seattle Mariners.</p> <p>・Bペアから質問されたことを加えて、Cペアとも交流し、アドバイスし合う。</p> <p>S男 : I want to go to the USA. There I can see baseball games. I like Seattle Mariners. Cペア: Oh, Mariners.... Who ( is your favorite player ) ? Ichiro.</p> <p>・Cペアから質問されたことを加えて、再度 Aペアと交流し、アドバイスを生かして</p>	・行きたい国でできることやそのことについて詳しく話すことができるよう、それぞれの国の文化に関する情報や自分の考えについて、日本語のメモを用意しておく。 ・Useful Expressions を使って表現できない生徒には、自分の考えを当てはめると文章が完成するプリントを用意し、一緒について発音し活動を見届ける。
	<p>どれだけ話す内容が変化したか、互いのよさや伸びを認め合う。</p> <p>S男 : I want to go to the USA. There I can see baseball games. I like Seattle Mariners. And I like Ichiro very much.</p> <p>Aペアからのコメント 「イチローが好きで、マリナーズを応援していることが伝わったよ。」</p>	・実際の生徒の発言を具体的に例として挙げて、聞き手の質問は“Who?”“What?”などの疑問詞や“Big?”“Beautiful?”などの形容詞のように、単語だけになってもよいことを伝える。
	6. 自己評価と振り返りをする。 今日では There I can ~ を使ってアメリカへ行きたい理由が話せたし、ペアから質問されたことについて自分が考えていることが話せたので良かったです。あとは、イチローからサインがもらいたいと思っているので、そのこ	・単に話す文章を増やすだけでなく、ペアに質問されたこと(相手が知りたいと思っていること)について、自分の考えや気持ちが聞き手によりよく伝わるよう、詳しく話すことを意識させる。 ・今日の授業で何ができたのか(今自分はこのくらいの到達度か)、まだ何がたりないのか(何をしたら目標に近づくことができるのか)などを明確して、達成目標の実現に向けた自己評価をさせる。
評価		

とを次の時間に話せるといいです。

#### 4 授業後の考察

##### 指導計画の工夫

行ってみたい理由を述べるために有効な表現(何に興味があるのか、そこでできること、特にやってみたいことなど)を、各セクションの学習を通して定着させることで、単元の終末の活動に向けて、見通しをもたせながら活動させることができた。

また、帯活動“Be A Good Listener(聞き上手になろう!!)”を位置付け、相手の話を聞き出す(引き出す)質問の仕方に慣れる活動をおこなったことが、ペア活動に生かされていた。

##### 意欲もてる導入

自分が行きたい国とその理由を仲間に伝えるのに有効な表現をラトナの話の中から見つけ出させた際、生徒自身の場合に置き換えて「I want to go to Italy.(イタリアへ行きたい)」「There I can help people.(そこで人助けができる)」など数名の生徒に発言させた。これにより、Useful Expressions を使って自分の考えや気持ちを伝えるという本時の学習活動のイメージをもたせ、ラトナのように話してみたいという意欲につながることができた。

##### 高まりのある追究

ペアを変えて互いに質問させることで、1文ずつでも相手に伝えたいことが増えていき、話の内容に広がりが出た。その際、ペアの質問に対して単語のみで答えた生徒が、次のペアとの活動でどのような文章で伝えたらよいかを、一緒に考える姿が見られた。

最後にもう一度 A ペアとの活動をおこなうことで、1回目の活動では分からなかった、行きたい理由やそれについての詳しい説明を聞き、互いの伸びを認め合うことができた。しかし、全員に伸びを実感させるために、最初の A ペアでの活動を「全員が互いに1文ずつ話す」としたため、初めから1文以上話したい生徒にとっては、伸びを実感したものの満足感の得られる活動であったとは言えなかった。

##### 自己の変容を自覚させる評価

最後の A ペアとの活動について、本時の学習プリントに互いの評価を記入させた。これにより、1回目から4回目までの活動を通して自分自身がどれだけ伸びたか(相手に自分の気持ちが伝わったか)を確認することができた。

また、単元の学習カードを活用して自己評価をさせたことで、本時ついた力(前時言えなかったことが言えた)や次時の目標(こんなことを伝えたい)を明確にすることができた。

本時の課題に対する評価規準を、生徒に分かる具体的な言葉で学習プリントに示すことで、目標をもって活動することにつながった。しかし、到達度を自己評価する際、生徒自身の自己評価と実際の教師の評価とではギャップが生じるため、特に話す活動において今後、正しく自己評価する力をつける工夫が必要である。



##### <生徒の学習プリントより>

「最初はイタリア料理が好きということしか分からなかったけど、料理をしてみたいということもよく伝わった。」

##### <生徒の学習カードより>

「“There I can ~ ”を使って、昨日言いたかった“自由の女神の中に入って登れる”ということが言えた。次はさらに“登ったところで写真を撮りたい”ということも言いたい。」



#### 5 成果と課題

Useful Expressions を自分のことに置き換えてイメージさせた導入は、活動への意欲につながった。

ペアを変えた活動を位置付けたことで生徒自身がステップアップを実感しながら活動に参加し、最後に再度 A ペアで活動したことで、互いの伸びや高まりを認め合うことができた。

高まりのある追究の時間を充実させるために、トピック別のペア、習熟度別のペアなど、ペアの組み方とその活動内容を工夫する必要がある。

正しく自己評価をさせる力をつけるために、評価規準 B,A の生徒モデルを授業の最後に示すなど、個々の自己評価力を鍛える必要がある。

# 「確かな学力を育てる教科指導のあり方」

～ 評価規準の達成が困難な生徒へのきめ細かな指導～

土岐市立肥田中学校 土本 高夫

## 1. はじめに

本校では、昨年度まで小集団を生かした学習活動を通して個への指導援助を行ってきた。本年度は昨年度までの成果を生かしつつ、より積極的な個への指導援助の工夫によって評価規準が達成できるように実践を進めている。

## 2. 研究内容

(評価規準の明確化)

(1) 単元指導計画の構造化

(2) 評価規準の厳選

(1 単位時間の授業の充実)

(1) 個の実態把握

(2) 指導過程・指導援助の工夫

(評価の工夫)

(1) 教師による評価の工夫

(2) 生徒による評価の工夫

## 3. 授業実践

[ 社会科 ] 第 2 学年 【 地理的分野 】

日清・日露戦争と近代産業

～ 3 日露戦争 ～

## 3. 評価の工夫

(1) 教師による評価の工夫

評価規準を達成させる重要な学習過程において、形成的評価と指導援助を位置づける。

(2) 生徒による評価の工夫

毎時間同じ観点から自己評価して、つけた力を生徒に意識づける。

(後期は「資料をもとにして考えを持つ」「関わらせながら考える」の 2 観点)

評価規準 【 思考・判断 】

日本が強国ロシアに対して開戦した理由を「アジアにおける日本の利益を守る」「英や米の援助」「国民意識」の視点から考えることを通して、日露戦争が日本の存亡をかけた戦争であったことが分かる。

主な授業展開

日本とロシアの戦力比較

日本はロシアよりも国力がないぞ。

課題設定

なぜ日本は強国ロシアと戦ったのか。

予想 視点化 ( 教師の提示となる )

・ 国のため ・ 国際関係 ・ 国民意識

個人追究 小集団追究 ( 生活班 )

全体追究 ( 個人発表 )

・ 日本を守るために戦うしかなかった。

・ 日英同盟があつて心強かつた。

・ 反ロシアの感情があつた。

まとめと自己評価

## 1. 評価規準の明確化

(1) 単元指導計画の構造化

国際的地位向上について「対等関係を築く 努力」「勢力の拡大」の視点から構造化する。

(2) 評価規準の厳選

後期は、前期重点の「資料活用」力を生かした「思考・判断」力の育成を重点とする。

## 2. 1 単位時間の授業の充実

(1) 個の実態把握

発言やノートから学習状況を把握して机列表に記入し、次時の個別指導に生かす。

(2) 指導過程・指導援助の工夫

視覚的資料や構造的な板書によって出来事をイメージ化する。

課題に対する予想を追究の視点とし、個人や小集団の追究に生かす。

## 4. 成果と課題

構造的な板書によって、社会的事象をイメージ化し構造的にとらえることができた。

個人追究後の小集団追究によって、個の考えを広げ深めることができた。

教える事項と考えさせる事項をより精選、明確にして個の思考活動を充実させる。

資料のイメージ化をより図るとともに、資料を読み取る手だてを充実させる。

# ニューフェイスの紹介



今年度、土岐市へ着任された初任者は、この10名です。『半年間を終えての思い』を掲載しました。



土岐津小学校 廣瀬 賢人

今年は2年生を担当しています。元気いっぱいの子もたちと毎日向かい合っているうちに、あっという間に半年が過ぎてしまいましたが、学校にも慣れてようやく周りを見ることができるようになってきました。そして、この半年間はなかなか子どもたちと外で一緒に遊ぶことができていなかったことに気がつきました。低学年の子どもたちは、遊びの中でルールや仲間作りなど、学んでいくことがたくさんあります。そうした機会をたくさん作り出せるようがんばっていきたいです。



土岐津小学校 河村 亮太

土岐市の土岐津小学校に赴任してからあっという間に六か月が経ちました。新しい環境で、仕事をするにも生活をするにもわからないことが多々ありましたが、ようやく慣れてきました。今年度は5年生を担当しています。運動会や自然の家の宿泊学習などたくさんの行事を経て、子ども達が成長していく姿を頼もしく見守っています。改めて子ども達の無限のパワーのすごさを感じました。子ども達に負けないように学級目標の「フルスイング」で頑張っていきたいです。



肥田小学校 清水 立貴

「りつき先生、おはようございます！」1日の始まりがこの言葉から始まり、子ども達から元気もらっています。赴任した当初は不安ばかりでしたが、今は周りの先生方や元気な子ども達に支えられ、毎日が楽しくて仕方ありません。授業は思うようにできないことが多いですが、子ども達と一緒に遊び、汗をかき、時には涙し…。今は子ども達から学ぶことばかりです。専門が体育なので、元気いっぱい・ハツラツとした姿をみんなに示し、それを学級経営・授業にもつなげていきたいです。



泉小学校 寺倉 希美

「子どもたちの笑顔がもっとみたい」そのために、授業作り、学級掲示など、常に子ども達の笑顔を想像しながら、走り続けてきた半年間でした。しかし、私は最初からなんでも器用にできるタイプではありません。子どもたちにわかる授業ができるか不安で眠れなかったこともありました。そのような時、いつも明るく支えて下さった先生方や優しい泉の子どもたちに感謝する気持ちを忘れずに、絶えず向上する気持ちをもって、これからも努力していきたいと思います。



### 泉小学校 大井 潤

土岐市に赴任して、早くも半年が過ぎようとしています。東濃地域に来て、地域性の違いに驚きました。子ども達が「先生～やら。」とかわいらしい言葉で声をかけてきてくれ、とてもうれしかったのを覚えています。東濃に単身で来た私にとってこの半年間、学級の児童がどれほど支えになったかわかりません。また多くの先生方や保護者の方に支えられて、仕事を続けてこられたと思います。感謝の気持ちを還元できるよう、子ども達と共に学び、笑顔を絶やさない教師をめざします。



### 土岐津中学校 山口 隆幸

最近嬉しい事がありました。私の学級の欠席しがちな生徒が後期組織決めの時、仲間の前で一言こう発表したのです。「広報委員になりたいです。」小さな声でしたが、自分の意志をはっきり伝えました。その瞬間、承認する生徒の拍手が2B教室を包んだのです。これまでの家庭訪問では、公園でキャッチボールをしたり、ギターを弾いたりしてきました。その度に明るい顔を見せてくれるようになり嬉しく思った事を覚えています。生徒に寄り添うことを大事にしていきたいと思っています。



### 西陵中学校 山田 茉莉

不安と期待を抱いて、教壇に立った入学式から早半年が経ちました。授業づくり・学級経営・部活動に追われる毎日の中で、生徒たちの目線に立ち、生徒たちの声に耳を傾けることを大切にしてきました。しかし、自分の力のなさを痛感することも多く、そんな中で、私の支えになったのは生徒たちの笑顔であり、それが今の私の原動力です。まだ始まったばかりの教師生活ですが、学ぶことと感謝の気持ちを常に忘れず、子どもと共に歩む毎日を大切にしていきたいと思っています。



### 濃南中学校 小池 真実

「生徒たちに寄り添う保健室の先生になりたい」という夢をもち、養護教諭となつてから6か月が過ぎました。子どもたちの笑顔に支えられ、温かい先生方や地域の方々に支えられながら、毎日充実した日々を過ごしています。また、他校の養護教諭の先生方からいろいろなことを教えていただき、勉強になっています。これからも学ぶ気持ちを大切にし、生徒の心と体の健康について手助けをしていきたいです。また、私自身も生徒と一緒に成長し続ける教員でいたいと思います。





### 泉中学校 池田 順子

「楽しく分かりやすい授業」これを目指して私は授業に臨んできました。空き時間には、必ず他の英語科の先生に授業を見せていただきました。そこで指示の与え方が課題だと気づいたので、生徒が何度も聞き返すことがないように、明確かつ具体的な指示を出すようにしたいです。秋休みの今、前期が無事終了してほっとしています。時間がある時に教育実習時の資料を読むと、熱い思いがこみあげてきて、パワーがでできます。十分に充電をして、子ども達の目が輝く授業をしていきたいです。



### 泉中学校 宮部 小百利

この半年間で、生徒の目線に合わせることの大切さを学びました。話をするスピードや説明の仕方など、それぞれの生徒によって必要とするものに違いがあります。そのため、普段から生徒の様子をよく観察したり、話をしたりして生徒をつかむことが大切となります。そこで、私は生徒の姿をメモで残すことを心がけています。これから、生徒のよい姿がもっと残せるようになりたいです。

10月14日(火)

## 市初任者研修会・講師研修会が肥田小学校で行われました

研修者を代表し、同校2年B組を担当する清水立貴教諭が、「体育」(ゲーム領域・鬼遊び)の研究授業を公開されました。

授業では生き生きと活動する児童や先生自身の姿があり、その授業研究会では「学級づくりのよさ」「学習規律」「ねらいに迫るための手だて」など、それぞれの先生が視点を持ち、積極的に発言され活発な意見交流がされました。また、教育委員会生涯学習課による「社会教育の現状と課題」の講話においても、学校教育と地域のつながりについて、話に聴き入ったり、資料を一生懸命見入ったりする姿があり、多くの成果がみられる研修会となりました。

会場の提供等にお世話いただきました肥田小学校をはじめ、各校でも講師の方(8名)の参加にご配慮くださりありがとうございました。



着任校長を歓迎する会のことでした。教育長さんが「お三人の校長先生は、皆さん叩き上げの方ばかりです。」と紹介されました。

教師を形容する表現として「叩き上げ」という言葉が使われたことに意外さを感じました。広辞苑によれば、「下積みの時代から鍛えられ、苦労を重ねて一人前になること。また、その人。」とありました。私は、「なるほど！若いときから学校現場で自分自身を鍛え上げ、教師としての資質・能力を高めたことをこの言葉で賞賛されたのだ。」と合点しました。

では、どんな努力をどれくらいすれば教師は一人前になるのでしょうか。

私が初任校で無我夢中に日々を過ごしていた頃、「初任の3年間は特に大切だ」と何度も先輩諸氏から言われました。ある社会科の先輩からは

「研究授業は50回」とも聞きました。年3回のペースなら、下積み時代は15年間を超えて続くことになります。

初任1年目の冬、実践記録を書いていた宿直の夜でした。校長先生が「教師は、年に一度は自分の実践を振り返り、100枚ぐらいにまとめたものだ。」と言われました。そこまでできたわけではありませんが、幾分か努力は続けました。でも、満足する授業実践がいくつかあったのでしょうか。

教師は、一人前でもないのに初任第1日目から一人で授業を行います。その時から下積みの叩き上げが始まるのです。これで教師は力を付けるのです。若い先生方の意欲的な授業実践に期待します。

## 掲 示 板

### 土岐市読書感想文コンクール 金賞

#### <自由読書>

下石小 1年	とまつ ゆうと
肥田小 4年	芳村 敢太
泉小 4年	大澤 慎太郎
泉小 4年	加藤 友芽
妻木小 6年	榊原 吉恵
駄知小 6年	加藤 光生
駄知中 2年	塚本 怜子
西陵中 3年	水野 菜々
肥田中 3年	塚本 大輝

#### 銀賞

#### <自由読書>

土岐津小 1年	すずき しょうた
鶴里小 1年	まえだ りょう
泉小 1年	いちはら みきやす
駄知小 3年	山本 陸
泉小 3年	柘植 玲男
下石小 4年	加藤 千咲子
駄知小 5年	浦本 理沙
肥田小 6年	佐藤 文音
泉小 6年	田中 敦
駄知中 1年	須藤 有紀
泉中 1年	田中 美穂
土岐津中 2年	加藤 真穂

#### <課題読書>

土岐津小 2年	高木 そう
肥田小 2年	小林 れいな
泉小 2年	永瀬 瑛登
妻木小 4年	加藤 頂羽
妻木小 5年	安永 知加子
駄知小 5年	三浦 詩織
土岐津中 1年	加藤 貴裕



肥田中 2年	土屋 桃花
泉中 2年	加藤 祐也
駄知中 3年	口羽 悠希

#### <課題読書>

駄知小 1年	なかしま あんな
曾木小 2年	小木曾 けん太
妻木小 4年	落合 将伍
曾木小 4年	水野 朱峰
泉小 5年	加藤 千佳
泉西小 6年	加藤 大曙
泉中 2年	山内 千礼
土岐津中 3年	上条 桃子





土岐市	教育研究所
TEL	0572-54-1111 (内281)
FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No.438
発行責任者	所長 加藤 紀久朗
発行日	平成20年11月30日
題字	増田 章 教育長



収穫を祝つ会 ( 11 / 11 )  
『保護者・祖父母・老人会の方々を招いて  
収穫発表表&おにぎり会食』

## 今、土岐市の子どもたちや学校を支えるちから

土岐市教育研究所長 加藤 紀久朗

景色は観る場所で大きく変わるもので、それぞれのよさがあり、また、そのときの心情によることも大きいものです。先生方は出来る限り、多くの場所や場面から子どもを観ようとしており、その中で、その子のもつよさを見つけ大事にされる指導を行っておられます。実に的を得た指導ではないでしょうか。

この10月・11月は市内の学校でもいくつかの発表会や訪問などで授業公開があり、多くの授業で上記に述べた姿を見ることができました。このことは一晩にしてなることではなく、日頃の先生方の指導姿勢に起因するもので頭が下がる思いです。

土岐市内小中学校の先生方の年齢構成をみると、50歳以上の先生方は約3割で20代は1割強です。学校全体や一つ一つの授業を参観する中で、いわゆるベテランと言われる先生方が土岐市教育

を支える部分と引っ張っている部分を担っておられることを強く感じました。また、55歳以上で学級担任をしておられる先生は10名ほどいらっしゃいますが、実に生き生きとしておられます。お話をうかがうと、体がついていかないとか疲れがとれないなどと言われますが、確かにその通りかもしれません。ですが、気迫・指導力・人間性の深さなどなかなかのもので、まだまだ若い人には負けませんということを姿で示して下さっています。

誰もが年齢による体力の低下は多くのことでみられることは当然ありますが、気持ちのもち方(気力・根気・願い)が一つの大きな力になっていることは確かなようです。

今以上、「がんばれ」とは言いません。少なくとも健康であって欲しいと願っています。

# 「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会 泉中学校 西尾 新

《研究主題》

## 集団の一員としての所属感をもつとともに、 自分を高めようとする態度を養うことができる授業

### 1 研究主題について

特別活動の目標は「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」である。内容は「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」に分かれている。本研究では「学級活動」に焦点を絞って進めていく。

学級は、学校における生徒の様々な活動の基盤としての役割を果たす場である。そこには学級や学校での集団生活や生徒個々に関わる問題などが発生する。学級活動の授業では、このような問題に対して生徒自らの発案、創意を大切に、自主的に解決し処理していくような活動が展開されなければならない。当面している課題を明確にしたり、生徒が共に楽しく豊かな共同生活を築くための活動を計画したりする授業を行うことが、研究主題にせまることとなり、学ぶ楽しさのある授業にもつながっていくと考える。



### 2 授業実践について

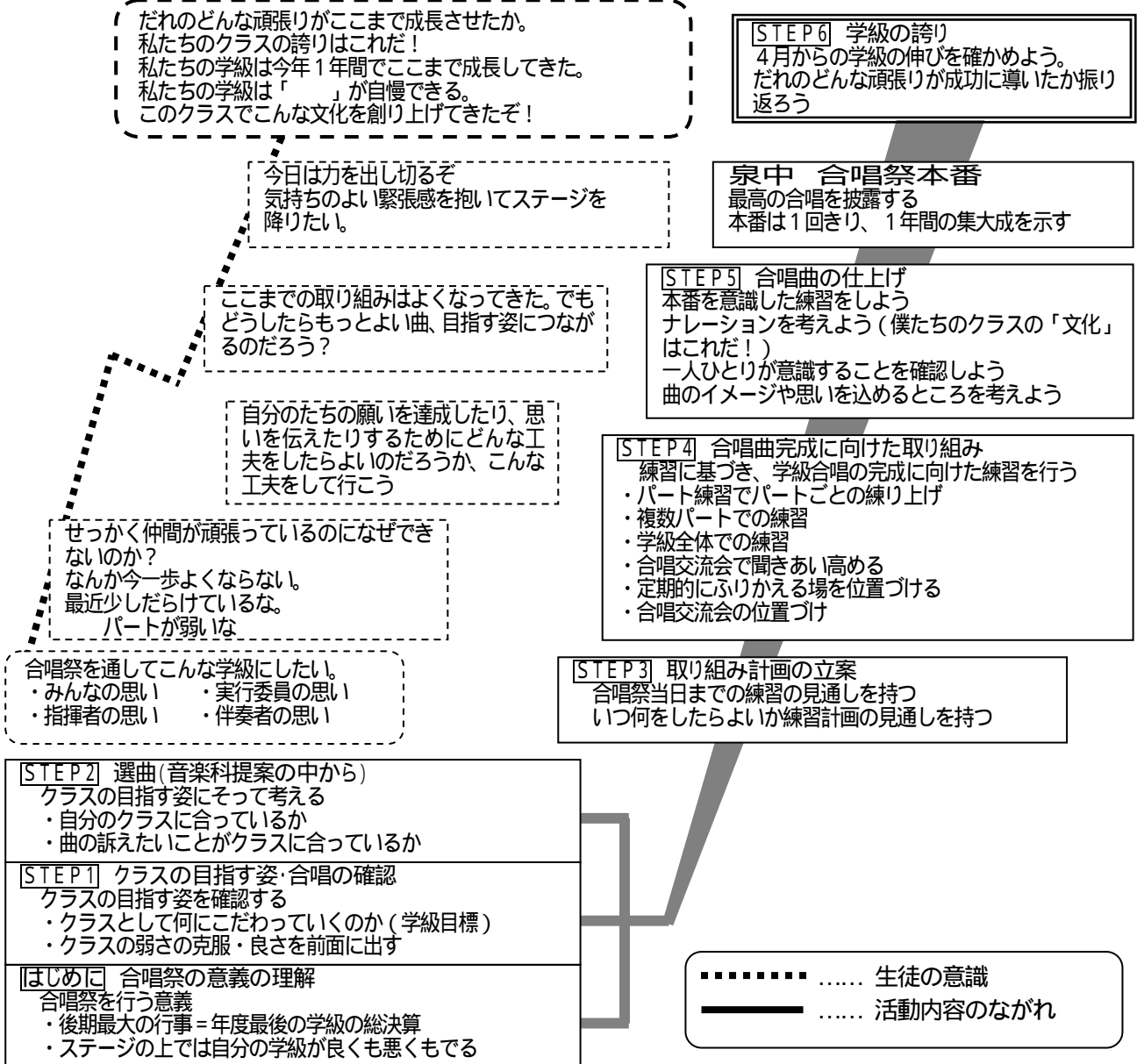
#### (1) 題材について 合唱祭に向けた取り組みを見つめよう

本題材は、2月に行われる合唱祭に向けた取り組みについて考えるものである。11月上旬に合唱祭に対する願いを学級で確認し合い、11月中旬に学級の合唱曲を決め、11月の下旬には合唱祭に歌う学年合唱曲の学年交流会を行う。12月中旬までに各パートの音取りをし、12月下旬から1月上旬にかけて全体合唱をし、1月下旬には他クラス、他学年との交流合唱を行い、本番を迎える予定である。

合唱祭のねらいは「合唱を通して、学級や学年、全校の心が一つになったときの充実感や満足感を味わわせる。そして、よりよい人間関係や豊かな文化、さらには値打ちある生き方を築き上げていくことに価値を見いださせる」ことにある。2月に実施されることから4月から積み上げてきた学級の文化を発表する場であることを強く意識させたい。学級の文化とは学級目標の具現に向けた動きの中で生み出される学級独自の財産である。合唱祭の取り組みを通して、自分たちの活動の様子を見つめたり、願いを再確認したりすることで、その財産の質を高められるようにしたい。そして、合唱祭が終わった1か月後の学級解散式で仲間との別れを惜しめるような事実を残させていきたい。



題材構想図（合唱祭までの学級経営）



(2) 本時について (STEP 4)

指導計画の工夫

導入で合唱祭に対する願いを共有させ、目指すべき姿を明確にする。当日に向かう活動の中で常にこの願いに立ち返らせる。取り組みは3か月ほどの長い期間となるため、リーダーやフォロワーの思いに触れる場を設定し、当日に向かう意欲を高めていく。

意欲をもてる導入

授業の出口では、自分たちに足りないものを実感させ、今から努力すべきことを明確にさせたい。そのために授業の導入では、取り組みの様子を撮影した映像を見せ、問題点をはっきりさせるようにする。

高まりある追究

学級の合唱をよりよいものにしようと懸命に努力を続ける仲間の文章を読ませ、導入の映像で見た自分たちの姿と仲間の思いの差を実感させるようにする。学級委員長を中心にその意見交流を進めていくが、事実だけの羅列にならないよう教師は事実の裏にある自分たちの弱さに気づかせる発問をしていく。

自己の変容を自覚させる評価

授業の最後には再度合唱練習を行い、実行委員にその姿を評価させ、導入で見た映像にはなかったよさを価値付けさせる。

「応援します」

## 温かな無関心

陶史の森ネイチャーセンター  
自然観察指導員 加藤 辰亥



「先生、土日や夏休みがなくなってしまって大変ですね。」「いえ、毎日が夏休みですよ。」とは4月の新しい職場での会話。毎日の飼育小屋3軒の掃除や糞の後片付け、餌やり、水やり。体調の様子・観察。そして摂氏39度の中の草刈。枝打ち。枯れた松の伐採。危険箇所の整備。トイレ掃除。水道メーターの記録。厳しい職場であるが給料は公務員の4分の1。

アクシバは背の低い木です。花は葉の裏に咲きます。ちょっと見ではまずわかりません。でも、よくみるとなかなか見栄えのする花です。決して派手ではありません。どちらかといえば目立たなくてひっそりと咲く花です。他にもジガバチソウやコバンソウ、コブナグサ、ツルアリドシなど静かにひっそりと力づよく咲く花はたくさんあります。図鑑で見ると、「疎林の中に生える落葉低小木。幹は高さ20～50cmとなり、よく枝分し、枝は開出して水平に広がる。若枝は丸く、緑色、無毛、古くなると灰黒色となります。葉は卵形、鋭頭、基部は円く、ふちに細鋸歯がある。表面は中肋に沿って微細毛があるほかは無毛、葉脈に沿って凹み、細かい網目がある。裏面は淡緑色、無毛、長さ2～6cm、葉柄は1mm。花は6～7月、本年の枝の葉腋に単生。花柄は1～2cm、無毛、小苞は、1～2mm、線形、長さ2～3mm細くて下垂する。がく裂片は4、卵状は披針形。花冠は下向きに咲く。蕾は長さ8mm、開けば4裂片は反捲する。」との説明があります。北海道から九州までのおもに裏日本の林の中に見られ、近畿地方には雑木林にも普通に見られる場合があります。紅く熟する果実は細い柄でぶら下がって葉裏に隠れており、非常にみずみずしいので、ヨメハンノナミダ(京都)という方言名があります。

「どうして毎日が夏休みなの?」「朝部活で7:00頃から。放課後部活が終わってから会議。下手すれば午後6時頃からの会議。だから学校を出るのはいつも夜の7時か8時。正規の時間内の勤務ができるのは、夏休みや冬休みのときだけだから。」「ふーん、すごいね。たいへんだね。」

伊勢湾を囲む東海地区、愛知県から岐阜県のあたりは、ハナノキ、シデコブシ、シラタマホシクサ、トウカイモウセンゴケをはじめとした特産植物があって特殊な植物地理区となっています。ヒトツバタゴはこの地域に野生するほかは、遠く対馬の北部、朝鮮半島、中国、台湾にあります。日本では珍しい木のひとつです。

ヒトツバタゴは江戸時代末に尾張(愛知県)の本草学者、水谷豊文が発見し、「物品識名拾遺」に記録をしました。豊文はこの木をトネリコの仲間と判断し、トネリコをこの地方の方言で「タゴノキ」というので、「単葉のタゴであるから」すなわち「ヒトツバタゴ」と名付けました。また、江戸青山六道の辻の近所の屋敷(現在は明治神宮外苑内)にこの木が植えられていて、名前が分からぬままにナンジャモンジャとよばれていました。対馬では北端の鯉浦(わにうら)で明治末に発見され、国の天然記念物に指定されていますが現地ではウミテラシと名付けています。図鑑では、「高さ25mになる落葉高木。葉は対生し、長楕円形で長さ約10cm。5月に円錐状集散花序に白花をややまばらにつける。雌雄異株で、花冠は4つに深く裂け、裂片は長さ15mm前後。果実は10月に黒く熟し、広楕円形で長さ1cmから1.5cm。庭木として観賞用に植えられる。花時は壮観。中国では若芽を摘んで茶の代用にする。ヒトツバタゴ属はこのほか、北アメリカに1種があるだけ。学名のオキナンツスは「雪花」の意味で、花どきの状態をうまく表している。」とあります。

酷暑の下、汗を流しながらスズメバチやマムシなどのいる中、危険な作業を自分の天職としてみえる人々。お正月もお盆も動物の世話で休みは年中ありません。そんな仕事を自然の姿で楽しみながら続けてみえる人々。そんな人も「先生って大変やな。」といってくださいませ。目立たなくとも、自分の酷な仕事を横目で見ながら「教師はがんばっている、先生はよくやっている。」という人は多くいます。それを肌で感じます。

# 「命を大切に作る心をはぐくむ道徳教育」

～ 自他を大切にし、よりよく生きる子の育成～

土岐市立泉西小学校 杉浦 英美

## 1 はじめに

本校では、昨年度から上記のテーマを掲げ、道徳の研究に取り組んでいる。昨年度の実践の成果を踏まえ、本年度は、願う児童の姿を「泉西小学校の約束を守れる子」「たくさんのにこにこ言葉をつかえる子」として、研究を進めている。

## 2 研究内容

<研究内容1> 道徳の時間における自己を見つめることができる展開のあり方

児童の心をゆさぶる発問のあり方

本時気付かせたい価値の押さえのあり方

道徳的価値の自覚のあり方

<研究内容2> 道徳の時間と他の教育活動との関連のあり方

活動の意識をつなげる各学年の指導のあり方

「にこにこ言葉」を広げていくための指導の工夫

工夫

「美しい心」の質を高めるための指導の工夫

規範意識を育てるための指導のあり方

<研究内容3> 家庭・地域との連携

読書を通じた家庭との連携

「家庭でにこにこ言葉の日」を通じた家庭との連携

連携

交流を通じた地域との連携

## 3 授業実践(2学年)

主題名 あたたかい心 内容項目 2 - (2)

資料名 「ぐみの木と小とり」

<研究内容1 - について>

困っている人に進んで親切するという本時の価値をつかませるためには、中心発問で嵐の中を飛び立っていく小鳥の気持ちに十分共感させる必要がある。そこで、下のような発問をした。

<中心発問>

ぐみの木に嵐がやんでから行くように言われたのに、激しい雨と風の中飛び立った小鳥は、どんな気持ちだったでしょう。

C1 「明日も行くよと約束したから行きたい。」

C2 「だいぶ元気になったから今日も行こう。」

さらに、下のような深めの発問をした。

<深めの発問>

激しい雨と風の中で、地面にたたきつけられそうなのになぜ飛んでいくの。嵐がやんでからではだめなの。

C3 「嵐の中行くのは大変だけど、りすさんが待つ

ているからどうしても行かないと。」

C4 「ちょっとでも早くりすさんに実を食べさせてあげたいから、嵐の中でも行かないと。」

このように深めの発問を行うことによって、嵐の中を飛んでいくのは大変だけど、りすのためにどうしても行かなければと思う小鳥の気持ちに共感することができた。

その後りすにお礼を言われたときの小鳥の気持ちを考えさせるために役割演技をした。児童の言葉から親切にすることのよさを実感させることができた。



<研究内容1 - について>

「こころのノート」で小さい子に先に水を飲ませてあげた子の作文を紹介した後で、クラスの中での親切な行為を話した。

「H君は、給食時間に隣のK君のスープがこぼれた時、さっと雑巾を持ってきて拭いてくれたね。K君もうれしかったね。」

「T君は、S君が観察カードに何を書こうか迷っていたらこうやって書いたらいいよと教えてあげていたね。教えてもらってT君上手に書けたね。」

自分達の中にもこんな親切な子がたくさんいるのだと気付くことができ、実践への意欲化を図ることができた。

## 4 成果と課題

中心発問で「深めの発問」を行うことにより、児童にじっくり考えさせ、発言に深まりをもたせることができた。

役割演技により、児童の言葉から本時の価値に迫る考えを引き出すことができた。

毎時間の道徳の時間を大切にしてきたことで、児童が道徳の時間を楽しいと思えるようになり、意欲的に自分の考えを話すことができるようになってきた。

道徳の時間と他の教育活動との関連を意図的に図りながら、実践力をつけていきたい。

# 「仲間と共に高め合える子」の育成

～国語科の授業を通して、伝え合う力を育む～

土岐市立下石小学校 高木 亜緒生

## 1 はじめに～主題設定の理由～

本校ではこれまでの研究で「自分の考えを話せる子を育てたい」という願いから、話し合い活動を通して仲間と共に高め合える子の育成を目指してきた。その結果、「話す・聞く」姿が向上し、自分の考えが伝えられる児童が増えてきた。しかし、自分の考えを豊かに表現したり、学んだ言葉を用いて、考えたり行動したり、人と結びあったりする力の弱さが見られる。そこで、目指す児童の姿を『広く深く考える子・自分の考えを豊かに表現できる子・確かなコミュニケーションの図れる子(伝え合う力)』とし、国語科を通して、仲間と高め合える児童を育成したいと考えた。

## 2 研究内容

<研究内容1> 学習指導・学習活動の工夫

(1)話し合う場の指導・援助の在り方

(話し合いの足場作り、個に応じた指導・援助)

(2)効果的な話し合い活動を位置づけた一単位時間の在り方

<研究内容2> 単元指導計画の工夫

(1)ねらいや着目する言葉を明確にし、見通しを持たせる単元指導計画の作成

(2)話し合い活動を位置づけた指導計画の作成

## 3 授業実践

(1)本教材における「仲間と共に高め合える子」

本教材における、仲間と共に高め合える子の具体的

第2学年 国語科

単元名 友だちに分かるように 話そう

教材名 「あったらいいな、こんなもの」

話し合い活動を通して、聞き手にわかるように、大切なことを明らかにしたり、話す順序を考えたり、分からない事は質問をしたりして、「伝えたいこと」に深まりがでる姿。

本教材では、「あったらいいな」と思うものを通して、聞き手に分かりやすく伝えるために、大切なことを落とさず話したり、順序を考えて

話したり、大切なことを落とさず聞いたりする学習を行った。

(2) 研究内容に関わる本教材における主な手立て

<研究内容1-(1)>

- ・話し方や、話す順序を考えられない児童が、掲示物を参考にして考えられるように、お助けコーナーを位置づける。
- ・話したいことを明らかにしたり、伝えたいことの順序を考えたりするために、ペア交流・グループ交流を位置づける。

<研究内容1-(2)>

- ・積極的に話し合い活動に参加する態度を育てるために、グループ交流や全体交流で、話し方のよかった点を交流する場を位置づける。

<研究内容2-(1)>

- ・課題作りや学習計画作りを児童と共に行い、単元の流れや身に付けたい力を学習掲示に位置づける。

## 4 成果と課題

学習計画・課題作りを児童と共にしたことで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができ、また、主体的に取り組む児童の姿を生んだ。



ペア交流・グループ交流・全体交流の活動を位置づけたことで、繰り返し話したり聞いたりすることができ、話すこと・聞くことの基礎・基本を身に付けることができた。また、話し合い活動を通して伝えたいことが明らかになり、話す内容に深まりがでた。

お助けコーナーの位置づけは、児童が必要に応じて活用し、話す順序を考える手助けになった。また、主体的に取り組む児童の姿を生んだ。

本単元で身に付けた話し方・聞き方を、他教科や日常生活でも生かしていけるようにする。



# 生徒が生き生きと取り組み、 確かな学力を身につける授業づくり

土岐市立濃南中学校 久米 徹

## 1 はじめに

昨年度まで、生徒が生き生きと取り組むことによって、確かな学力を身につけることができると考え、生き生きと取り組む場面をどのようにすればよいか、課題解決への見通しをもたせる工夫や学習展開・学習形態の工夫などについて各教科で取り組んできた。今年度は、生徒に学び方を定着させ、生徒に分かる喜びを体感させながら、「確かな学力」を身につけさせるとともに、生徒が身につけた力をより具体的に評価し、その評価を授業に生かす工夫をすることで、さらに授業の改善を図りたいと考えて研究を進めてきた。



## 2 研究内容

- (1) 生徒に学び方を身につけさせる指導
  - ・基本的な学習習慣を定着させる指導
- (2) 生き生きと取り組む授業づくりのために学習展開や学習形態の工夫
  - ・ねらいに迫る授業の導入の工夫
  - ・課題解決の見通しを持たせる手だての工夫
  - ・生徒が生き生きと取り組むための指導援助
- (3) 生徒が身につけた学力を評価する方法の工夫
  - ・「生き生きとした取り組み」を通して身につけた学力の評価
  - ・自己評価の生かし方

## 3 授業実践 社会科 3年生 公民的分野

「地方の政治と自治」土岐市のまちづくり

- (1) 生徒に学び方を身につけさせる指導
  - ・生徒の興味関心を大事にして、土岐市の市長の市政方針を資料として提示し、「いつまでも住み続けたいと思えるまちづくり」をキーワード

## (2) 生き生きと取り組む授業づくりのための学習展開や学習形態の工夫

- ・授業の導入では、前時までに学習してきた土岐市の財政の資料や他の市町村の資料も参考にして、自分たちが土岐市のまちのためにできることは何かを考えるようにした。
- ・地域の中で活動している自分たちの日常生活にも視野を広げて考えるようにした。特に、3年生が行っている「中馬街道整備」や「土と炎～陶芸～」を通して学んでいること、生徒会活動で行っている「クリーン登校」などを考えの中に入れるよう指導した。
- ・自分の考えをもった後、各グループごとの交流する時間を確保し、自分の考えと同じ所や違うところを仲間とともに確認し、全体での交流を行った。

## (3) 生徒が身につけた学力を評価する方法の工夫

- ・1時間の中で学習したことを授業の最後に書き



まとめるようにした。自分の考えの再確認と仲間から学んだことを書くことで、一人一人の考えの変容や新たな考えを取り入れられたかを確認することができた。

## 4 成果と課題

興味・関心もてるような資料を提示することで、自分の考えをもちグループで自分の考えを述べたり、考えをまとめて書いたりすることができる生徒が多く見られるようになってきた。単元全体で指導することを明確にし、各授業時間ごとの生徒へ提示する資料の精選していくこと、生徒の思考に広がりや深まりをもたせるために互いの考え方を関わらせて発言できるように授業づくりをしていくことを大切にしたい。

かつて、学級の子もたちのことを考えているときに、先輩の先生から「ばらばらな個人が集まって集団があるわけではない」と言われて面食らったことがあります。

その言葉の奥には、異なる者・ものと出会ったときに、「折り合いをつける」ことで、集団が成長し、個人も成長するという意味がありました。それまで、「折り合いをつける」という言葉には、思い通りにならないときに仕方なくするイメージがありました。個人と集団に関わって、そんな積極的な意味があるのかと感動した覚えがあります。

それからしばらくの間、私は職場の先生たちや保護者の方たち、そしてクラスの子もたちなどいろいろな人との間で「折り合いをつける」ように

と思って学校生活を過ごしていたような気がします。子どもたちの実態に合わせようと授業を考えたことも、私にとっては「折り合いをつける」ことでした。先輩からの受け売りの言葉は、当時の私には口癖のようになっていたかもしれせん。

そんな言葉も、忘れかけてはふと思い出したりして何年も過ぎましたが、最近、ある講演会の先生が「人は他人と折り合いをつけながら成長していきますから・・・」と何気なく言われたことを聞いて、昔の記憶が少しよみがえりました。

子どもが成長すると、成長させることができた自分の成長がうれしいと言えるようにしたいと願っていた頃のことです。

## 掲 示 板

土岐市小学校陸上記録会（各種目 1 位記録）

<男 子>			<女 子>		
100m走	加藤 孝輝	泉 13秒5	バスク・メイ	肥田	14秒8
1000m走	小林 憲門	泉 3分24秒9	林 響	下石	3分46秒3
80mH	丹羽 乃暉	泉西 13秒2	長瀬 香織	泉	14秒5
ソフト-ル投げ	鈴木 雄大	肥田 57m75cm	藤本 麻樹	土岐津	39m74cm
走り幅跳び	加藤 孝輝	泉 4m52cm	永井 月菜	泉西	3m74cm
走り高跳び	大竹 由馬	土岐津 1m30cm	安田 采加	泉西	1m27cm
400mリレー	泉小学校	54秒9(大会タイ記録)	泉小学校		59秒8

教育研究所にある書籍類等について

- ・購入している月刊誌...初等教育資料、中等教育資料、授業研究21、教職研修
- ・小・中学校の教科書、教育関係の辞典、授業改善や評価に関する本、市指定研究発表会の資料、教師の自己啓発に関する本、教育関係の新聞

(購入した本の紹介)

- ・「保護者力」養成マニュアル
- ・自校の特色を生かした教育課程のPDCA
- ・自己指導力・社会性を育てる生徒指導PDCA
- ・確かな学力向上のためのPDCA
- ・教師の資質・能力向上のためのPDCA
- ・実践に基づく毅然とした指導
- ・初めての教育論文
- ・受けてみたいフィンランドの教育
- ・教育改革の国際比較
- ・国家百年の計 未来への先行投資のために
- ・WISC アセスメント事例 理論と実際
- ・教育法規便覧 平成20年度版
- ・最新教育法規ハンドブック
- ・「学校重要新語」完全マスターBOOK

\*書籍や資料が多数あります。書籍類については、貸し出しをしておりますのでお気軽に教育研究所へおこしください。



## 5年生との交流

「お姉さんの励まして、輪投げが入ったよ」



撮影 土岐津小学校附属幼稚園 副園長 井野口 由起子先生

土岐市	教育研究所
TEL	0572-54-1111 (内281)
FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No.439
発行責任者	所長 加藤 紀久朗
発行日	平成20年12月31日
題字	増田 章 教育長

## 和太鼓

「ハッピー姿、かっこいいでしょ！」



## 「人様のお陰で」一年の終わりと始めに向けて

早いもので間もなく平成21年が始まります。4月以降、市内園小中学校を訪問させていただきましたが、子どもたちの成長ぶりには目を見張るものがありました。その裏には、先生方の指導が脈々と生きていることが実によく分かりました。朝早くからの登園・登校指導や部活指導に始まり、夜遅くまでの教材研究や会議等まで本当に頭が下がる思いです。先生方には土岐市の子どもたちが確実に成長していることに対して感謝とお礼を申し上げます。

今年を振り返ってみたとき、私自身も毎日多くの出会いと学びがありました。一言で言えば、ほんの少しの辛抱と多くの方々に支えていただいていることへの感謝の気持ちです。多くの人との出会いの中で、「なんていう人や」「どうして分かってもらえんのだろう」はじめてこの人の良さがわかった」など、いろいろな出会いがありました。しかし、出会いの中で多くの貴重な教えを頂いた気がします。実にありがたいことです。本当に「人様のお陰で」ということです。このことは、私だけに限らず、先生方も、子どもたちも同じことで

### 土岐市教育研究所長 加藤 紀久朗

はないでしょうか。

温室で栽培された見事な菊の大輪は実に美しいものです。しかし、秋に咲いた庭の菊を切り、株ごと放っておいても次の年にも咲く、見栄えが良くなくてもたくましい菊の花も魅力があります。この菊のことを「捨て作りの菊」と私は呼んでいます。捨て作りの菊は、厳しい自然との出会いが成長の糧になっているわけです。子どもたちも先生も同様に、多種多様な出会いと関わり方が自分を成長させてくれるものだと考えます。

多くの問題や課題が他者との関わりの中で生じてきますが、他者を否定することなく、「人様のお陰で」の気持ちがあるほど、量的にも質的にも高い自分にしていくことは確かではないでしょうか。

多くの方々との出会いや支え、「人様のお陰で」平成20年を終えることができ、新しい年、平成21年を迎えることができることに感謝したいと思います。

良い年をお迎えください。

# 「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会 駄知小学校 保母征之

< 研究主題 >

子どもが課題意識をもち、学びを切り拓いていく授業

## 1 研究主題について

「事象について、自分の考えを深めることができた。」「  
 と思っていたけれど、こういうことだったのか。 の場合には  
 どうなるのかな。」「自分にできることは何だろう、考え実践し  
 ていこう。」これが、社会科の目指す「学ぶ楽しさのある授業」  
 ができた時の児童たちの心の中にある言葉だ。

児童たちは社会科を学習していく中で、様々な社会的事象と  
 出会う。しかし、授業の中で学習した内容だけにとどまり、「ち  
 がう製品（場合）ではどうなのだろう。」「他の地域（環境）で  
 は、どうなのだろう。」のように課題を広げ、追究していこうと  
 する姿に弱さを感じる。また、学習したことを自らの生き方につなげていこうとする姿にも弱さを感じる。  
 この実態には、2つの原因があると考えられる。1つ目は、単元でおさえる内容が広がりすぎて、児童が事  
 象に対する意味まで追究しきれしていないこと、2つ目は、社会的事象に実感がもてずに、自らの考えや生き  
 方につなげていくことができないことである。

そこで、人の生き方や想いに触れる教材を開発し、映像資料を効果的に活用すれば、児童が実感を伴って  
 社会的事象の意味を追究できると考えた。また、単元をつらぬく課題を設定し、単元の導入において自分の  
 考えを書かせ、単元の出口で書いたまとめと比較することを通して、学習したことによって変容した自分の  
 考えを確かめることができると考えた。

## 2 授業実践について

### （1）単元について < 単元名 わたしたちの国土と環境 イ わたしたちの生活と環境 >

この単元は、ア「さまざまな自然と暮らし」イ「わたしたちの生活と環境」ウ「わたしたちの生活と森林」  
 の3つのコースが設定されている。本小単元では、国土と環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっている  
 ことを考える手がかりとして、公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さを学習する。核となる  
 題材は、国や県との裁判が今なお続いている水俣病を取り上げることにした。公害によって、健康や人間ら  
 しく生きる権利を奪われてきた人々（患者）とその家族らの悲しみや苦しみを、映像資料などを通して児童  
 たちに実感させる。その中で、公害の原因をつくりながら、なかなか非を認めようとしなかった企業や、そ

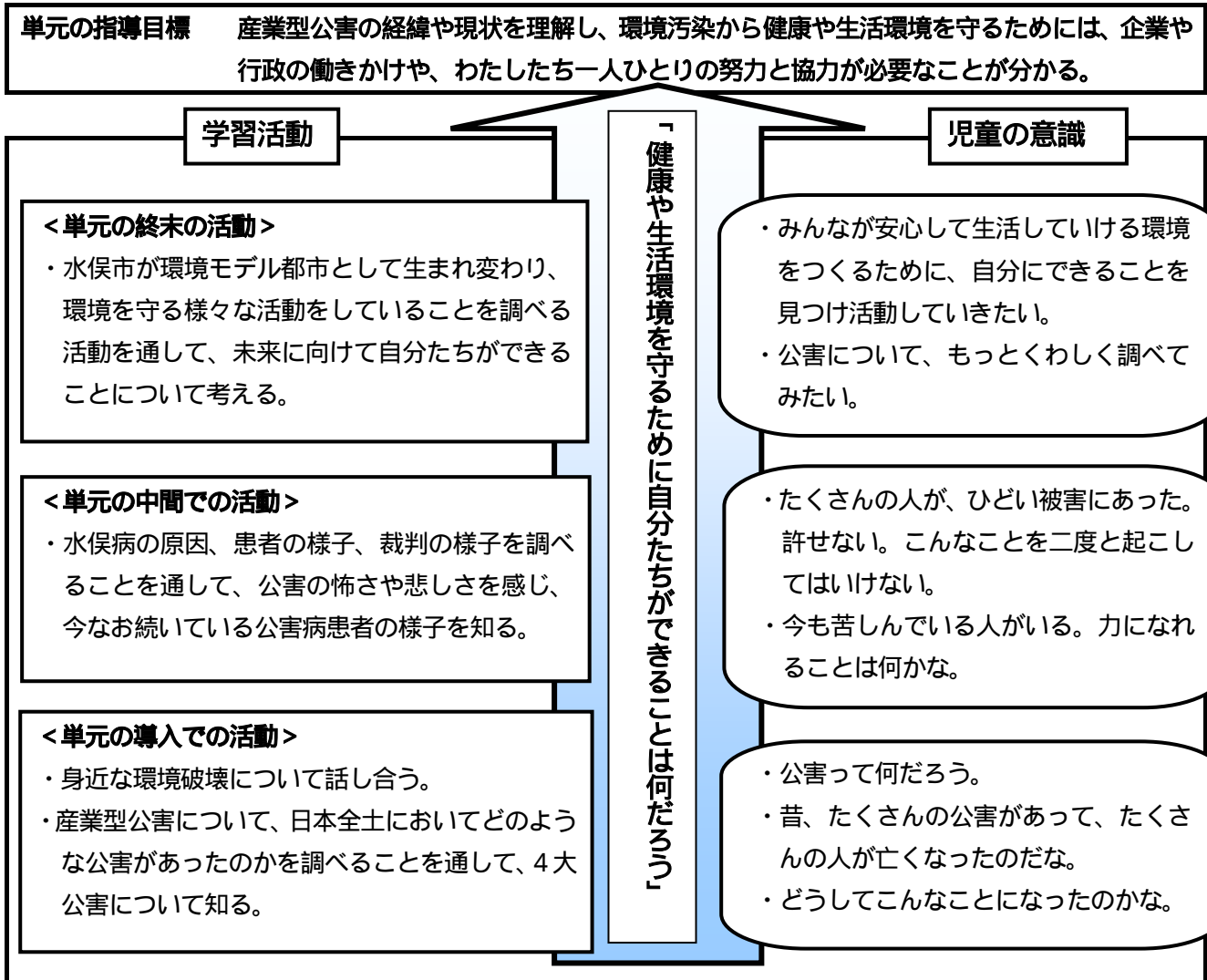


慰霊碑（水俣病資料館）

の責任を追及しなかった市や県に対する怒りの気持ちをもち、人権  
 を守るために団結し闘った人々の様子に共感させる。そして、本時  
 では、公害病患者に対しての差別や偏見の実態から、自分が公害病  
 患者だと隠し続けてきた人たちの苦悩や、それでも打ち明けた勇気  
 を既習学習や資料からつなげさせ学ばせたい。また、当市が「環境  
 モデル都市水俣」として、未来のために様々な活動を行っているこ  
 とを学習することを通して、わたしたちが生活環境を保全するた  
 めに、日常生活において実践できることを考えさせたい。



## 単元構想図



## (2) 本時について

### 指導計画の工夫

児童たちが、事象をより実感をもって具体的に調べることができるよう、人の生き方や考え方に触れる具体的な事象を単元の核にした指導計画を作成した。

### 意欲のもてる導入

導入にビデオ資料を使用する。内容は、自分が水俣病であることを隠し通して生活してきたAさんの姿である。児童は前時の学習で、被害を受けた人たちが団結して裁判を起こし、近年一部が勝訴し損害賠償を受けたことを学習している。児童たちに既習学習したこととのずれから疑問をもたせ、課題づくりへつなげた。

### 高まりのある追究

提示した資料から読み取ったことを交流した後、Aさんが、数年前に自分が水俣病患者であることを打ち明けたと伝える。打ち明けてからのAさんの取り組んでいることについて話し合い、差別を受けてきたAさんが、2度とこのようなことが起きないためにも真実を打ち明け、活動している姿をとらえさせたい。

### 自己の変容を自覚させる評価

課題に対する予想から、自分の考えがどのように深まったかをまとめて書かせる。まとめを交流することで、今日の学びの深まりを自覚させたい。

「応援します」

## 人権は思いやり

～ 思いやりの心・かけがえのない命を大切に～

多治見人権擁護委員協議会

会長 神戸 信之

### 人権擁護委員って？

私は現在多治見人権擁護委員協議会（多治見市・土岐市・瑞浪市の三市による27名の委員構成）に所属して、法務大臣より委嘱を受け多治見法務局を拠点にボランティア活動をしている委員の一人です。

ご承知のように人権とは一言で言えば「一人一人が人間らしく生きるための権利」と言えましょう。これは誰もが生まれながらに持っている権利で、いかなる人もこの大切な権利を傷つけてはならないのです。

この理念に立ち、私たち人権擁護委員は基本的人権が侵害されないように絶えず監視し、侵害があった場合には相談相手となり、適切な救済を図ったり、子どもから高齢者まで市民のあらゆる人々たちに向け人権尊重の大切さの普及活動に努める仕事をしたりしています。

ちなみに、小・中学校・特別支援学校へは、人権啓発活動の一環として、より豊かな人権感覚を身につけてもらうことを目的とした人権書道コンテストや人権作文コンテストの実施しています。また、命の大切さや相手への思いやりという人権尊重の精神を身につけることを目的とする人権推進指定校（人権の花運動）を支援し子ども達と一緒に汗を流したり、手紙による相談を通じて、子どもたちの悩みの解決のために援助することを目的とした「子どもの人権SOSミニレター」や人権啓発事業に関わる様々なPR活動や人権教室・人権紙芝居訪問などの活動を進めてたりしています。

### 人権感覚を育む「人権の花運動」

かつて、生徒指導上困難だった学校に勤務していた時、せっかく学級花壇に花を植えたのに、心ない生徒？に花が無残に荒らされ苦情が出て困っていました。

ある日、花壇の付近で授業を抜け出し日向ぼっこをしている男子生徒数人が居合わせたので「ちょっと手伝ってくれん？このままじゃ花がかわい

そうやー」と呼びかけてみました。すると、しぶしながら草むしりに加わってくれました。「草の中でやせ細った花でも今大事にしてやらんと花も咲かんしかわいそうやでなー」と。男子生徒たちはぶつぶつ文句を言いながらも一区画の花壇の除草（決して褒めるほどでもないが）を終えたので「ご苦労さん、ようやってくれた、ありがとう！こんなちっぼけな花やけど喜んでるぞ！」と。

数日後、全校集会の折、花壇の除草作業をしてくれた男子生徒たちの取り組みを紹介し褒めました。それ以後、花壇を荒らす苦情はなくなり、同時にこのことが落ち着いた学校づくりのきっかけの一つになったことも確かです。

「花づくり」は「思いやる心」「命の大切さ」を育み、人権感覚を磨く有効な教育活動の一つだと思います。

毎年人権推進指定校では、「人権の花運動」を柱に花の栽培を通じて人権感覚を身につける学習として取り組んでいます。今年度は多治見市立脇乃島小学校で実施し、来年度は、土岐市立曾木小学校が人権推進校となっています。

また、多治見人権擁護委員会協議会から、毎年全小・中学校へ花の種「ぼんぼん百日草」を贈らせていただいておりますが、この意図は、ちっぼけな花の種から育てる栽培活動は、人権尊重の精神＝全国共通目標「思いやりの心・かけがえのない命を大切に」＝の学習に役立てていただくという願いを込めたもので、支援している事業の一つです。

今年、管内の中学校で種から育てて見事に咲いた花を校内に飾ったり、地域の公共施設等に届け喜んでいただいたりしたという新聞記事を見ましたが、心も身体も成長期の子どもたちにとって花に限らず人権尊重の精神（人権感覚）を磨く学習活動こそ生きる力として大切な要件だと思います。

私たち地域は、応援しますよ。



# 「たくましく学ぶ子どもの姿を求めて」

～自ら考え自ら学ぶ力を育てる指導の在り方について～

土岐市立鶴里小学校 鈴木尚美

## 1 はじめに

本校では、昨年度、研究主題「たくましく学ぶ子どもの姿を求めて」を設定し、その具現に取り組んできた。今年度は、昨年同様の研究主題を設定し、特に個に応じる指導・援助の工夫について重点的に取り組むことにした。

## 2 研究内容

自ら学び自ら考える力を育てる指導方法の在り方

各段階（導入・展開・終末）における学び方の指導・援助の工夫

個に応じる指導・援助の工夫

(1) 個の実態把握の在り方と本時願う子どもの姿の明確化

(2) 見通しをもたせるための指導・援助の工夫

(3) 個を生かす場の設定

本校では特に研究内容を具現化するため、着目児を設定している。着目児の実態把握を行い、そこから着目児の指導・援助を探り、本時願う姿を明らかにした。

## 3 授業実践

【国語科】第1学年

単元名 こえにだして よもう

教材名 くじらぐも

<本時のねらい>

「 が すると、くじらも しました。」の叙述に着目し、くじらぐもや「1年2組の子どもたち」の様子を動作化することを通して、くじらぐもに対して友達のような親しみをもつ子どもたちの様子を読み取ることができる。

<本時着目児（N男）>

語彙が少なく、言葉で書いたり、話したりすることに抵抗を感じているが、友達の話を聞いて、想像を広げながら読み取る力がつきつつある。また、登場人物になりきって動作で表現することに関心が高い。

という実態から

教師がくじらぐもになって、動作化し、くじらぐもの動きを

腕を振る速さ 腕の振りの大きさ

体全体の動きの速さ

の三つの視点から考えさせる。

という支援を通して

くじらぐもは、大きく腕を振ったり、ダイナミックに動きながら、子どもたちの真似をしたことをとらえさせ、「1年2組の子どもたち」とくじらぐもの楽しい「真似っこ」遊びの様子を読み取ることができる。

とした。

<N男の様子>

導入	前時までの学習を振り返り、ビデオで観たくじらの様子や実際の雲のイメージを想起し、本時の課題をつかんだ。
展開	本時の大まかな場面の様子を挿絵や言葉カードで把握した。教師がくじらのお面をつけ「すばやく小さく」動いたり、他児童の「大胆で、ゆっくりとした」くじらぐもの様子を見たりする中で、くじらぐもの様子を動作化するN男の動きは、徐々にダイナミックなものとなっていった。教師が展開後半に再度、くじらぐもの役、児童が「1年2組の子どもたち」になって、教師の動きを見的过程中で児童は、「子どもたち」と同化している様子が見られた。
終末	くじらぐもを見ている「1年2組の子どもたち」の吹き出しに、N男は「くじらががっこうにきてよかった。いっぱいあそべてうれしかったよ。」と書き発言した。

## 4 成果と課題

少人数学級の利点を生かし、児童一人ひとりの実態を把握し、そこから、教師の指導・援助を探り、願う姿を明らかにした結果、児童の良さを生かしたり、抵抗を示す分野に細やかな援助をしたりすることができるようになってきた。

児童を取り巻く多くの事象から、児童の実態把握をきめ細やかにを行い、効果的な教師の指導・援助を考えたい。

## 1 はじめに

アンケートによると、生徒は「みんなでやっている授業」「みんなが一人一人の要望に応えてくれる授業」「上達してみんなが楽しいと思える授業」にしたいという願いをもっていることが分かった。一方体育科として、「学び方が分かる授業」に加え「上達できる授業」を目指している。そのためには、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、その知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力を養い、学習意欲が湧く授業を仕組むことが必要となる。これにより将来、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、明るく豊かな生活を営む態度を育てたい。

以上を踏まえ、体育科で願う生徒像は「学ぶ楽しさを追究できる生徒」であるととらえた。

## 2 研究内容

本校研究テーマ 「学ぶことが楽しい！」

課題を解決するために必要な思考力、判断力を育てていくことが【学ぶ楽しさ】につながる。そのためには教師がどのようにその活動を支え、指導するか、その方法を工夫する。

### 生徒の探究意欲を喚起する工夫

前時の終末で確認し合った各グループの「つまずき」や「克服するための課題」を本時の導入で発表し、確認し合い、教師がアドバイスすることによってその価値を集団全体で共有化し、集団全体の学習意欲を喚起する。また、教師は生徒が課題を解決するために必要な思考力・判断力を養うバリエーションを広げる役割に徹する。

### 練り合う場の工夫

運動実践前にグループでグループの実態に沿った技能を高めるためのコツを出し合う。さらに、グループの雰囲気や人間関係を高め合う「態度のきまり」を出し合い、チームワークを高めるための練り合いの場を設定する。一方、運動実践を繰り返しながら、そのつど「技能」や「態度」を確認し合う「練り合いの場」をタイムリーに設定する。運動実践後には、リーダー中心にグループで反省会を行い、次時への課題を確認し合う。

## 3 授業実践

体育科 2年生 球技 バasketボール

<ねらい>

「チームプレイを活かした有利な攻撃パターンを追究していくゲームができる」

- ・前時の終末で確認し合った各グループの「つまずき」や「克服するための課題」を、本時の導入で発表させて確認させ、アドバイスし、その価値を集団全体で共有化した。
- ・教師がグループに合ったアドバイスを行い、生徒が課題を解決するために必要な思考力・判断力を養うバリエーションを広げさせた。
- ・運動実践前後にグループで集まって確認し合う練り合いの場、運動をしながら確かめ合う練り合いの場を時間的に十分保証した。



## 4 成果と課題

課題に対して互いに「教え合い、励まし合い、指摘し合う」練り合いの場に必然性があり、グループの実態に合わせて生徒達が伸び伸びと技能や集団を高めることが出来た。

教師の技術ポイント提示が生徒達の意識として浸透しない場合もある。教師と生徒達との間に意識のズレが生じた時、強引に教師の指導の枠にはめ込もうとせず、実態にあった技術ポイント指導の修正を適宜行うように心がける。





# 「自己の生き方を見つめ、仲間・家族・地域との 温かい関わりを大切にし、より良く生きようとする子」

土岐市立妻木小学校 吉村 康介

## 1 はじめに

本校では、「自己の生き方を見つめ、仲間・家族・地域との温かい関わりを大切にしていこうとする子」をめざして、道徳の時間を中心とした全教育活動を通して道徳的実践力の向上を図り、さらに家庭・地域社会との連携した道徳教育を推進していこうと考えている。

## 2 研究内容

### 道徳授業の充実

- ・題材の精選と計画的な実践
- ・学習過程、指導・援助の工夫
- ・他の教育活動や常時活動との関連

### 温かい人間関係を養うペア・委員会活動

- ・思いやりの心を育てる委員会活動
- ・異学年とのふれあい（全校遊び、ペア活動）

### 地域連携

- ・ゲストティーチャーの活用
- ・地域ボランティア

## 3 「道徳授業の充実」に関する実践 5年生

主題名：家族愛 内容項目：4 - (5)

資料名：「はじめてのアンカー」

### 【題材の精選と計画的な実践にかかわって】

集団生活や社会生活において、最も基本的かつ基盤となる集団は家族である。そこで、家族は互いに深い愛情で結びついていると感じられるような道徳の時間を計画的に実践することにした。具体的には、「家族愛」をテーマにした授業実践が単一時間で終わることなく、学期ごとに関連性をもって進められるように計画した。一学期には『お母さんの骨をもらって歩けた』という資料を用いて「親の子に対する思い」を考えた。そして、本時は「子の親への思いや接し方」を考える時間とすることで、「家族愛」について違う方向からとらえさせようと考えた。

### 【学習過程、指導・援助の工夫にかかわって】

本校では、「道徳的問題意識をもつ導入」 - 「主人公の言動に疑問や賛同の考えをもち、自問自答しながら道徳的な価値を追究する展開」 - 「自己を見つめ、自己課題と実践意欲をもつ終末」という基本的な学習過程で実践している。

本時は、導入における工夫として、アンケート結果を示し、思春期にさしかかっている自分を自覚させた。展開では、主人公自身の思いだけではな父母や弟の心情まで考える主人公をとらえられるように、板書や発問の工夫を行った。そして終末では、書くことに重点をおいて、実践的な意欲を言葉で表すことができるようにした。

### 【他の教育活動や常時活動との関連】

「家族愛」をテーマにした道徳と関連して、普段の授業の中でも家族との関わりを大切にしていこうと考えている。一学期には、五年生で初めて学習する家庭科の授業と関わらせて、調理を家庭で実践し、保護者のアドバイスをもらうということを行った。

2学期には、宿泊研修を機会に、普段家族に援助してもらっていることがどれほどあるかを考えさせた。

## 4 成果と課題

### 【成果】

- ・「家族愛」をテーマとして、計画的に実践することで、「家族愛」について多面的にとらえることができた。
- ・家族への思いを素直な言葉で書いたり、話したりすることができた。

### 【課題】

- ・アンケートは課題意識の自覚に効果がある一方で、価値が方向付けられてしまう。
- ・発問をさらに精選し、主発問についてさらに深める手だての工夫が必要である。

私にとっての「心にひびく言葉」とは、相手を思う気持ちがこもった言葉です。私は、そのことを生徒から学びました。

初任3年目、私は中学校3年生の担任でした。12月中頃の出来事です。「女子中学生が交通事故に遭ったらしい」という連絡が夕方学校に入りました。事故に遭ったのは私の学級の生徒でした。実は、その日の放課後、忘れ物をしたその女子生徒に、忘れ物を届けるように指導をしていたのです。彼女は忘れ物を学校に届ける途中、横断歩道を渡っていて前方不注意の車に轢かれたのです。

「自分の責任だ。どうしよう。」体が動きませんでした。同僚の先生の車で病院へ向かいました。病院の先生の話では、「助かる2割、助からない8割」のケガでした。女子生徒のご両親も駆けつけてみえま

した。おかあさんの泣いている声が聞こえました。私は、声をかけることができませんでした。その時です。私の学級の男子生徒が、ご両親に近づいて「だいじょうぶですよ、おかあさん。」と力強い声で話しかけていました。普段目立たず、物静かな男子生徒です。その時、私は彼がとても大きく見えました。そして、何も言葉をかけることができなかつた自分がとても情けなかつたです。

「だいじょうぶですよ」は、特別な言葉ではありません。しかし、私にとっては「心にひびく言葉」であるとともに、言葉を発するときの思いが大切であることを学ばせてくれた言葉です。

(事故に遭った女子生徒は、手術が成功し現在は元気に生活しています。)

## 掲 示 板

### 東教推 (研究実践交流会) 教材・教具の部

板書の掲示  
くじらぐも  
土岐市町別パズル  
タグ・ベルト  
コロコロ冒険サ・キット  
転がり運動をゆっくり示す教具  
人型模型・ボード  
ロボット種蒔き 2008A1 部門試作機 2号  
衣服材料と布地セット&ヒントコーナー  
聖火&トーチ  
パワーポイント作品  
特別支援学級での数学科授業教材

国語  
国語  
社会  
体育  
体育  
数学  
保健体育  
技・家(技術)  
技・家(家庭科)  
特別活動  
特別支援  
特別支援

### 出品ありがとうございました

土岐津小 松原 正人  
肥田小 服部 悦子  
泉西小 杉浦 栄美・土本晴美  
肥田小 清水 立貴  
妻木小 三根 由佳利  
濃南中 渡邊 宏彦  
駄知中 前田 宏幸  
泉中 加藤 明覚  
泉中 村瀬 智美  
泉中 西尾 新薫  
泉中 三輪 高明  
土岐津中 大橋 高明

### 2008年岐阜県発明くふう展

岐阜県知事賞  
岐阜県町村会長賞  
岐阜県商工会議所連合会長賞  
中部日本弁護士倶楽部幹事長賞  
奨励賞  
奨励賞  
努力賞

### 2008年岐阜県発明くふう展 (絵画の部)

岐阜県産業教育振興課会長賞  
努力賞  
第52回岐阜県児童生徒科学作品展  
優秀賞 わき水を利用した浄水実験  
~災害時に短時間で大量の「飲料水」を確保するための研究~  
入選 夏を涼しく過ごすエコ生活

筑摩 恒治 (駄知小6年)  
平野 雄也 (駄知中3年)  
福岡 聖 (下石小4)  
市瀬 璃子 (泉西小4年)  
いちおか めぐみ (土岐津小1年)  
鶴飼 純平 (土岐津小6年)  
籠橋 映莉子 (駄知小6年)

小椋 敬太 (妻木小5年)  
曾我 紀薫 (泉西小4年)  
木村 健太 (濃南中3年)  
水野 里香 (泉小6年)

~お詫び~

- ・前号(教育とき NO.438号)8ページの掲示板に、土岐市小学校陸上記録会の男子80mH第1位の記録「安藤 魁真(肥田小)13秒2」の記載がもれていました。
- ・前号(教育とき NO.438号)1ページの写真の撮影者名の記載がもれていました。撮影者名は、「鶴里小学校 奥村 隆史教頭先生」です。合わせてお詫びいたします。





土岐市	教育研究所
TEL	0572-54-1111 (内281)
FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No.432
発行責任者	所長 加藤 紀久朗
発行日	平成20年 5月30日
題字	増田 章 教育長

撮影：  
下石小学校 三宅裕一先生



下石っこ作陶の時間より  
「じはじはじと……」

## まずは、「ほっとできる関係」づくりの一步を

土岐市教育研究所長 加藤 紀久朗

各学校ではPTA総会、学年・学級懇談会、家庭訪問も終わり、学校・学級・担任の先生と保護者との新しい出会いがありました。学校が地域・保護者・児童生徒の存在の上に成り立っている限り、この出会いはとても重要なことです。

私たちの仕事は、児童生徒に対しても当然ですが、保護者にもわかっていただくこと、理解していただくことも大切な仕事です。しかし、お互いがわかり合うことは難しいことで、自分の思いが相手に伝わる確率は決して高くありません。逆に自分が相手を理解することも同様です。

誰もがその時にわかって欲しいと思っているからこそ、つい力が入ったり、熱弁になったり、時には非難めいた言葉が出てしまいます。しかし、時間というもの不思議なもので、ある一定の時間が過ぎたときに、改めてその人の言い分や良さを見直すことが多いようです。

4月はお互いが十分に理解できていないことを知っていますし、相手への遠慮も含め、希望や期

待も持ちながら過ぎてきました。5月以降になると、今度は「こんなはずではなかった」という思いが頭をもたげてきます。このことは、先生が児童生徒をみる目と同様ですし、児童生徒もそう思うようになってきます。誰だって、いい先生・いい子どもでありたいと思っていますが、いつもいい顔をしようとしていると疲れてしまいます。そろそろ、自分の弱さやできないことを認めることと、少しはがんばっている自分を認めることがあってもいいのではないのでしょうか。そんな姿を認め合うことにより、お互いが「ほっとする」ものです。「ほっとする」ことで自分や相手に対して、受け止め方や許容範囲に幅とゆとりが出来ます。

わたしのように人を見る目がない人間ほど、短絡的に他人を判断しやすいものです。少しぐらいの時間をかけてでも、「ほっとできる」関係をつくりあげていきたいものです。

# 小中学校の先生方へ

土岐市幼稚園長会長 山田 利彦

## 1 幼稚園の先生方の仕事

先日、ある方が午後3時頃私の幼稚園におみえになりました。その方が職員室の先生方に、「幼稚園の先生は、午前中だけの仕事ですか？」とお尋ねになりました。私は思わず、「そんな失礼な事をおっしゃらないでください」と反論しました。幼稚園の先生方の仕事を、午後2時半ごろに帰ってしまう子ども達と遊んでいるだけの仕事と誤解されている極端な例でした。

私は、この4月から幼稚園の囑託園長として勤めさせていただき、幼稚園の先生方の仕事は本当に大変だということが分かってきました。

まず、幼稚園の先生方は、子ども達が登園してくる朝8時頃から降園する午後2時半頃まで、ずっと緊張の連続です。休み時間、空き時間、昼休みなどありません。だから、職員室に戻ってきてほっとすることなどできません。小学校だってそうだとおっしゃるかもしれませんが、でも、授業が終わると気持ちの切り替えができます。幼稚園では気持ちを切り替える時間がないのです。降園が終わって、教室掃除を済ませ、午後3時頃に初めてほっとできるのです。

次に、小中学校ではほとんどの教科には教科書があります。幼稚園では教科書はありません。ですから、毎週しっかりと打ち合わせを行うことが何より大切となります。

また、小中学校の先生方の中には保護者の方に対して、ちょっと苦手意識を持っておられる方もあるかもしれません。しかし、幼稚園の先生方は毎日お迎えにこられる保護者の方と会って、情報交換をしています。

さらに、幼稚園には、養護教諭、事務官、校務員、給食パート、生徒指導主事、教育相談員がいりません。そのほとんどの仕事を副園長が一人でやっています。

## 2 「付属」ではなく「附属」

「付」という漢字は「くっついている」という意味の強い漢字です。ところが、「附」となると「いっしょに」という意味を強く感じます。つまり、附属幼稚園というのは、小学校にただくっついているだけではなく、一緒になって子ども達の教育を担う役割があると思います。

学校教育法第1条では、「幼稚園」という言葉の記載が最初になりました。学習指導要領とともに改訂された「幼稚園教育要領」の改訂の柱には、「発達や学びの連続性を確保」とあります。発達や学びの連続性を確保のためには、「小学校教育との円滑な接続のための教員の意見交換、子ども達の交流」が大切とされています。つまり、幼小の連携が重視されています。しかし、幼稚園の先生方の中には、「私達には理論がないから」といって小学校の先生方と一緒に、連携の研究実践をすることにおよび腰になっている方もあります。どうか相互に声をかけ合って、一緒に活動していただきたいと思います。そのことが結局は子どもの健やかな成長になっていくのです。

## 3 これからの幼稚園

ここ2～3年、「少子化対策」として土岐市では、3歳児からの保育や預かり保育を始めています。所轄も保育園と同じ児童課になりました。他の市町では「幼保園」「幼児園」「認定子ども園」「幼児教育センター」など、これまでの幼稚園の概念を変えていく動きがどんどん出てきています。ご存じでしょうか。そんな流れを知らずにいると、知らぬ間に小学校から離れていってしまいます。だからこそ、小中学校の先生方には幼稚園のことをよく理解していただき、幼稚園の先生方には積極的に小中学校と交流していただきたいと思っています。まさに戦略的互惠関係をつくっていきましょう。

# 子どもたちを生き生きとさせる校内研究を！

## 成功のための5つのカギ

教育研究所

「研究って難しい！」多かれ少なかれどの先生にもそんな受け止め方があるのではないのでしょうか。指導案を書き、授業を公開し、研究会で様々な指摘を受け……。厳しさがなければ嘘になります。

いうまでもなく、校内研究は子どもたちの生き生きとした学びを生み出すための営みです。子どもたちが生き生きとしてくれば研究の労苦も報われます。

校内研究によって、子どもたちを生き生きとさせましょう。

### 目標をクリアーに

研究によって生み出そうとする子どもたちの姿を出来るだけ具体的に思い描きましょう。

- ・どんなノートをつくるのか
- ・授業でどんな発言をするのか
- ・どんな考えや感想をもつのか
- ・仲間対してどんな行動をとるのか

単元や1時間の授業の目標やねらいを達成した姿も具体的に例示してみましょう。

### 着地点をクリアーに

授業の着地点や授業の各場面でを行う活動の着地点を明瞭にしましょう。

- ・「理解する」とは具体的にはどんな姿？
- ・「感想」や「気付いたこと」を求める場合、何でもOKにするの？
- ・「グループで話し合う」場合、何をどこまで話し合えばいいの？



### 指導・援助をクリアーに

どのような状況に対してどのような指導援助をするのかを明確にしましょう。

具体的にどのような言葉をかけるのか。何を提示しどのように思考を促すのか。どのような操作をさせるのか等を明確にすることが大切です。

- ・「机間指導する」とは？ 「・・・に気付かせる」とは？ 「・・・を考えさせる」とは？

### 取り組みをクリアーに

研究主題に迫るための日常的な取り組みを設定しましょう。入り口は単純明快で奥の深い取り組みが子どもの姿を変えていきます。

例：「はいっ」という力のこもった返事

例：うなずきのある話し合い

継続することによって力の付くことを全校で取り組みましょう。



### 実践の評価をクリアーに

子どもから目を離さないためにも、研究実践を評価するための具体的な窓をつくっておきましょう(発言、作品、ノート、行為・言動等)。

例：一人読みが板書のように構造的にまとめることができるようになったか。

例：解き方や注意する点を書き込んだ参考書のようなノートが作れるようになったか。

# 学校所員会，今年度の活動

## 各校の研究実践の充実

校内研究の充実を通して、学校全体の実践力を高め、  
学ぶ楽しさのある授業をつくり出す

<こんな活動をします>

### 具体的な授業実践を通して校内研究を推進する

- ・研究内容や方法を交流し、願う子どもの姿の具体化を図ります。授業実践（1人1回の授業公開）を通して、自校の研究の充実を図ります。

### 各校の研究の成果を共有する

- ・研究の状況や成果をまとめ、「教育とき」を通して市内の先生方に紹介し、研究の成果を子どもの姿で積極的に広めます。

### 実践力向上のための研修をする

- ・先進的実践校の視察、市指定中間報告の授業参観や教育の今日的課題について研修し、自己の実践力を高めます。

授業改善の視点

#### 【成果と課題の明確化】

- ・何をどのように評価するのか？

#### 【取り組みの具体化】

- ・何をどんな方法で？
- ・手立ては？

#### 【願う姿の共有】

- ・具体的にどんな姿を目指すのか？

子どもの姿で成果を示します

### 各学校の研究主題

土岐津小	「求め、鍛え合う子」の育成 ～言葉や文にこだわり、仲間との交流を通して言語能力を高める国語科の授業～
下石小	「仲間と共に高め合える子」の育成 ～国語科の授業を通して、伝え合う力を育む～
妻木小	学び方を身に付け、主体的に学び合う子の育成 ～国語科まんぞく授業を目指して～
鶴里小	たくましく学ぶ子どもの姿を求めて
曾木小	生き生きと伝え合う子の育成 ～一人一人の伝え合う力を伸ばす指導法の工夫（国語科を中心として）～
駄知小	書く能力を高める指導の工夫
肥田小	仲間とかがわり合って学ぶ子の育成 ～「生き生きとした話し合い活動」を求めて～（国語科の「読むこと」の指導を核として）～
泉小	「読む力」を高める指導の工夫
泉西小	命を大切にすることをはぐくむ道徳教育～自他を大切に、よりよく生きる子の育成～
土岐津中	学び合いの中で基礎・基本を身につける生徒の育成～「協同学習」を取り入れた授業を通して～
西陵中	学ぶことが楽しい！
濃南中	生徒が生き生きと取り組み、確かな学力を身につける授業づくり
駄知中	仲間と学びを深める授業 ～ねがい・とらえ・ふかまり～
肥田中	確かな学力を育てる教科指導のあり方 ～評価規準の達成が困難な生徒へのきめ細かな指導～
泉中	仲間と共に高め合う生徒の育成

# 嘱託研修員会

## 『学ぶ楽しさのある授業』の具現をめざして

嘱託研修員会では、土岐市教育課題『学ぶ楽しさのある授業』について、具体的な授業の姿、そのための授業づくりの在り方を研修しています。今年度も、『学ぶ楽しさ』とは』を合い言葉に、授業の質を視点に日々実践していきたいと考えています。

### 今年度の嘱託研修員です

駄知小学校  
保母 征之 教諭  
(社会)



子どもが課題意識をもち、  
学びを切り拓いていく授業

そのために、資料を活用する力を育てる。社会的事象を具体的に調査し、地図、統計などの基礎的資料を効果的に活用できるようにする。

**社会的事象の意味を追究できる児童**

土岐津中学校  
長瀬久美子 教諭  
(英語)



informationの伝達だけでなく、個々のmessageを伝え合うコミュニケーション活動に喜びを感じることができる授業

そのために、「相手のことを知りたい!! 自分のことを伝えたい!!」と思わせる活動場面を設定し、互いのよさを認め合いながら学び高め合うための評価の在り方を工夫する。

**伝え合うことに喜びを感じることができる生徒**

泉西小学校  
土本 晴美 教諭  
(体育)



子どもが運動を好きになる授業

そのために、運動する子どもの姿を大切にして学習を進め、運動ができるようになったり、更にもうまくなったりする楽しさや喜びを実感できるよう学習展開を工夫する。

**楽しんで運動することができる児童**

泉中学校  
西尾 新 教諭  
(特活)



集団の一員としての所属感をもつとともに、自分を高めようとする態度を養うことができる授業

そのために、生徒の実態を把握する観点を明確にもち、集団や個の目指す目標と達成の方法を具体化することを大切にする。

**集団を大切にし、自分を高めようとする生徒**

『一年間よろしくお願いします』

\* ( )...本年度実践教科・領域



# 平成20年度 土岐市小中学校教育研究会の活動

第1回の活動において、各部会のテーマ及び役員が決定されました。授業研究を中心として活動計画が立案されています。役員さんを中心に、主体的、創造的な部会運営を通して、教科の仲間としての歩みや成果を財産として残していきましょう。



## 【研究の視点】

### 学ぶ楽しさのある授業

- <自ら学び自ら考える力の育成するための授業の工夫>
- <基礎的・基本的な知識・技能が身に付き、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度が育つための指導目標と評価規準の明確化>
- <学習集団の質を高めるための、各教科の学び方を身に付けさせる指導の充実>

## 平成20年度 各部会研究テーマ

部 会	研 究 テ マ	
教 科 別	小国語	一人一人の言語能力を育てる国語科指導の在り方
	小社会	調べ、考え、練り合い、社会的事象の意味をとらえる社会科学習
	小算数	学ぶ楽しさと、充実感を味わう算数教育の創造
	小理科	科学的に追究し、自然に感動する子を育てる理科学習の創造
	小生活	対象や自分自身とのかかわりを強め、自立への基礎を培う生活科学習 ～知的な気付きの質を高める指導の在り方～
	小音楽	確かな音楽的能力を身に付け、表現できる子の育成
	小図工	つくり出す喜びを味わい、確かな力を培う造形活動をめざして
	小家庭	家族とのかかわりの中で、自らの生活を創り出していく力が育つ家庭科学習
	小体育	運動技能向上のための相互援助活動の在り方
研 究 会	中国語	明日に生きる言語能力の育成 ～「豊かな言葉の力」と「豊かな言語感覚」を鍛え、磨き合う国語教育の創造～
	中社会	自主性を育て、思考と認識を深める社会科指導
	中数学	自ら学び考える力を育てる数学教育の創造～数学的な見方や考え方を育てる授業づくり～
	中理科	『自然を探究する能力や態度』を育む理科指導の在り方
	中音楽	一人一人の心に豊かな感動を生み出す指導の在り方
	中美術	見たもの感じたものを色や形にできる生徒の育成 ～一人一人の発想・構想の能力を高める授業の在り方～
	中保体	運動習熟及び社会的発達の効果的な指導の在り方を求めて ～長距離走の指導を通して～
	中技家	実生活に役立つ力が育つ学習活動
中英語	お互いのよさを認め、学び高め合うための評価の在り方	
各 種 研 究 会	道 徳	自らよりよい生き方を求め、実践する児童生徒を育てる道徳教育はどうあるべきか ～一人一人のよさを生かすことを通して～
	特 活	個と集団の結びつきを深め、実践力を育てる特別活動の在り方
	図 書 館	読書の楽しさを広げ、調べる場を目指した図書館運営の在り方
	特 支	豊かな心を持ち、たくましく生きる子を育てる教育
	養 教	『児童生徒が自主的に健康管理できる健康教育の在り方』 ～性教育を通して～
	事 務	学校事務職員の資質の向上と事務の合理化 ～より正確・迅速な事務処理をめざして～

平成20年度 各部会 部会長・役員一覧

部会	部会長	学校名	主務者	学校名	世話役	学校名	県代議員	学校名	
小学校	国語	楓 正敏	土岐津小	宮本 雅江	妻木小	太田真由美	肥田小	宮本 雅江	妻木小
	社会	中山 雄二	鶴里小	保母 征之	駄知小	瀧 茂 長尾 豪哲	泉西小 泉 小	小林 昭	鶴里小
	算数	佐々木 博	泉西小	棚橋 直仁	駄知小	清水美和子	肥田小	棚橋 直仁	駄知小
	理科	菅原 由直	下石小	関谷 句美	土岐津小	水野 秀信	肥田小	関谷 句美	土岐津小
	生活	伊藤 敏明	肥田小	神戸 史子	肥田小	鈴木 正樹	泉 小	神戸 史子	肥田小
	音楽	有賀 秀雄	駄知小	安藤 律子	駄知小	知原 恵子	鶴里小	安藤 律子	駄知小
	図工	厚見 正紀	泉 小	日比野有希子	泉西小	坂田まさみ	妻木小	有賀 雅美	土岐津小
	家庭	澤田 修一	妻木小	中島満理子	駄知小	成瀬ふく代	土岐津小	長谷川里美	泉西小
	体育	加藤 泰幸	曾木小	揖斐 賀浩	土岐津小	伊藤 策雄	土岐津小	清本 直子	泉 小
中学校	国語	安田 卓美	肥田中	熊崎 正彦	西陵中	杵淵 容子	肥田中	伊藤 瞳	泉 中
	社会	木島 孝夫	濃南中	仙石 守一	泉 中	青木 隆司	駄知中	大島 亘	西陵中
	数学	山田 恭正	駄知中	小久保拓哉	泉 中	岩田 健志	西陵中	山田 勇樹	西陵中
	理科	柳河瀬久夫	肥田中	渡辺勢津子	西陵中	河地 貴司	濃南中	渡辺勢津子	西陵中
	音楽	本多 直也	土岐津中	菅原 富江	西陵中	加藤 祥子	濃南中	加藤 祥子	濃南中
	美術	下総 平五	土岐津中	大橋 高明	土岐津中	藤本 紀和	西陵中	小栗 洋之	泉 中
	保体	桐井 雅康	西陵中	田口 浩久	土岐津中	山田 鏡一	泉 中	田口 浩久	土岐津中
	技家	中野 克義	泉 中	加藤 明覚	泉 中	有賀 良子	駄知中	早瀬 浩孝	駄知中
	英語	岡田 庄二	泉 中	長瀬久美子	土岐津中	加藤 隆将	泉 中	長瀬久美子	土岐津中
各種	道徳	山田 恭正	駄知中	金森 京子	土岐津小	岩井 妙子	西陵中		
	特活	桐井 雅康	西陵中	久米 徹	濃南中	今井 竜彦	下石小		
	図書	加藤 泰幸	曾木小	鈴木 米久	土岐津小	宇佐見美名	駄知小		
	特支	有賀 秀雄	駄知小	安藤かぐみ	泉西小	若林 道代	泉 小		
	養教	澤田 修一	妻木小	土屋 京子	妻木小	土屋 京子	妻木小	水野 洋子	泉 小
	事務	厚見 正紀	泉 小	西尾 治久	泉 小	久米 隆明	曾木小	八木 逸子	濃南中

1年間よろしく願いいたします。

## あっ、たんぼぼだ！

鶴里小学校 奥村 隆史

わが子と街中を歩いてきたときのことで。繁華街のビルに囲まれたコンクリートの歩道で、突然子どもが立ち止まって、「あ、たんぼぼだ！」と大きな声で言いました。

わたしは、特に気にすることもなく歩き続けようとした。すると、わたしの手を引いて立ち止まるようにもう一度、「たんぼぼが咲いているよ！」と訴えかけました。

あまりに何度も言うので、立ち止まって子どもが指差す方を見ました。すると、どうでしょう。コンクリートの割れ目から、たんぼぼが顔を出して咲いているではありませんか。

「へえー、すごいなあ」私は、感動を覚えました。こんな堅いコンクリートに挟まれていても、たくましく花を咲かせているたんぼぼの生命力と子どもの純真な心に。

「こんな街中でたんぼぼなんて、咲いているわけがない」そう思った私は、先入観で見えているものを見ようとせずにいました。ところが、子どもは見えるものを素直に見て感動していたのです。

大人になると様々な知識・知恵をもつ反面、失いかけている大事なものがある気がします。「あの子は・・・」「そんなことがあるわけない・・・」など、いろいろなフィルターにかけて固定的に考え、素直にあるがままを見つめる心を忘れかけていないでしょうか？時に一生懸命に訴えかけている子どものサインを見逃してはいないでしょうか？

無垢な心で子どもの目線に立って考える大切さを、わが子から教えてもらいました。子どもたちと向かい合うとき、今でも「あ、たんぼぼだ！」の言葉が心の中に響いています。

## 掲 示 板

第2回 土岐市小中学校教育研究会が行われます

- < 6月13日(金) 中学校教科研 >  
土岐津中...社会、技術・家庭、英語      西陵中...数学、音楽、美術  
肥田中...理科、英語      泉中...国語、保健体育
- < 6月17日(火) 各種研B >  
泉中...特別活動      図書館(笠原中学校)      養護教諭(北消防署)
- < 6月18日(水) 小学校教科研 >  
土岐津小...社会      下石小学校...国語、音楽、家庭科      妻木小...算数  
鶴里小...理科      駄知小...図画工作      泉小...生活科      泉西...体育
- < 6月27日(金) 各種研A >  
駄知小...道徳      泉中...特別支援      泉小...事務職員

教科書展示会が行われます

- ( 期 間 )      6月20日(金)～7月3日(木)までの14日間(6/23.27.30 休館日)
- ( 会 場 )      土岐市図書館
- ( 時 間 )      平日 午前10時～午後7時      土・日 午前10時～午後5時
- ( 問い合わせ ) 土岐市図書館 (0572-55-1253)
- ( 展 示 内 容 ) 小・中学校の教科書、高等学校の教科書及び特別支援学校用の  
文部科学省著作教科書(一部)



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No.440  
発行責任者 所長 加藤 紀久朗  
発行日 平成21年 1月31日  
題 字 増田 章 教育長

~1年生  
やさいをそだてよう~

野菜が大好きに  
なりました



(苗植え)



(サラダパーティー)



(観察)



(収穫)

撮影 泉西小学校  
水野知恵先生

## 間もなく終着駅に着きますが、忘れ物はありませんか・・・？

土岐市教育研究所長 加藤 紀久朗

積み重ねれば特別になる」を自問しながらやってきたつもりです。その裏には、小さい頃から母親によく「お前はひとつのことが長続きせん」という言葉を言われたことを思い出します。思いつきでは始めるが、やり切ることができない子どもの代名詞でした。しかし、このことは55歳になった今でも同じような面があるから思うことも知れません。

年度末を迎え、忙しい毎日の中で「今」が重要であることは確かですが、4月以降の中で自分が自問してきたことを、もう一度振り返ってみることは「最後の詰め」につながるものと思います。

間もなく20年度という終着駅に着きますが、4月当初、始発駅で積んだ荷物を「忘れ物」としないことを自分でも確かめ、終着駅に到着したいものです。

新しい年を迎えましたが、早いもので、あと二ヶ月もすると年度の終わりを迎えます。今年度こそはと思いながら、今までとやっぱり同じかなと妙に納得したり、反省したりすることの繰り返しで過ごしてきた気がします。それに比べ、子どもたちの成長には素晴らしいものがあります。毎日の中では気づかないことかもしれませんが、各学校を年間数回の訪問ですが、間をおいて参観するものにとって、成長や違いが良くわかります。しかし、子どもたちが、自分の成長に気がついていない面も多くあります。そこが、指導をしてこられた先生方の出番ではないでしょうか。

4月当初に私なりに今年度はこのことがんばろうと自分なりに目標を立てました。確かに目標は時間とともに変化はしますが、その目標の土台となる考え方は不変に近いものがあって良いと思います。自分の中では、「毎日の当たり前や普通を

# 「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会 泉中学校 西尾 新

(11月号の続き)

## 3 実践の授業より 第1学年 特別活動

単元名 合唱祭に向けた取組を見つめよう

本時のねらい 合唱練習の映像を見たり、取組のよさや課題点を話し合ったりする活動を通して、人任せにせず、自分に厳しく取り組もうとすることで取組の価値が高まることに気づき、今日からの練習をよりよいものにしようとする意欲をもつことができる。

	学 習 活 動	教師の指導・援助
つかむ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 合唱練習をしている『映像』を見て、感じたことを発表する。</li> <li>2 本時の課題をつかむ。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【学習課題】</p> <p>これからの合唱練習の中で、大切にしなければならないことについて考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱祭に対する学級の願いを確認する。</li> </ul> 
ふかめる	<ol style="list-style-type: none"> <li>3 強い気持ちをもって取り組んでいる『仲間(実行委員)の思い』を聞いて、考えたことを書き、交流する。</li> </ol> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>毎日の1回1回の練習を大切にしたい。実行委員に頼り過ぎないようにしたい。</p> <p>実行委員もがんばっているので、自分にできることを一生懸命がんばりたい。</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の思いを聞いて考える際、考えがもてない生徒には、キーワードとなる言葉を示唆し、よい合唱を歌いたいという思いの共感にとどまっている生徒には、最初の願いに立ち返っていることや日常生活の様子と重ねて考えている点にも着目させる。</li> </ul>
まとめる	<ol style="list-style-type: none"> <li>4 これからの練習で大切にしたいことを話し合う。</li> </ol> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>「自分が動く」という気持ちをしっかりもって、練習をしていきたい。</p> <p>最後は全員の心がひとつになったと感じられるようになりたい。</p> </div> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 本時のまとめをする。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級委員長や実行委員長の話を聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・努力したいことが「しっかり歌いたい」「委員長の思いを大切にしたい」などの抽象的な内容であるときは、「いつ」「どこで」「どのように」を具体的に考えさせるようにする。</li> <li>・合唱の願いや日常生活を大切にしようと考えている意見を価値付ける。</li> </ul>

## 4 授業後の考察

### 指導計画の工夫

『合唱練習に対する自分たちの姿』を振り返ることで、取組意欲や活動の質が高まることを目指した。合唱に対する願いに立ち返り、自分たちの姿を見つめる姿が多く見られ、これから努力することを明確にすることができた。

### 魅力ある導入

これまでの取組の様子を撮った『映像』を使って、現在の自分たちの姿を見つめさせるようにした。映像に対して真剣に見入る姿が見られ、見た後、「リーダーがよく動いている」「真剣に歌えている人がいる」や「ふざけて練習している」「精一杯歌っていない」などのよい点やよくしたい点が意見として出た。これらの意見をもとに「これからの合唱練習で大切にすることについて考える」という本時の課題につなげることができた。課題化までの流れをスムーズにすることについては効果があったが、映像をもう少し短時間にした内容にすると、活動の焦点化を図ることができると考える。

### 広がり・深まりのある追究

合唱祭の『実行委員長である生徒の思い』をみんなの前で話させた。

私は実行委員長として、昼休みの練習などの計画を副実行委員長と立てました。昼休みは遊びたいと思っているかもしれないけれど、みんながちゃんと参加してくれるので、とてもうれしいです。でも、練習の姿を見ると、男子では替え歌を作って笑っている人がいるということ、女子では、しゃべっていたり、他ごとをしたりしている人がいるということがとても残念です。(中略)わたしも実行委員として、自分のできることは全部やっていきます。立てた計画はちゃんとみんなに分かるように知らせるし、まだ音が分からない人には分かるまで教えていきます。「まずは自分が…」という気持ちを大切にがんばっていきたいです。

導入で感じたリーダーのがんばりの裏にある思いに直接触れることで、自分たちの弱さをより一層見つめることができた。また、さらに努力しようとしているリーダーの姿に触れたり、教師に「具体的に言うとどういうことになるだろう」と問われたりすることで、これから努力することを具体的に考えることができた。しかし、教師の発問の内容によって、授業の深まりが大きく変わるため、タイミングや内容を熟考して指導していく必要がある。

### 自己の変容を自覚させる評価

授業のまとめでは、実際の練習を通して自己の変容を自覚させようと考えていたが、時間の都合上行うことができなかった。最後の実行委員長の話は、「仲間の意識が変わってきたことを感じている。次の練習が楽しみである」という内容であり、それぞれが話し合いの成果を実感できたと考える。今後、変容を実感させるために、話し合った内容を実践させる場を位置付け、評価をさせていく必要がある。

### 成果と課題

導入に意図的な映像を使用したことで、課題化までの生徒の意識の流れがスムーズであった。実行委員長の思いに触れることで、考える視点を明確にすることができ、自分がどう行動していくのかを考えることができた。

授業のまとめで、学級委員長や実行委員長に語らせたことにより、話し合いの成果を実感することができた。

ふかめる活動や、まとめの活動をより充実させるために、映像の内容をさらに焦点化し、指導の意図が明確に伝わる導入にしていく必要がある。

質の高い活動への意欲をもたせるために、話し合う内容を「今後のこと」に重点を置くよりも「できていない現状に対する内面の弱さ」に目を向かせるように指導していく必要がある。



### 1 はじめに

本校では、昨年度より上記のテーマを掲げ、仲間を意識し、仲間の意見を取り入れ、自分の意見をよりよいものにしようとする事、その交流を通して言語能力を高めることをねらい、研究に取り組んでいる。特に本年度は、集団追究場面における指導・援助と評価の工夫を重点とし、実践を進めている。

### 2 研究内容

研究内容1 言葉や文にこだわり、仲間との交流を通して言語能力を高める指導構想

単元におけるつけたい力と評価規準の明確化

単位時間のねらいを明確にした単元指導計画

研究内容2 言葉や文にこだわり、仲間との交流を通して言語能力を高める指導・援助と評価

必然性がある学習課題を生むための工夫  
個の考えを確立させるための指導・援助の工夫

仲間と高まり合わせるための指導・援助の工夫  
学びの足跡や変容をまとめる評価の工夫

### 3 授業実践

4年 国語科「話し合って決めよう」より

研究内容1ー つけたい力と評価規準の明確化

単元においてつけたい力を次のように考え、話し合いにおける観点を明らかにし、評価項目につなげるように考えた。

- ・立場を明確にすること、例・理由をあげて話すことの大切さを理解して話し合いに参加する力
- ・話題からそれないこと、意見を聞き比べて整理し、合意点を探りながら話し合いに参加する力
- ・仲間の話し合いの様子を参観し、観点をもとに 良さや課題を見つけ、伝える力

研究内容2ー 仲間と高まり合わせる指導・援助

学級会の様子を表すCDを聞くことにより、話し合いのよさや問題点を見つけ、観点を明らかにした後、実行委員会からの提案をもとに、個々の考えをもたせうえで、話し合いを実施した。

#### 【交換学習を用いた学習形態】

互いの良さや課題を明らかにすること、発言の機会を多くもつことをねらい、学級を4グループに分け、話し合い参加者とアドバイザーを順に体験させる形態で学習を進めた。交流の観点を明確にすることにより、わかりやすく伝える話し方を意識して発表することができた。また、アドバイザーは、評価者としての役割だけではなく、発言を促すこと、内容への助言をする役割もあり、発言者の自信につながった。



アドバイザーと  
いう話し合いを外から視聴する立場を体験することにより、自己や仲間の姿からよさや課題を見つけ、次の話し合いに生かそうとすることができた。

#### 【立場や根拠を明らかにした発言指導】

観点の明確化

必然性のある話題

<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に発言しよう。</li> <li>・賛成、反対などの立場を伝えよう。</li> <li>・討論を先に、理由を後から話そう。</li> <li>・他の人とつなげて話そう。</li> </ul>	+	<p>相手を納得させたいという強い思い</p>
--	---	-------------------------

賛成・反対の立場を示した上で、経験をもとにした理由を具体的に話したり、自分とは反対の考えの児童に理由の弱さを追究する質問をしたりして、互いの考えを意欲的に交流することができた。

### 4 成果と課題

話し合う内容、話し方の例を明確にすることにより、仲間の意見と聞き比べ、立場を明らかにした話し方ができる児童が増えた。

賛成・反対の立場や理由をを明らかにして話すことが、互いの意見を聞き比べ、よりよい話し合いにつながることを学ぶことができた。

小集団の話し合いで身に付けた話し方や聞き方を他の活動や大きな集団においても生かせるように、継続指導及び意図的な場の設定を行う。

## 1. はじめに

中学校理科の学習指導要領の中では、「目的意識をもって」ということが強調されている。それは、主体的に実験や観察を行い、科学的に探究する学習を進めていくことが、「生きる力」につながるからである。

本校における全校研究主題は「仲間と共に高め合う生徒の育成」である。理科部では、生徒同士のコミュニケーションを重視した授業づくりをすることで、仲間と共に高め合う生徒の育成を目指そうと考えた。

## 2. 研究内容

### 研究内容1 評価について

本時達成すべき目標及び評価について生徒に明示する。

全員の目標達成につながる活動であったかを評価し位置付ける。

### 研究内容2 指導方法について

評価の観点を生徒に明示し、目的意識をもって活動できるようにする。

全員が目標の達成に到ることを重視する。

## 3. 授業実践

第2学年 理科

単元名 「化学変化と原子・分子」

### (1) 単元の指導にあたって

本単元でも、生徒同士のコミュニケーションによる協同的な学習の中で、理解を深めたり、現象に対する見方や考え方を広げたりさせることを考えた。

導入ではパンやケーキをふくらませるときに使われるふくらし粉を用いた。身近な現象の中に化学変化が見られることに着目させ、興味・関心をもたせ、積極的な学び合いにつなげた。また、本単元での実験方法や反応は、既習事項だったり、同じ手順で実験を行ったりするものも多い。予想をもって実験に向かったり繰り返し実験を行ったりする中で、個々の実験技能の習得を図った。

### (2) 本時と研究主題との関わり

### 研究内容1 - について

本時の課題を、「～説明できるようにしよう。」とした。反応の前後の質量がどうなるのかという、量的関係を見つけ出すだけでなく、なぜそのように変化するのか、もしくはなぜそのように変化しないのかを考えるとという本時のねらいを明確にし、何について学習すればよいのかという目的意識をもった探究活動を促した。

### 研究内容2 - について

本時は質量の変化を考える定量的な実験である。正確な実験結果を基に考察できるように、実験中の留意点をプリントとして配付し、実験手順に関わること、安全面に関わることを明確にして実験に向かわせた。また、結果が出た班からその結果を提示させ、他の班の結果と比較しながら実験・考察できるようにした。さらに考察では、自分の班に関わらず自由に生徒同士による協同学習をさせ思考に広がりをもたせた。

## 4. 成果と課題

評価規準をはっきりさせ、「説明できるようにする。」という課題設定をしたことで、探究心をもって結果を検証することができた。配布プリントや教科書をじっく

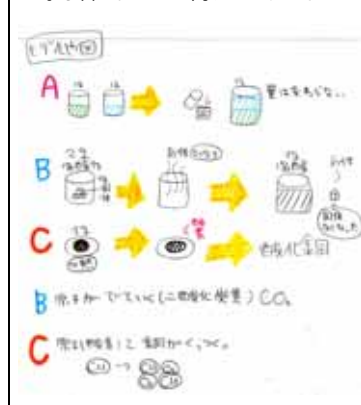
り読みながら、学び合いをする姿が育ってきた。自分たちで話し合いながら解決するために、補助プリントは有効である。

実験結果を他の班と比較できるようにすることで、自分達の班のデータが正しいかどうかを含めて考察することができた。

3年間を見通し、発達段階に応じた系統的な指導・援助を考えていきたい。

教師の指導のタイミングや援助の方法について実践を積み重ねていきたい。

学び合いによって高まったノート





## 1 はじめに

学力対策委員会では、「基礎的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成」を目指し、学習状況調査等の分析を通して、日々の授業を見直しています。

今年度は、「平成19年度岐阜県における児童生徒の学習状況調査」と、「平成20年度全国学力・学習状況調査」の各校における分析を行いました。県の学習状況調査では、小学校「国語」「算数」、中学校「国語」「数学」「英語」の教科にわかれ分析を行っています。

また、調査の結果を分析し、対策を考えるとともに、今までの指導の在り方を考えています。詳しくは年度末に発行する「あすの子どもを育てるために」に掲載してまとめていますが、今回は、その調査・分析の一部を紹介します。

## 2 分析の観点

授業改善につなげるという意識を大切に、

- ・どのような傾向があるのか
- ・どのような力が優れているのか
- ・どのような力が弱いのか
- ・正答率が高ければ問題はないのか
- ・どのような問題に無回答が多いのか

等の観点から分析を行っています。

## 3 分析にかかわって

### 小学校 5年生「国語」

小学校5年生の「国語」に右上のような問題が出題されています。

この設問は、グラフをもとにして、書く必要のある事柄を選び、グラフから分かることとそれについての考えや理由を区別して決められた字数で書くことができるかを問う問題です。

この問題の正答率が県と比較して、市はやや低くなっていました。また無回答の児童は非常に多いという結果になりました。

次のグラフは、全国の小学生に、「学校給食について感じていること」のアンケート調査を行った結果をまとめたものです。このグラフから分かることと、それについてのあなたの考えや理由を、五行以上七行以内でわかりやすく書きましよう。

採点基準として、原稿用紙の使い方は問わないこと、常体・敬体の混在も可であること、表記や漢字の誤りについては許容することが明記されているので、誤答としては、資料から分かったことと自分の考えのうちどちらか一方しか書いていない場合が推測されます。その要因として、資料から読み取ったことと結び付けて自分の考えを明確にすることや、自分の考えを述べるために説明すべき事柄を整理できないことが考えられます。

この結果から、自分の考えをわかりやすく伝えるために、

- ・決められた条件の中で、目的や意図に応じて必要な事柄を集めて書く力を育てること。
- ・事実や感想が効果的に構成されている文章のよさを見付けたり、複数の構成の中から適切なものを選んだりするなどの活動を通して、文章全体を見通して、各事柄を適切に取捨選択したり整理したりできるよう指導の改善をすること。
- ・そのために、年間指導計画に日常生活や他の教育活動と関連させて具体的事例や体験を根拠にして書く活動や、多様な種類の文章を読んで考えたことについて書く活動を重点的に設定

するよう見直すこと。

- ・単元指導計画においては、書いた文章を他の人に読んでもらったり、評価を受けたりする場を必ず設定し、書くことの喜びや満足感が得られるように改善すること。
- ・事実や感想が効果的に構成されている文章のよさを見付けたり、複数の構成の中から適切なものを選んだりするなどの活動を通して、文章全体を見通して、各事柄を適切に取捨選択したり整理したりできるよう指導の改善をすること。
- ・図書館利用の活性化や、効果的な家庭学習の充実を図り、指導を効果的なものにする事。

ここでは、「書くこと」を例にあげましたが、正答率が特に低い問題に、これからの学習指導のヒントが隠されているように感じられる分析結果となりました。

### 中学校 1年生「英語」

英語で問いかけられている内容を正しく理解し、それに対して適切に回答する力をみる問題として、次のような問題が出題されています。

(テープ問題)

これから放送するように英語で問いかけられたとき、どのように答えますか。回答として最も適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。話しかけは2回ずつ放送します。

(放送文) 2

Look at that new student. Who is She?

ア Yes, she is.                   イ She is Kumiko.

ウ She is a student.           エ She plays the piano.

(放送文) 4

My pen is not in my bag. Do you have a pen?

ア Yes, it is.                   イ You are welcome.

ウ Ok. Here you are.           エ It is not my pen.

ここで、特に問題としてとらえたのは誤答率です。この問題の無答率は県と比較しても、非常に少ないのですが、市は正答率が低く、逆に誤答率が非常に高いという結果になりました。

2は、Look at that new student. Who is she? に対して、イ She is Kumiko. と答える問題です。この問題の正答率が低く、誤答率が高くなった要因は、who に対する基本的な言語形式に基づく応答の仕方の定着が弱いためであると考えられます。また、who の機能についての理解はできていても、会話の状況や話し手の意向について、質問文の前の英文と関連づけながら把握することができなかったことも考えられます。

4は、My pen is not in my bag. Do you have a pen? に対して、ウ Ok. Here you are. と答える問題です。この問題の正答率が非常に低く、逆に誤答率が非常に高くなった要因は、Do you have a pen? が、「ペンを持っていますか」という文字通りの意味ではなく、「ペンを貸してください」という話し手の意向が含まれていることが十分にとらえられていないためであると考えられます。

このことから、言語形式に基づいて正しく応答する力をつけるとともに、会話の状況から質問文の前の英文と関連づけ、相手の意向を正しく理解して適切に回答する力を一層つける指導が必要であると考えます。

そこで、疑問文( yes-no question, wh-question )の回答の仕方を理解させるために、

- ・帯活動などを通し、さまざまな場面での疑問文に触れさせ、繰り返し回答する機会を設けるなどして、適切な回答の仕方を定着させる。
- ・教科書本文にある、話し方や書き方のよさに着目し、それらを真似ながら表現する活動を繰り返し仕組むことで、文章表現の構築力を身につけさせる。

というような、質問の内容を読み取り、それに対して適切な表現で回答することを大切にした指導をする必要があると考えています。

## 4 おわりに

先日、本年度の県学習状況調査が行われました。今後も調査・分析の結果を、各学校において少しでも授業の改善につなげ、「基礎的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成」を図っていきたいです。

県の人権擁護委員である藤田敬一先生にお世話になって久しくなりますが、昨年秋にも生徒たちに講演をしていただきました。藤田先生は、毎回講演の中で「言葉」の大切さを強調されます。

講演の中では、「言葉だけが人を変えられる」詩人金子みすゞが、穏やかでやさしく語りかけた「みんなちがって、みんないい」の詩が、多くの人々の心に勇気と希望、生きる力を与えたことを引用されます。

私たち教師にとって「言葉」の大切さは身にしみてわかっているつもりです。でも、一言一言の重さを本当に考えて子どもたちに語りかけているか、思いつきで話していないか、ドキッとしてしまいました。

「言葉」は反射的に発せられます。「言葉」は思

考を飛び越えて発せられることもあります。だからこそ、「心」が大切だと改めて感じています。「心の教育」とは実は「言葉の教育」ではないかとも感じています。

自分の子どもを見ていても感じますが、携帯やパソコンをはじめすべてが視覚社会に支配され、画面と見合っているだけで、「言葉」が発せられません。おまけにテレビには日本語なのに字幕が表れ、会話はメールに取って替わっています。

激しく変化する身の回りの状況を批判していても仕方ありません。学校の中で出来ることは何か、やらなくてはならないことは何か、職員と生徒、保護者、地域の方たちと「言葉」を交わして考えていきたいと思います。

## 掲 示 板

< 今後購入を予定している本の紹介(その2) >

\* 既に購入済の書籍

新学習指導要領 全面実施までの経営課題と対応

小学校・中学校 移行措置への対応ポイント

各教科等における言語活動の充実

21年度から取り組む小学校英語

新教育課程の学習プロセス 新しい「基礎・基本」の習得

新教育課程の学習プロセス 新しい「活用型」の学習をどう進めるか

新教育課程の学習プロセス 新しい「探求型」学習をどう進めるか

主幹教諭

「授業力向上」実践レポート

一日一話学校講話実例365「春夏号」

一日一話学校講話実例365「秋冬号」

学事ブックレット道徳セレクト3 道徳性をより高める単元的道徳学習

特別支援教育の基礎理論

Q & A クラスなかの「気になる子ども」

国語教育指導用語辞典 第三版

算数教育指導用語辞典 第三版

\* 教えることの復権 大村 はま 荻谷剛彦・夏子 著

\* その子育ては科学的に間違っていますー子ども中心主義の大きな過ち 國米 欣明 著

\* 欲ばり過ぎるニッポンの教育 荻谷剛彦+増田ユリヤ 著

\* 幼・小・中学校学習指導要領解説(全て)

2月中旬頃に入る予定です。研究所には書籍や資料が多数あります。書籍類については貸し出しをしておりますので、お気軽に教育研究所へおこしください





土岐市	教育研究所
TEL	0572-54-1111 (内281)
FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No.441
発行責任者	所長 加藤 紀久朗
発行日	平成21年 2月28日
題字	増田 章 教育長



## 合唱祭

撮影 肥田中学校  
加藤 賢吾先生

### 「なんで、どうして」を生かす最後のチャンスです。

早いもので、あと一か月で年度の終わりを迎えます。この時期、学年末を迎え、もう少しがんばろうという思いと何事もなく終わりたいという思いが交錯している毎日ではないでしょうか。このことは、児童・生徒も同じで、特に受験をひかえている者にとっては大きなことであることも確かです。それは、結果に対する不安と期待からくるものではないでしょうか。しかし、受験生だけでなく、誰もが次の年度や環境の変化に対する心構えのひとつの姿ともいえると思います。こんな時、先生からの一言の持つ意味は決して小さくはないものです。ひとりひとりの児童生徒にどんな声かけができるのか、一年間の集大成の表れともいえるのではないのでしょうか。

この一年間を振り返ってみると、大きな流れとして、理解不足や行き違いで摩擦が生じた5月、なかだるみから問題が起こった10月、今までの指導やそれに対する不満がわき出る2月以降と

#### 土岐市教育研究所長 加藤 紀久朗

らえています。特に2月以降は、大人も子どもも含め我慢には限度があります。個人差は当然ありますが、特に不満に思っていることはこれからの一ヶ月に必ず出ます。そのことは感謝の気持ちも同じですが、表面に出てくることは比喩ものにならないくらい不満の方が大きくなります。我慢から生まれる不満はうまくいけば先につながりますが、お互いを理解しようとしていない我慢に基づいた不満はなかなか解決できない場合が多く、時として、いつまでも不満や心の傷として残ってしまいます。

残り一か月、全てを解決することは時間的に難しいことも確かですが、児童生徒・保護者・先生も「なんで・どうして」という思いを学校や学級に置き忘れてくることを少なくすることが、わたしたちの役割であり、次年度に向けてのエネルギーになるのではないのでしょうか。

# 「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会 駄知小学校 保母征

之(前号より)

## 3 実際の授業より 第5学年 社会

単元名 「わたしたちの国土と環境」～水俣病とたたかい続ける人々～

本時のねらい 裁判で認定者と認められた人の少なさや偏見や差別が原因で、長年病気のことをかくしてきたAさんの姿を話し合う活動を通して、水俣病の問題が今日もまだ続いていることを理解することができる。また、二度とこのようなことが起きないように、次世代に伝えていこうと決意して打ち明けたAさんの姿をとらえることができる。

	ねらい	学習活動	指導・援助
つかむ	<p>ビデオを見て、自分が思ったこと、考えたことを交流することができる。</p> <p>Aさんが水俣病であることを話せなかった理由を、資料を活用して調べることができる。</p>	<p>Aさんの写真と経歴を知る。</p> <p>1 <b>ビデオ「40年以上隠し続けた故郷」を見て、感想を話し合う。</b></p> <p>課題 Aさんが長年、水俣病であることを話せなかったのはなぜだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2時に出した子どもたちの課題を取り上げ、必然性のある導入を図る。</li> <li>・ビデオは内容を精選し、2分程度にまとめる。</li> </ul>
ふかめる	<p>課題について仲間と話し合う活動を通して、水俣病によって苦しんでいる人がまだいることを理解することができる。</p>	<p>2 <b>課題に対する予想を立て個人追究する。</b></p> <p>3 <b>課題について全体交流を行う。</b></p> <p>【資料1 長期化する裁判と認定患者の割合】</p> <p>【資料2 水俣病患者に対する偏見・差別】</p> <p>資料2から水俣市にすむ人が差別されていることが分かった。だからAさんは、自分の病気のことを打ち明けられなかったのではないかな。</p> <p>【資料3 水俣市出身者に対する偏見・差別】</p> <p>母親が病気だった時の苦しみを知っている。Aさんは、家族に迷惑をかけたくなかったのではないかな。だから話せなかったと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習で、裁判をおこせば補償される可能性があったことを指摘する。</li> <li>・つまりさが予想される児童を中心に机間指導する。</li> <li>・主体的な子ども同士の交流を重視するため、10分程度の自由交流をする。</li> <li>・これまで学習したこととつなげて考えている児童には教室側面の掲示してある資料を活用しよう助言する。</li> </ul>
まとめる	<p>ビデオから、Aさんが、二度とこのようなことが起きないように、自分が病気であることを打ち明け水俣病を伝えていこうとしていることが分かる。</p>	<p>4 <b>ビデオ「40年隠し続けた故郷」の続きを見て、課題について確認し、55歳になった時に自分が水俣病であることを告白したAさんの姿について話し合う。</b></p> <p>5 <b>本時の学習活動のまとめを書く。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「終わっていない」というAさんの言葉を使って発問することで、水俣病が今なお続いていることを理解させる。</li> </ul> <p>評価規準</p> <p>水俣病の問題が今日もまだ続いていることを理解している。</p> <p>【思考 判断】ワークシート</p>

## 4 授業後の考察

### 指導計画の工夫

子どもたちが、事象をより実感をもって具体的に調べることができるよう、人の生き方や考えに触れる事象を取り上げた。この事象から、子どもたちは、水俣病の問題が今も続いていることを、「今も病気で苦しんでいる人がいること」「水俣病のことを伝えようと活動している人がいること」の2つの視点で、実感を伴ってとらえる姿が見られた。人物を取り上げ、その人物の行動や思いにふれ、実感を伴いながら追究していくことは、子どもが環境や平和について身近に感じ、公民的資質を向上する上で重要なことであることが分かった。しかし、それが一般化できる教材であることが必要であり、教材をより精選していく必要がある。

### 意欲もてる導入

自分が水俣病であることを隠し通して生活してきたAさんの姿をビデオで紹介した。ビデオによる導入で子どもたちは、事象に対してイメージをもち、関心をもつ姿が見られた。また、2分程度にビデオの内容を精選したことで、課題化をスムーズに行うことができた。その際、被害者の人たちが裁判により一部が勝訴し損害賠償を受けたという前時の学習を振り返る場を設けることで、より課題意識をもって資料追究に向かう姿が見られた。



### 高まりのある追究

ワークシートにおける資料の位置関係を工夫することにより、複数の資料を矢印などを使ってつなげ、考えている姿が見られた。しかし、資料から分かることだけを読み取り、そこから課題につなげて考えを深めていく児童が少なかった。

資料から読み取ったことを交流した後、子どもたちに「Aさんが数年前に、自分が水俣病患者であることを打ち明けた」事実を伝えた。この事実子どもたちは深く関心をもつことができた。しかし、前半の交流に時間をかけすぎて、十分な話し合いができなかったため、「二度とこのようなことがおきないため」というAさんの強い気持ちにせまることができなかった。社会的事象の意味を深く追究していくためには、教師の意図的指名や発問によって子どもの課題意識を高め効率のよい話し合いを仕組むことが必要であると考えた。

### 自己の変容を自覚させる評価

自分の考えがどのように深まったかを意欲的に書こうとする姿が見られた。しかし、より意図するまどめに迫るためにも、まとめの形やポイントを助言する必要がある。本時の場合、「Aさんが長年、話さなかった理由と打ち明けた理由を書きましょう。」と助言することで、ねらいに迫るまどめに近づけたのではないかと考える。



### 児童のまとめ

Aさんは、小さい頃、差別を受けて自分自身が苦しい思いをしたから言えなかったと思う。結婚をして新しい家族を守るためにも言わなかったと思う。でも、同じように水俣病になっている人が、正面から人と接しているのを知って、自分もがんばろうと思った。Aさんは、二度とこのようなことがないように打ち明けたと思う。

## 5 成果と課題

導入で人物を紹介したビデオを使用したことは、子どもたちの関心を高め、学習活動への意欲につながった。子どもたちが、資料の読み取り、発言などの学び方が定着している姿が見られ、主体的に学ぼうとする姿勢が見られた。子どもたちの意見を位置づけ、課題解決をするためにも、特に資料については、読み取らせたい内容を明確に指導者側がもっておく必要がある。

まとめの方法についても子どもたちに具体的に示し、1時間を通して学んだことを、自分の言葉で書き、自己評価能力を鍛えていく必要がある。

### 1 はじめに

本校では、相手を認め励まし、尊重しあう中で仲間と共に様々な思いや考えを交流合ったり（練り合い、学び合いのある学習）共に力を合わせ協力して活動したりすることで、学ぶ楽しさの中から大きな達成感や充実感を味わうことができると考える。

そこで、昨年度は、「話すこと」「聞くこと」に重点をおき研究を進めてきたが、児童の読解力が弱いという反省点等から、本年度は、特に国語科の「読むこと」の指導を核として、実践を進めている。

### 2 研究内容

#### 〔研究内容1〕

「話し合い活動」を位置付けた年間・単元指導計画の作成

学習の進め方の定着

系統性を考えた低学年における話し合い活動

#### 〔研究内容2〕

単位時間での必然性のある「話し合い活動」のあり方

話し合い活動の足場となるワークシートの工夫

動作化を取り入れた学習活動

自己評価、相互評価の工夫

### 3 授業実践

1年生 国語科「くじらぐも」

#### 〔研究内容1〕

「話し合い活動」を位置付けた年間・単元指導計画の作成

学習の進め方の定着

本単元では、一人読み 課題提示 動作化 個人追究 全体交流 ペア音読 振り返りという学習の進め方を子どもたちに伝えた。学習への見通しがもて、児童のつぶやきで課題がつくらたり、自然に動作化に移行できたり、より学習意欲も高まるであろうと考えた。

系統性を考えた低学年における話し合い活動

低学年では、まず相手意識をもたせるため、話し合いの一つとしてペア交流の場を多く設定しようと考えた。ペアの子に話すことで、気楽に話せること、誰もが同じ足場に立てることの良さがある。中にはペアの子に話すことで自信がもて、全体交流の場で発言しようとする子も見られる。本時では、学習の終末に学習したことを生かして、ペア音読を行い、お互いの良さを見つけ伝え合う場を設け、全体へも広めていった。

#### 〔研究内容2〕

単位時間での必然性のある「話し合い活動」のあり方

話し合い活動の足場となるワークシートの工夫

児童が、学習場面の状況をつかみやすくするために、挿絵やふきだしを取り入れたワークシートを作成し、児童自身が登場人物になりきって一人読みをすすめ、どの子も自分の考えがもてる手立てとした。また、自分の考えが発表に結び付けられるよう机間指導では、助言したり認めて自信をもたせたりした。

動作化を取り入れた学習活動

本時の動作化では、前時の学習のつながりを大事にさせたかったので、やっとくもの背中に飛び乗ることができた所から動作化させ、子どもたちのうれしい気持ちを思い起こさせた。

イスの上をくじらぐもの背中と見立てて実際に乗らせ、空の旅に対する子どもたちのわくわくする気持ちをもたせた。また、空のずっと上、きれいな景色、澄んだ空気等にも、想像させ読み取らせることで、話し合い活動にも生かすことができた。

自己評価、相互評価の工夫

児童は学習の終末でペア音読を行った。読み取ったことを生かし、それをポイントとしてお互い音読をし合った。聞き手の児童は、ポイントとなる箇所の読み方に着目したり、相手の上手な所を見つたりしながら聞き、良かった所を一つ伝えることをきまりにした。お互いに聞き合う、伝え合う活動が、「話し合い活動」の一つとも考えた。

友達の良い所を見つけることは自分もポイントを意識し、頑張って音読をしよう、褒めてもらえる嬉しさから次も頑張ろうという意欲にもつながった。

### 4 成果と課題

動作化を取り入れたことで、場面の状況がつかめたり、気持ちを読み取ったりすることができるようになってきた。登場人物になりきって素直に感じたことを、交流の場で表現できる児童も増えてきた。

話型を知ることで、視点をもって友達の考えを聞いたり、関わって話をしようとする子も見られるようになってきた。

低学年の児童は、自分が書いた文章を読む時、上手く読めないため相手に伝えられないことが多い。書くことによる弊害を考え、書く内容や量等の吟味、書く指導の定着を図る必要がある。



1 はじめに

人間は人間の温かさ、思いやりによって支えられ励まされながら、自分の存在を肯定し、他者を大切に思うようになっていく。そこで、保育学習の中に、命の大切さや、思いやりの大切さを実感として感じられる場面を設定していくことが大切だと考えた。

本校における全校研究主題は「仲間と共に学びを深める生徒」である。他者の存在と自己の存在をしっかりと見つめていくことで、仲間の存在を大切に、共に学び合える生徒の育成を目指そうと考えた。

2 研究内容

- < 研究内容1 > 保育学習大切さを実感させるための導入ユニットの位置づけ
- < 研究内容2 > 子育て中の親子や乳幼児に生徒が実際に触れ合う機会の設定
- < 研究内容3 > 疑似体験やロールプレイング学習の導入

3 授業実践

第3学年 家庭科<保育領域>  
 単元名「絵本の読み聞かせ・命のふれあい」

< 研究内容1 > 保育学習大切さを実感させるための導入ユニットの位置づけについて

生徒たちは、第1、2時で、生命の誕生の様子や人は人とのコミュニケーションによって人間らしく育っていくことを「オオカミに育てられた子」「サイレントベビー」の資料から学習し、第3時では、自分が家族にどのような願いや思いのもとに育てられてきたのかを学習する。これらの学習の中でキーワードとなる「コミュニケーションの大切さ」が、絵本を読んでもらうことを通して感じられる、心地よさや感動から実感できると考えた。また、第3時では、親の願いや子育て中の苦労や喜びなどを家庭で調査してきたことをもとに、今の自分の成長は周りの人々の思いや支えの上にあることを学んでいる。そこで、生まれてくる命の尊さや今の自分の成長を支えてきてくれたのは家族の無償の愛であることを実感として感じられるような講座となるよう、講師の方と打ち合わせを

した。読んで頂いた本は次の3冊である。

へんしんトイレ 言葉遊びの楽しさを感じる絵本 (コミュニケーションの大切さ)
わたしのいもうと いじめによって生きる力を失って いく妹の様子を綴った実話の絵本 (命の尊さ)
ラブ・ユー・フォーエバー どんなことがあっても、 どんなに子どもが成長しても、母が子を愛する気持ちは 変わらないことを伝える絵本 (家族の無償の愛)

生徒の感想

一冊の絵本からいろいろな気持ちや感情が生まれてくるので、すごいし、不思議なことだと思いました。絵本で命の大切さ、人への思い、気持ち、いろいろなことが学べるのでいいと思いました。親子の愛を深めたり、心のスキンシップにはとてもいいと感じました。将来自分に子どもができたとしたら、子どもと心のスキンシップをとっていきたいです。絵本を読んでもらって、心がとても感動しました。最初の「へんしんトイレ」では、心から笑いました。次の「わたしの妹」だったと思うけど、いじめの本は、心がじい~んとして、せつない気持ちになりました。絵本は、小さい子のためのものだと思っていたけど、中学生の心も動かせるものだと思いました。絵本はすごいなあと思いました。言ったように、誕生日の時、母に「生んでくれてありがとう。」って言ってみようと思います。



4 成果と課題

体験することで、絵本を通したコミュニケーションの良さを感じ取ることができた。自分の存在も仲間の存在も尊い命であることを感じ、言葉を大切にしようとする感想が多く見られた。導入ユニットの最後に乳幼児の親子との交流を位置づけているが、学校と地域の乳幼児学級との連携をとり、継続的な取り組みにしたい。

今年度のまとめ ～各校の研究推進の成果～

学校所員は、これまで各校の校内研究を推進する立場で取り組んできました。各所員の実践については、前号までの「教育とき」で紹介してきました。ここでは、本年度の各校で取り組んだ研究の成果の一部について紹介します。

土岐津小学校	<p>児童とともに、教材との出会いから単元の出口まで見通しをもった学習計画を立てることにより、児童の中に話し合う必然性が生まれ、目標をもって意欲的に取り組む姿につながった。ワークシートの工夫、読み深めの発問の工夫、話型指導や学習形態の工夫により、仲間との交流のよさを理解し、意欲的に伝え合おうとする姿が増えた。</p>
下石小学校	<p>学習掲示を工夫したり、学習活動を工夫したりすることで、どの児童も自分の考えをもつことができ、進んで話そうとする児童の姿を生んだ。 お助けコーナーやメモボードの活用など、個の応じた指導・援助をすることで話すこと・聞くことの基礎・基本が身に付き、主体的に話し合おうとする児童の姿を生んだ。</p>
妻木小学校	<p>ペープサート、吹き出しを利用したワークシート、実物見本、動作化など、言語活動の指導・援助の在り方を研究実践することで、発達段階に応じた手立てや場面ごとに有効な手立てがどのようなものであるかがはっきりしてきた。 「話し方」「聴き方」の段階表を利用したり、意図的に話し合い活動を取り入れたりすることなどにより、より質の高い相互学習ができるようになってきた。また、「～の言葉から」「～の絵から」というような国語科にふさわしい話し方ができるようになってきた。</p>
鶴里小学校	<p>児童に付けたい力を明らかにし、それに対する学び方を試行錯誤しながら追究してきた結果、教科の本質を捉える学び方が児童に身に付いてきた。 着目児を設定し、具体的な児童の見方・考え方を明らかにし、個に応じる指導方法を明確にしてきたこととで、課題に対して自ら考えようとする児童の意識が高まってきた。</p>
曾木小学校	<p>机列表カルテに一人一人の実態をまとめることで授業のねらいが明確になり、学習活動や指導の手具体的になり、一人一人が力をつけることができた。一人一人の授業の様子を必要に応じてメモし、評価と次の指導に活用することができた。 「聞く」観点を明確にしたことで発達段階に合わせた「聞き方」が身に付いてきた。それによって、感想の内容が話し方だけではなく話の内容に関わった感想が増えてきた。さらに、仲間の感想に関わって発言できる児童が増え、質問や感想の内容が深まっていくようになった。</p>
駄知小学校	<p>追究の目的や方法を明らかにする導入（効果的な資料提示）を工夫したことで、学習活動に見通しをもって取り組むことができた。 教科書の例文を詳しく読み取り、ガイドブックの構成を理解したり、レポートの全体の構成を理解したりしたことで、自分で文章を書くときにその構成を意識して書くことができた。文章を書くためには、目的に応じた文章構成の方法を理解させることが大切であることがわかった。</p>
肥田小学校	<p>教師が願う子どもの姿に近づくために、ペア交流やグループ交流を取り入れる手立てが有効であった。 毎時間の地道な取り組みにより、仲間同士の言葉や文中の言葉に着目したり、言葉と言葉をつなげたりする力が育ってきた。</p>

泉小学校	<p>着目すべき言葉と操作方法を洗い出すことができ、なかなか一人読みができない児童も自分の考えを書けるようになってきた。</p> <p>一人読みでどんな言葉に着目させ、どう読み取らせていくかが明確になり、どの児童も自分の考えをもって授業に参加できるようになった。</p>
泉西小学校	<p>「ねらいの明確化」「展開のあり方」「本時気づかせたい価値の押さえ方」「終末のあり方」などをはっきりさせることで、道徳の時間の基本パターンを作り上げてきた。</p> <p>発問を3つに精選したことが、児童にとって「何を答えればよいか」がわかる問いかけとなり、思考が途切れることなくつながっていった。また、終末において、教師の説話だけでなく、外部講師、手紙、VTR、心のノート、児童作文、絵本の読み聞かせなどの工夫が、児童の心に響いていった。</p>
土岐津中学校	<p>各教科特有の学習過程を見直し再検討することで、協同学習の足場（課題解決したい意欲、課題解決への見通し、自分の意見など）が確実なものになり、協同学習が効果的なものになった。</p> <p>一人一人の役割や活動のねらい、ゴールが明確になった協同学習では、生徒が意欲的に取り組むことができ、理解や思考を深めるために有効であった。</p>
西陵中学校	<p>題材を工夫したこと、生徒の疑問や願いを学習課題に反映させたこと、自己選択の場を位置づけたことが生徒の探求意欲の喚起につながった。</p> <p>動の練り合いと静の練り合いを位置づけたことが授業への参加意欲を高め、主体的な学びにつながった。</p>
濃南中学校	<p>生徒主体の学習形態をパターン化して繰り返し行ったことで、どの教科でも意欲的に学習に取り組むことができ、基礎・基本の学習が定着しつつある。</p> <p>生徒が生き生きと取り組むための指導・援助をすることで、授業への参加意欲や集中度が高まり、考えをまとめて書くことができる生徒が増えてきた。</p>
駄知中学校	<p>毎時間の授業において、かわり合いの場の設定とともにかわり合いの評価の場を位置づけたことにより、生徒の意識が向上しかわり合いながら学習を進めていくことへの構えができた。</p>
肥田中学校	<p>単元の構造化・1時間のねらい・評価規準が明確になった。</p> <p>生徒の実態を事前につかむことで、資料・題材の精選や、つまずきに応じた具体的な手立てを考えることができた。また、年間・単元を通して、同じ場・方法・観点で評価することで、教師は指導・援助を検証し、後の指導に生かすことができた。</p>
泉中学校	<p>どこまでできるようになったらいいのか、何ができればいいのかをねらいとして指導することで、生徒同士が学び合い、高め合う姿が見られた。</p> <p>教科ごとの課題提示の在り方、ねらいと評価が一体となるような工夫の必要性が共通理解できた。</p>

紙面の都合で、成果の一部を紹介しました。

詳しくは、『研究紀要 260 平成20年度 学習指導の改善』をご参照ください。

「心にひびく言葉」

## 「率先垂範」

土岐津小学校 石垣 寿子

毎朝始業前に運動場を走っている職員がいます。その後を走っている職員と子どもがいます。この姿は、全校持久走の取り組みが始まってから現在も続いている光景です。

若い頃、よく先輩の先生方から「子どもは先生のやっている通りになる。良い姿を見せればそのようになるし、逆に怠けようとする学級が大変になる。『率先垂範』が大事だよ。」と言われたことを思い出しました。

「走りなさい」というよりも、走っている姿を見ることが子どもたちの意欲につながっていると感じているこの頃です。

では、自分はどんな姿を子どもたちに見せていたのかと自問自答してみると、子ども達と一緒に走ったり、遊んだり子どもたちを見据えて学級経営をしていた時は、『率先垂範』に近い姿があったと思います。

若い時は、とにかくがむしゃらにいろいろなことにチャレンジし、失敗もしてきました。その都度その姿を子どもたちには見せてきました。

しかし、今の立場として何を「率先垂範」しているのか...悩みながら今を過ごしているような気がします。だから、何も動いた姿としては見せていないことになるかもしれません。若い時のようにがむしゃらに動くことは難しいですが、何か行動に移すことができるはずだと...

自分が今よりも一歩でも成長できたとき子どもたちも成長できている。そして、自分を成長させてくれるのは、周りの人たちと子どもたちだと思っています。これからも、子どもたちの成長を願いながら私自身も成長していきたいです。

勤務校の職員の走っている姿こそが「率先垂範」。その姿を見て生活している子どもたちは幸せです。

## 掲 示 板

土岐市教育実践論文 教育実践論文表彰式(2/12)で以下のように受賞されました。

### 《優秀賞》

加藤 隆史(泉 中) 中学校社会科における「生徒による授業評価」の有効性について  
杵淵 容子(肥田中) 読解力を身につけ、内容を的確に表現する能力を高める国語科指導の在り方  
長谷川浩子(駄知中) 伝えたい内容をもち、英語で正しく伝えることのできる生徒

### 《優良賞》

長田 智子(下石小) つくりだす喜びを味わい、発想豊かに楽しく造形活動ができる子を目指して  
水野智恵子(駄知中) 養護教諭として関わる特別支援教育  
小栗 洋之(泉 中) 見たもの感じたものを、主体的に色や形にできる生徒の育成  
高木亜緒生(下石小) 仲間と共に高め合える子の育成 (平成20年度 校内研究のまとめ)

### 《新人賞》

三根由佳利(妻木小) 運動の楽しさや喜びを味わう体育科「まんぞく授業」を求めて  
木下 翔太(肥田小) 科学的思考力を育てる授業づくりを目指して  
服部 悦子(肥田小) 想像と気づきを生かし、作り続けた「自分だけの作品」を目指して  
< 安藤 基紀(駄知小) 自分の思いを文章にのせて表現し、相手に伝えることができる児童の育成 >

東教推 ...一般の部, 優良賞 ...一般の部 入選  
...新人の部 新人賞 ...新人の部 入選

< > ...安藤教諭は東教推枠にて入選



土岐市	教育研究所
TEL	0572-54-1111 (内281)
FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No.442
発行責任者	所長 加藤 紀久朗
発行日	平成21年 3月31日
題字	増田 章 教育長



## 六年生を送る会

撮影 泉小学校

仙石 悟先生

### 少しの不便と少しの苦勞、そして少しのゆとりが生きる

土岐市教育研究所長 加藤 紀久朗

一年は早いもので、年度の終わりを迎えますが、先生方のご指導のお陰で本当に素晴らしい姿で、児童生徒一人ひとりが卒業できることに祝福と感謝をします。

しかし、振り返った時、先生・児童生徒ともに決して満足ばかりではなかったと思いますが、その連続が人生そのものかもしれません。

先生のみならず、誰もが目指す姿に向かって、一生懸命にやってきたわけです。それは子どもも同じかと思えます。しかし、結果がついてこないことや逆に落ち込んでしまうことも何度も何度もあったと思えます。

私自身も、この一年を振り返った時、毎日が一喜一憂であったことが実感として感じています。夜中に目が覚めたり、朝仕事に行くのに足が重い日もありました。経験や年齢からすれば、もう少し楽に構えてやればいいのにと自分自身に言い聞かせながらも力の無さにあきれつつ、それでも、

少しでもなんとかしたいという思いが心のどこかにあった気がします。

人は、腹一杯の時は、いくらおいしいものでも進んで食べたいとは思わないものです。常に満腹状態では新たな食欲はわきません。逆に空腹時は何でも食べたくなります。やはり、お腹の状態は「腹八分目」が良いのではないのでしょうか。腹八分目とは、少しの不便や苦勞がある中で、でもなんとかしたいという思いと同じではないのでしょうか。

毎日の生活の中で、満足よりも、反省や後悔することのほうが多いものですが、必要以上に自分を責めることもないと思えます。

少しの不便や苦勞があっても当たり前と思える気持ちがゆとりです。ほんの少しのゆとりを持って児童生徒を受け止めることができる先生でありたいものです。

# 土岐市教職員特別研修の報告

教育の今日的課題に積極的に取り組んでいる研究先進校等での研修により、土岐市の今後の教育のあり方を学んでいただきたいと、今年度も教育委員会の事業として「土岐市教職員特別研修」を実施しました。今年度は4名の先生方に「奈良女子大学附属小学校」へ出かけていただきました。独自学習と相互学習について研修いただけたのではないかと思います。その一端をレポートにさせていただきましたので、紹介します。

## 教職員特別研修のまとめ

土岐市立泉小学校 西尾 浩

### 1, 研修場所

奈良女子大学附属小学校

### 2, 研修内容

当校では、教育目標を、1 開拓創造の精神を育てる。2 真実追求の態度を育てる。3 友愛、共同の実践を進める。の3点に置き、「しごと」「けいこ」「なかよし」という教育構造をもって「奈良の学習法」を推進している学校である。この「しごと」とは、新鮮な感覚と知性に立って、自由な視点から弾力的に考える、いわば人間としての幅を広げるもの、一般にいう「総合的な学習」がその枠に重なる部分が多いと思われる。また、「けいこ」とは、事理を究明して本質的に自己を生かし、人間としての深まりを育てるもの、いわゆる「各教科学習」がこの分野に含まれる。また、「なかよし」とは、相手を生かし、自己を生かして互いに共同する人間としての結びつきを育てるもの、すなわち私たちの「特別活動」がこの分野に近い。ただ、この呼称は単なる呼称に止まらず、奈良女子附属小学校の教育理念のもとに名付けられたものであることを理解しておかなければならない。

#### (1) 公開授業から

##### 1年生けいこ(国語)「たぬきの糸車」



課題は「おどりながらかえっていくたぬきについてともだちのかんがえをききましょう。」といったもので、子どもたちの意識を焦点化するのではなく、それぞれの子供が自分が目を留めた表現について自由に話すことができる設定となっていた。

子どもは自分の読み取ったたぬきの思いを、どんどんと話していく。基本的な話し方として「たぶん…」という言葉が冒頭につけ、思うこと・考えたこと・感じたこと・分かること・気付くこと・不思議に思うこと、などを豊かに話していた。授業の後半は、教師の無理な焦点化を図るものではなく、「考えがちがうなあと思うこと」の交流からお互いの読みの深まりを確認しあうものとなった。1年生の子どもたちが次々と自分の視点から自分の読みを話し続けるところには、驚かされた。学年当初から「話す」ことの必然性と技術の習得、そして喜びを感じ取ってきたからこそ、1年生でありながらこのような意見交流ができるのだろうと思われる。

##### 6年生しごと「阪神大震災が教えるもの」

この学習は、春休みの「独自学習」から既に始まっている。公開された授業はこの学習の中でも、一年間の各自の学習の成果をどのようにまとめたらいのかを、一人一人検討する(本時は38人目の児童)時間であった。一年間に、積み上げてきた資料が一人一人の子どもの机の上に置かれていたが、資料となる書物はもちろ

ん、ファイルに挟まれた資料は膨大な量になっていた。そのような資料をもとに発表者は話題「気になること」を仲間に「おたずね」として投げかける。その提案について、仲間ら質問や意見が返されるといった授業であった。提案者の話題に対して自分の調べたことと関連させながら応える児童の話し方もすばらかったが、そうした話し合いの最中にも、グループで数人が話題の討をしている姿が見られ、型にはまった話し合いを乗り越えて、学全体が本当の論議の場所となっていることには驚かされた。

春休みに、各自が自分の課題をもって一人で調査を開始できるとや、話し合いで、話し手と聞き手があれほどの確に論議ができるところから、小学校に入ってから6年間の学習の積み上げの大きさを感させられた。

また、こうした「独自学習」は、課題に取り組む者は子どもも個あるが、それを支えるのが学級集団であり、その仲間関係の中で、も一人一人が確固とした強い学習者として成長できることを学ぶができた。



か  
し  
し  
検  
級  
  
こ  
る  
き  
  
人  
で  
子  
ど  
こ

## (2) 分科会から

### テーマ「独自学習から相互学習へー子どもの学びと教師のかかわり方」から

当校では、子どもの追求力を伸ばすために、「独自学習」を大切にしている。それは自分の言葉で考え、表現できることをねらいとしている。

例えば、「しごと」の独自学習の進め方として 課題をもつ。(課題設定の理由「 はどうだろうか」) 予想する。(たぶん...と自分なりの考えを持つ。) 調べる。(書物・インターネットなどの情報の他、各自が現地へ行き体験する。) 考察する。(調べてわかったこと・考えたこと) 感想を持つ。(具体的なもの)の手順で子ども自身が自らの力で学習を進め、確固とした考えをもてる子どもの育成を実践している。

「独自学習」の充実と共に、子どもたちが自ら「相互学習」を進めることができるようにするため、いくつかのことを大切にしている。まず、

- ・日常の活動の中で起きる「もめごと」を大事にし、集団の中で問題を考えさせる。
- ・朝の会における「発表」と「おたずね」(質問)を充実させる。

このような「訓練」は、一般的にいう特別活動(当校では「なかよし」として位置付けている。)において子どもたち自らが活動を創造的に作り上げていく力にもつながっている。高学年の「しごと」の学習で、発表者に対して自分の比較・分析・関連づけながら自分の考えを話す姿が見られたのは、こうした積み上げが着実に行われてきたが故であることがわかった。

### 3, まとめ

今回、奈良女子附属小学校の先進的な取り組みに触れたことで、大きく二つのことを感じた。

一つ目は、同じ教室で仲間と共に学ぶということには、二つの側面があるということである。一つは、仲間と一つの目的に向かって自分のできることをどこまで追究できるか、そして、もう一つは、自分の課題を深く追究していくために、仲間からどのように学ぶかということである。子どもたちに「強く生きる力」を確立するためにも、奈良女子附属の「独自学習」のような子ども個人の力を確かにする必要があると思われる。

二つ目は、このような力は決して短期間に育つものではないということである。1年生の取り組みは、既に6年生の基盤として直結していることを痛感させられた。そう思うと、決して担任する学年で全てが完結するかなのような錯覚をもつことなく、少なくとも6年生になったときの姿をイメージしながら子ども達の力を伸ばすことに真剣にならなければならないと思う。

最後になりましたが、このような貴重な機会を頂いたことに心から感謝申し上げます。

# 教職員特別研修のまとめ

土岐津小学校

有賀 雅美

研修先 奈良女子大附属小学校

研究主題 学習力を育てる学校～「奈良の学習法」確かな学習力を育てるすじ道～

## 1 児童の姿より

### (1) 公開学習 1年生けいこ(国語)「たぬきの糸車」を読もう の授業より



「これが1年生!？」それが、授業を参観したときの私の率直な感想でした。「おどりながら帰っていくたぬきについて、友達の考えを聞きましょう」という学習課題にそって、どんなところがうれしくてたまらないのかを発表し合っていました。「山のようにたくさん糸ができたから」「キーカラカの音が気持ちいいから」「冬の間練習をしてうまくなって、たくさんつむげたから」「おかみさんに糸をつくってあげたことが自分でもいいなあと思ったから」などと次々と意見が出されていきます。それだけでも驚かされますが、1年生なのに、それぞれに読み取りが違っているのです。個々の読みがしっかりとされていることの表れだと思いました。

また、ある子から「わなから助けてくれたおわびができたから」という意見が出され、「おわびはお返しのこと」と意見が出たとき、教師がすかさず、「おわびとお返しは違う」と問い返し、子どもたちに考えさせていました。低学年だからと言って曖昧にするのではなく、1年生から言葉にこだわって読み取りをさせていくことで、確かな力が付いていくのだと感じました。



### (2) 公開学習 4年生けいこ(国語)説明文を読もう「雪国は今」の授業より



授業は先生の力を頼らず、子どもの司会により進められていきます。「雪ダムはどのような計画で現在どのようになっているのだろう」という課題に沿って、一人読みをしたことを発表していきます。自分が驚いたり感心したことから読みを深め、雪ダムについて個々に調べたことをもとにして、自分の考えをもち、意見を述べていました。

ノートに記述したことをそのまま読むのではなく、メモは自分の考

えを述べるための材料となっていました。何を根拠に話すのかを始めに言うなど、話し方も身に付いていて、4年生の児童とは思えない説得力のある話しぶりにここでも驚かされました。





## 2 分科会より

研究テーマ 独自学習から相互学習へ ～子どもの学びと教師のかかわり方～

### (1) 独自学習のめあて

この学校では、子どもの追求力を伸ばすために、独自学習を大切にしています。自分の課題を見つけ、自分なりの予想をたて、自分で調査や研究に取り組むことによって、子どもは子どもらしい考えをつくりだすことができるという考えから、「自分の言葉で考え、それを表現できる力をつけること」が、独自学習のめあてになっていました。自分の考えを自分の言葉で語れるまでに独自学習を充実させることによって、相互学習を深まりのある学びあいに行っているのです。そのために、やはり相互学習の前に独自学習の時間を十分に確保していました。参観した4年生の国語では、7時間を独自学習にあてていました。そうすることが子どもの追求力を高めるという信念により、カリキュラムも学校独自のものをつくって実践されていることがわかりました。

### (2) 教師のかかわり方

独自学習をしたことをただ発表し合うだけにならないように相互学習を支えているのが、教師のかかわり方です。子ども同士で読み深めることができる相互学習（聞き合い）を目指すために、学びの深まりが生まれる聞き合いのテーマを子どもの思いを生かしながら、教師も共に関わって、テーマを決めていく必要があると考えていました。

それから聞き合いの中でもう一つ大事にしているのはおたずねし合うということです。「おたずね」とは、お互いの発表に対し、質問し合うことです。1年生の国語でも、授業の後半で、おたずねし合う時間を位置づけていました。1年生のうちから聞き合うことで、学び合いの基礎がつくられていくと感じました。子どもたちが、対話をしながら、学習をつくり、思考を深めていくことができ、受け答えによって味わう自信、満足感、不備、考えの浅さが次のステップへ進ませることを学びました。

## 3 最後に

私が参観した国語の授業は、普通教室の3倍ぐらいある集会室での公

でした。それでも、その教室にはあふれかえるほどの参観者がいました。

の中で、マイクを使って自分の考えをとうとうと述べる子どもたちの姿

圧倒されました。一貫した教育を1年生から積み重ねていくことで、こ

なにも力が付くものかと日々の指導のあり方をあ

たためて考えさせられました。また、熱心に参観さ

ている多くの先生方の姿にも触れ、刺激を受けて戻ってきました。

さらに、今年度ご退職される都留進先生の記念講演「奈良の子どもと造形学習」を拝聴

できたことも、図画工作が専門の自分にとって、とても幸運なことでした。都留先生が造

形学習で大事にされてみえたことは、すぐにまねできることではありませんが、自分の実践に少しでも役立てていきたいと思いました。たいへん貴重な研修をさせていただき、ありがとうございました。



開  
そ  
に  
ん  
ら  
れ



# 教職員特別研修のまとめ

土岐市立土岐津中学校 園原久徳

- 1 研修日時 平成21年2月13日
- 2 研修場所 奈良女子大学附属小学校
- 3 はじめに

研修の視点 「相互学習」の中でいかに個の力を伸ばしているか

今回研修に行かせていただいた奈良女子大学附属小学校の資料を事前に見て、興味を引かれた言葉は「独自 相互 独自と進む学習力を育てるすじ道」「独自学習から相互学習へ」といったものであった。土岐津中学校では「協同学習」に取り組んでいるが、本年度の研究実践の課題としてあげられたことの一つに、「協同学習の中で、個の生徒の基礎・基本は本当に身につけているか」というものがあった。来年度は協同学習を継続しながら、その中で個の指導がどうあるべきか、さらに研究を深める予定でいる。そこで今回の研修では、奈良女子大学附属小学校は「相互学習」の中で、どのように個の力を伸ばしているかという部分に焦点を当て、教師の指導や子どもの姿を参観した。

## 4 奈良女子大学附属小学校の教育

独自学習・・・自分で願いをもち、方法を考え取り組むのが独自学習である。相互学習の前に行う独自学習と、相互学習の後に行う独自学習がある。多くの場合、授業外の学習。

相互学習・・・仲間と共に学び合い、聞き合いで学びを高めたり、深めたりする学習。授業における学習。  
けいこ・・・いわゆる「教科」の学習 / しごと・・・いわゆる総合的な学習の時間

## 5 「けいこ」5年理科 結果から考察していこう～電磁石と電流の発熱～の授業から

電磁石の学習である。内容としては、個人、またはグループで設定した個人課題についてそれぞれの実験方法で追究し、その結果を交流するというものであった。37人の学級が、2～4人、13のグループに分かれて実験を行っていた。丁寧なノート指導

各グループの追究をまとめるものとして画用紙のレポートを作成していたが、それとは別に一人ひとりの児童が予想や結果、考察を自分のノートに書く時間がしっかり確保されていた。本時のような学習形態の場合、特に研究発表会のような授業では班のテーマや結果は丁寧にまとめられていても一人ひとりのノートにはそれらが残されない授業も多い。そうではなく、確実に時間を確保し、一人ひとりの児童に見通しや考えをもたせる指導がされていた。また、「表をつくる時には定規を使わないとだめだよ」と、丁寧な声かけもなされており、どの児童も大変丁寧に、美しいノート作りがされていた。



各グループの課題を記した板書



定規を使って表、グラフが丁寧に記録されたノート

### 教科の力を育てる指導

随所に、子どもの「理科」の基礎・基本を身につけさせようと意図した指導が見られた。例えば、「何度か試しをやってから、実験を始めてね」「何回かやって平均を出すといいよ」といった、正確な記録を得るための指導があった。また、鉄芯以外では電磁石にならなかったことを調べた班に「0（ゼロ）」ということを実証することが大切だよ」と価値付け、追究する際の思考の進め方の指導もされていた。また、机上を整頓すること、立って実験することといった基本についても随分声をかけていた。2月という時期から、声をかけなくてもできるとよいことではあるが、できないのであれば繰り返し指導することが重要であると感じた。

### 思考力・表現力を育てる指導

考察の段階になると、多くの児童が各自持参した教科書や、参考書を開き、活用していた。写真の児童は、中学校用参考書のモーターのページを読んでいる所である。「独自学習」の中でこうした情報を活用し考える力が育っていると考えられる。

また、考察の後、班ごとに作成した資料を用いて全体発表を行った。子どもたちは、驚くほど短時間に見やすい資料を作成することができていた。また、説明の仕方も分かりやすく、表現力の高さが感じられた。教師の「質問できる聞き方をしましょう」という声かけがあり、相互学習で、一人ひとりの思考力をさらに深めようとする意図が感じられた。



持参した参考書を活用し、考察する児童



作成した画用紙の資料を用い発表する児童

## 6 「しごと」日本研究「エネルギー問題について考えよう」の授業から

この授業は、総合学習の発表会の形式で、教師は全く前面には出ず、学習のほとんどを今回発表に当たっている一人の児童が進めていた。発表者以外の児童も本時の発表者のテーマに対し事前学習をしてきており、発表を聞いた後に質疑、エネルギー問題における討論が行われた。この学習でも、多くの児童が各自の資料を持ち込み、分からない言葉や内容を調べていた。また、発表の内容は原子力発電の是非が中心だったが、核分裂、核融合といった内容まで踏み込んだ大変高度なものであった。分科会では、「知識の豊富さを求めるものではない」という説明がされていたが、発表する児童の表現力、討論する児童たちの思考力の高さにこの「しごと」の学習のねらいとする、社会生活のありかたを考える力の高まりが感じられた。



一人の児童の発表に対して意見を言合う「しごと」の時間

## 7 終わりに

学び合いの中ではその集団での学習の成立に目が向き、その中で個の力がどれだけついたか、という一番肝心な部分を見落としがちである。そうではなく、思考力や技能が高い子どもに対しても確実な力をつける指導をすることの大切さを改めて勉強できた。

これからの自分の実践や、来年度の本校の研究実践に生かしていきたい。

# 研修を生かす

平成21年2月13日(金)

研修場所 奈良女子大学附属小学校

土岐市立肥田中学校 杵淵 容子

2つの授業と分科会に参加させていただいたが、授業を支えていた奈良女子大学附属の「奈良の学習法」について簡単に述べておきたい。

## 1. 奈良女子大学附属小学校の教育構造「しごと」「けいこ」「なかよし」

奈良女子大学附属小学校では、学習生活を「しごと」「けいこ」「なかよし」の三つに分類していた。

「しごと」は、自然、人間、社会の真実の姿を求めて、身近な現実の問題を追求する総合的な単元学習の形態をとっている。

「けいこ」は、人間形成の実質的な内容となる基本的な能力を、生活の手段として確実に習得させるため、特定の目標に応じた分科的な学習形態をとっている。(国語や理科や算数など)

「なかよし」は、学校内において自分の所属する有意義な集団をつくり、集団生活を改善し、新たに建設していくことを主眼とし、学級を解体した小集団による実践的な学習形態を中心としている。

## 2. 独自学習と相互学習

普通一般に「ひとり学習」「個別学習」などと称している学習形態を「独自学習」と呼んでいた。それに対し、「協同学習」「全体学習」にあたる学習形態を「相互学習」としていた。奈良女子大附属小学校では、学習を「独自学習に始まり、相互学習に及び、更に独自学習に終わって完結する。」としていた。

## 3. 公開授業 けいこ(理科) 結果から考察していこう～電磁石の学習～

より強い電磁石を作るにはどうすればよいのか実験を通して追究していく学習であった。独自学習で個別的な追究がなされるよう、事前に児童にエナメル線が30メートルほど渡されており、実験器具がグループごとに用意されていた。

各グループの実験結果は、模造紙にペン書きでその場でまとめられ、全体発表へとつながっていった。全体発表では、結果を報告するだけでなく、発表者が必ず「おたずねはありませんか。」と尋ねていた。この「おたずね」は、発表に対する質問のことであるが、その核心をつく質問内容に驚かされた。

- コイルの巻き数と磁界の変化について調べたグループの発表から -

S1「おたずねはありませんか。」

S2「磁界の限界ってどこまでですか。肉眼で計れるところまでだと、正確に巻き数が2倍になると磁界も2倍になるとは言えないのではないですか。」



模造紙を使って発表する児童

児童の素晴らしいところは、参考書の持ち込みが許されている授業なのだが、参考書に書かれていることを鵜呑みにせず、実験結果から事実を見つめ、確かめようとしているところだと感じた。

また、モーターの巻き数について調べた児童は、感想を言う場面で、「実験では、モーターがうまく回らないときがあった。竹串の削り方などに差があったからだと思うが、家でもやって確かめてみたい。」

模造紙を使って発表する児童 と言っていた。相互学習を終えた後、再び独自学習へと戻っていく児童の姿が垣間見られた気がした。

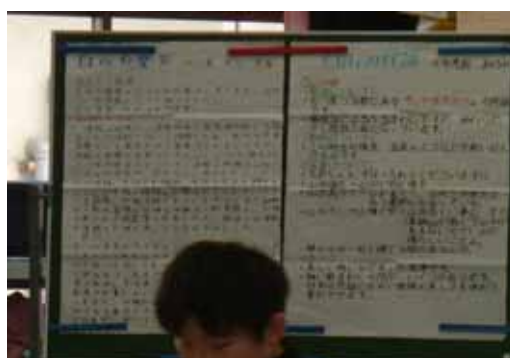
#### 4. 公開授業 けいこ(国語) 説明文を読もう「雪国は今」

独自学習(ひとり読み)に取り組んだ後、相互学習(聞き合い)によって考えを深める授業であった。授業の司会は児童が行っており、本時のめあてから始まり、音読、聞き合い、先生の話の順にマイクを使って進めていた。音読は形式段落ごとに交代で読まれていたが、それぞれの児童が大切であると思われる言葉を強調して読んでいた。また、それに対して司会者が感想を求め、指名された児童は音読からどんなことが伝わってきたのか評価していた。

本時は「雪ダム」について書かれているところから、考えたことや気づいたことを聞き合う授業であったが、児童が本文の内容に自分で調べたことを付け加えながら話をしていった。ここでも、雪国の暮らしについて自分でテーマをもって調べるという相互学習の前の独自学習が生かされていた。



独自学習を支える支援



独自学習をまとめた掲示



児童の司会によって進む授業

#### 5. 分科会「独自学習から相互学習へ子どもの学びと教師のかかわり方」より

算数科の「街角の算数」と称した児童の算数研究(独自テーマの自由研究)について説明されていた。私が参観した時は、4年生の児童が中学2年生で学習する相似の証明を発表していた。この算数研究の発表の時間は、年間150時間ある算数の時間のうち、100時間で基礎基本を習得した残りの50時間があてられているそうだ。相似の内容を全員が理解することをではなく、算数に対して「面白いな。知らなかったことを知ることができた。」という気持ちをもたせることをねらっていた。身近な算数について自分で分かろうとして動き出す児童を育てようとする試みであった。

国語科では、説明文を読む際に一人で読み深める独自学習の後、聞き合いの相互学習を位置づけていた。独自学習の発表で終わらず、聞き合いを目指すために、学びの深まりが生まれる聞き合いのテーマを教師が設定することが大切であるという。また、授業を見ていて児童から発せられる「おたずね」が話し合いを深め、分からなかったことを分かるようにし、聞き合いをして良かったと思える児童を育てるのだと話されていた。

#### 6. おわりに

奈良女子大学附属小学校の児童は、算数研究(独自学習)などの授業でも必ず見られた「おたずね」(相互学習)によって追究力が育っていた。「おたずね」を受けるのは、児童にとって試練であると思われるが、最近では仲間からの「おたずね」がないと返ってがっかりしてしまう児童もいるのだという。逆に、どうしたら「おたずね」ができる子どもに育つのかという疑問も湧いてきた。参観させていただいた理科の授業でデータについて「おたずね」した児童がいたように、教科によって「おたずね」の内容が指導できそうである。まずはそこから模索し、互いに練り合い、磨き合う子どもの姿を是非自分の授業にも取り入れていきたいと感じた。

今回、一緒に同行していただいた教諭の方からもいろいろなお話を伺うことができ、大変有意義な時間となりました。このような機会をいただけたことを心から感謝しております。ありがとうございました。

「心にひびく言葉」

「春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら慎む」 西陵中学校 桐井雅康

新しい職場や初めての人と出会う時、いつも不安で緊張してしまいます。

五年前、岩村に赴任した時、地域の方にとっても親切にしてくださいました。見ず知らずの私に、気さくに声をかけていただき、岩村の街を案内してくださいました。佐藤一斎顕彰会の堀井という方でした。「佐藤一斎の言葉の中で、私は『春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら慎む』という言葉が一番好きなんです。」微笑みながら、何気ない調子で堀井さんは語られました。その時、堀井さんからは、まさしく春の風が吹き出して、新任地への不安で固まっていた私の心に温かな思いが広がったことを今でも覚えています。

言葉を知っていることと、言葉の意味が実行できることは大きな違いがあります。理屈ではそう

分かっている、実際にはなかなかできないのが人間ですが、堀井さんの姿は、言葉どおりの姿だっただけに、感動とあこがれを覚えました。

以来、私の座右の銘は、「春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら慎む」となりました。初対面の人と接する時、先生方や生徒達、保護者や自分の家族と接する時、「春の風」を意識して接するようにしているつもりですが、未熟なためなかなか堀井さんのようには行きません。ましてや「秋霜をもって自ら慎む」に至っては、まさしく赤面の至りです。でも、今はまだできなくとも、意識にある限り、少しは進歩していけるはずと自分に言い聞かせています。いつかは、堀井さんからもらったあの感動を、私も人にあげられるようになりたいと願っています。

### 掲 示 板

「卒園・卒業 おめでとうございます」

\*幼稚園卒園児 408名 \*小学校卒業生 573名 \*中学校卒業生 599名

東教推教育実践研究奨励賞【教材・教具の部】 入選 おめでとうございます

泉中 加藤 明覚(技家)...ロボット種蒔き2008A1部門 試作機2号

教育文化賞 おめでとうございます

3月3日、土岐市文化プラザ・ルナホールにおいて、土岐市内の教育・文化の向上やスポーツ・音楽などの分野で優秀な成績を収めた人に贈られる教育文化賞の授賞式が行われました。



教育功労賞	3名	優秀学校賞	1校
文化賞	6名と3団体	学習賞	18名
		スポーツ賞	20名と1団体

新しい本を購入しました

\*自己心理学 社会心理学へのアプローチ

\*描写心理学双書 絵による児童診断ハンドブック

研究所には書籍や資料が多数あります。書籍類については貸し出しをしておりますので、お気軽に教育研究所へおこしく下さい。

「教育とき」のご愛読、ありがとうございました。

